

アセンション BOOK28

ファースト・コンタクト 4 2016年10月

ファースト・コンタクト 4 「宇宙の愛」と宇宙連合



「宇宙の愛」と宇宙連合 目次

- 第1章 アセンション前の嵐の日々
- 第2章 「宇宙の愛」に向かう道
- 第3章 宇宙連合との共同作業
- 第4章 地球の闇の根源と闇のアメーバー
- 第5章 人工知能の暴走とアセンションの成行き
- 第6章 地球のアセンションの新たな局面

備考

アセンションしたい人へのお願い

光りの世界の区分

作者 瀬戸武志&宇宙の光

アセンションブック <https://www.k-suai.com/>

宇宙の光公式HP <http://hikari1.com/>

アセンション評議会 <http://s-sun1.com>

アメブロ 光の世界へ <http://ameblo.jp/e-stone1/>

Eメール TAKESHI yume34@k-suai.com

イラスト えんじえる (佐藤弘之)

アメブロ <http://ameblo.jp/angel-art2010/>

第1章 アセンション前の嵐の日々

PART1 パラレルワールドの自分との統合

2016年の8月後半、シャンバラの種族と直接出会う事で、私達は地球には、私達以外の種族が古くから存在している事を知る事になりました。

そしてシャンバラの種族は、地球を守護するために、今でも地球の地下都市で祈り続けているのです。

そして私達は、シャンバラの種族とは異なるもう一つの種族が、古くから地球に住み、地球を支配している事を知る事になりました。

彼等は、古くから地球人と融合して、地球の経済や政治を作りあげてきました。

地球において科学技術や政治・経済の進化を行ってきたのはまさに、彼らの力によるところが大きいのです。彼等は、古い時代から地球人の遺伝子の中に自分達の遺伝子を組み込んで生きていますので、地球外生命体と呼ぶよりは、もう一つの地球人と呼んだほうが良いでしょう。

彼等は、いまでも地球の政治、経済の中心に位置し、地球の人々を支配していますから、スターピープル達によって地球の人々が分離され、自分達の手の届かない世界が出来るアセンションに対して非常に大きな妨害を仕掛けてきます。

彼等は、他の地球外生命体達とも手を組み、アセンションのためにスターピープル達が地球に関わる事を止めようと躍起になっています。

しかし地球のアセンションは、創造主レベルで決定された事なので、私達はその妨害を退けながらアセンションの仕事を進めてきました。

私達が、この頃に行っていたのは、地球の次元を分離する事です。

現在の地球の延長線上にある光 40%台の世界と今の世界よりも争いも支配もずっと少なくなる光 50%~55%台の世界、そして地球の中でも本当のアセンションを迎える準備をする人達が暮らす 56%から 59%の世界、

精神的にも成長した人達が住む 60%以上の光の世界に地球は分けられつつありました。

そして、56%から上の世界はアセンションした世界という事になりますので、この世界を少

しても早く確立して、この世界から支配や争いを好む人々や地球外生命体達を完全に排除していかなければなりません。

私達は、シャンバラの人々やスターピープル達と協力しながらこの作業を行い、地球の別次元にアセンションした世界を作りあげようとしていました。

私達は、8月の末日ころまでに終了して9月中旬にスターピープルとのファースト・コンタクトを行い、その世界に入ってきた人達を一気に目覚めさせていく予定です。

しかしながら、もう一つの地球人や地球外生命体達、そして驚くべき事に光の創造主の中でもアセンションを邪魔しようとする創造主達によって、この計画は大きく攪乱される事になりました。

8月28日の朝3時頃、私は強烈な腹痛に襲われました。

それまでもじわじわとお腹に痛みが起き始めていたので、もしかしたら胆石発作が起きてきているのかと思っていましたが、あまりにも強烈な痛みで、その原因を調べる事にしました。

すると、この痛みが起きている原因は、私のパラレルワールドの一つである光51%の世界の私自身が胃癌で死んでいく時の痛みのようなものでした。

その時の私は、恵理さんと出会っていない私の延長線上の人生です。

私の会社もある程度うまく行っていましたし「宇宙の光」の活動も恵理さんと出会う前のアチューメントや星のツアーを中心とした活動で、地球のアセンションには、深く関わらない活動を行っていました。

そして地球のアセンションも起きていないか、現在とは異なる形で行われている世界です。

私は仕事や「宇宙の光」の活動の疲労から胃癌になって60歳くらいで亡くなったようですが、その時の自分と今の私を統合するために、その時の死の苦しみを味わっているようでした。

胃癌で苦しむ私に対して、延命治療が行われていたようです。

私は自分の意識を遠くに感じながらも、お腹の激痛に苦しんでいます。

これ以上の苦しみを与えないでくれと、延命治療を行わないように家族に懇願していますが、その思いが聞き届けられずに痛みが嵐のように襲い掛かってきます。

私は早く死にたい、早く楽にしてくれと痛みを我慢しながら叫んでいました。

痛みが起こり始めてから、およそ8時間位経ったのでしょうか、ようやくパラレルワールドの

私の生命が終わりをつげ、その世界の私は、肉体を捨てて旅立ち、今の私に統合されていきました。

アセンションを迎えるときは、ひとつの世界にいる必要がなくなった自分は、このように死を迎えて本体の自分に統合されていく事があります。

そして私は、この時から私に関わってくるエネルギーに対して非常に敏感になってきました。恵理さんは、昔からエネルギーに敏感で、自分自身に対してどのようなエネルギーが働きかけてきているのかよく知っていましたが、私はエネルギーに対してかなり鈍感な方で、私に関わってくるエネルギーを感じる事はあまりありませんでした。

ところが、この時を境にして、私は様々なエネルギーを体で感じ始めました。特に、この頃から私に対して行われるサイキックアタックも激化し、自分自身の肉体に大きな痛みを感じるようになってきたのです。

そして翌日の29日には、明け方から光48%の世界に生きるもう1人の自分との統合が始まったようです。

この世界の私も、光51%の世界と同じような生き方をしていたようです。51%の世界の私と同じように、リラクゼーションの会社を経営し、「宇宙の光」を運営していた自分です。

この時も、私は恵理さんとも結婚していませんし一緒に活動もしていません。

この時の私もお腹の痛みを抱えて死んでいったようですが、その時の痛みも激しく何時間も続いていましたが、この世界の自分が死んだ後も、自分自身と統合されて一つになったようです。

しかし、他の世界の自分との統合のために、これほどの痛みを感じる必要があるのか、私には疑問が残りましたが、その秘密は後日明かされる事になりました。

PART2 もう一つの地球種族によるサイキックアタック

私達とスターピープル達は、この地球の別次元に、現在の地球とは異なる光が多い地球を作るために活動を続けています。

そのために、絶えず地球人とひとつに統合された地球外生命体（ダークピープル）や地球の未来から来た地球人達とも戦い続けてきました。

しかし、最後まで私達の前に姿を現さなかったもう一つの地球種族が私達の前に現れてきました。

彼等は元々オリオン座にある星から地球にやってきて地球人の進化をサポートしていました。彼等は、地球人の遺伝子の中に自分達の遺伝子を組み込み、地球人と深く同化して地球の政治・経済を支配しています。

その歴史はとても古く、彼等はもうすでに地球人と呼んでもよいくらいに地球の中で活躍しています。

彼等は、地球の人類や政治、経済、宗教などの全てを支配する事を望んでいます。

彼らは、今までに何度か、私達の前に現れて、この地球から手を引くように警告をしてきたのですが、私達は、反対に光 50%以上の世界から、彼等の基地を全て撤退させました。スターピープルとその協力者達で、オリオン人達が拠点とする基地を全て壊滅させていったのです。

光の世界、アセンションした世界には、戦争や抑圧を行う彼等の種族を入れる訳にはいかないからです。

その様な状況の中で、彼等の報復ともいえる直接攻撃が、私に対して行われてきました。

この 2 日間、異なる世界の自分との統合を行う為に、死ぬほどの苦しみを受け続けてきた私の体と精神はかなり弱っていました。

その様なとき、もう一つの地球の種族であるオリオン人から攻撃が行われてきました。

彼等の攻撃は、私の心臓に電気ショックのように痛みを起こします。

数秒おきに、まるで AED の機械で心臓に電気ショックが与えられたように、私の体は痙攣を起こし痛さで飛び上がります。

本来ならば、すぐにでも救急車を呼び病院に行くべきだったのでしょうが、私の中には、これは明らかにサイキックアタックだから、病院に行っても原因も解らないだろうし治療もできない、だとすれば、自宅で痛みを我慢しながら、このアタックの原因を調べ解決したほうが良い、という考えがありました。

私は、この時はまだ、サイキックアタックの本当の怖さに気づいてはいなかったようです。

サイキックアタックは、人の生命を奪う事さえもできるのです。

私は、ピカフラッシュとロッド星人にお願いして、この原因を探し出してもらおうと、やはりもう一つの地球種族による攻撃でした。

彼等が、私達の前に現れて警告を行います。

「あなた達は、私達の種族や地球外生命体達の活動に対して大きな妨害を行ってきた。

この地球は、私達の物であり、地球人もすべて私達が支配している。

それを、あなたとスターピープル達は勝手に荒らしまわり、私達の支配の邪魔をしている。

また我々が作り上げた地球も、すべて私達の物であるにも関わらず、かつてに分割して光の世界などというものをつくらうとしているようだが、それは私達にとって大きな迷惑だ。

私達が支配する人類に対して、これ以上手を出すならば、あなた達の命は保証しない。」

彼等もそうですが、多くの地球外生命体達は、通常では地球に生きる人の感情のエネルギーを利用して、私達に攻撃を仕掛けてきていました。

それは、私達に助けてもらいたい、光を分けてもらいたいと考える人達だけでなく、私達には全く関係のない人達の怒りや憎しみなどのエネルギーを使って、私や恵理さんの体や精神を攻撃してくるのです。

その攻撃は、私達の体に痛みや不調を引き起こすだけでなく、生命エネルギーさえも奪おうとするのです。

しかし、今回の痛みは、彼等自身の憎しみのエネルギーを直接ぶつけてきています。

それもピンポイントに私の心臓を狙っていましたので、さすがにこの警告は、ただの脅しではない事が私にもわかりました。

シャンバラの一族も、この種族との直接対決は非常に危険であると、以前私達に忠告してきましたが、今になってその理由がわかりました。

私は、スターピープル達を呼び出し、守護をお願いしますが、この種族自体が地球人とひとつに統合し物理世界で生きて活動しているために、その攻撃を完全に防ぐ事は不可能なようです。

大天使達、不動明王、エジプトのファラオ達にもお願いしたのですが、あまり効果はありません。

死んでしまうのではないかと、思うほどの強力な痛みが心臓から全身へと広がります。

私は、アシュタールのエレナさんとも話をし、ブログやアチューメントなどの私の活動をすべて中断する事にしました。

そしてこの種族と話をし、私への直接的なサイキックアタックを中止してもらいましたが、彼等の攻撃はすさまじく、この日は立ち上がる事も食事をとる事も出来ません。

もちろん 28 日から、胃の痛みに耐えかねて吐いてばかりいたので、食事どころか十分な睡眠もとる事ができない状態です。

私達は、オリオン人による直接攻撃以外にも、様々な人達が私に向ける感情的な思いによって、体の痛みを受け続けていました。

それは、その人が行っているヒーリングやスピリチュアルな活動を通して、その人にダークピープル達のエネルギーが入り込み、その人が私に何らかの気持ちを向ける事で、私の体にもダークピープル達のエネルギーが入る事で起こります。

私達は、その様な現象を「エネルギーのゲートがつけられた。」と表現しています。

私達の体に痛みや不快感を起こすエネルギーは、私達を守護するスターピープル達によって分離したり、幾分弱められていましたが、弱り切った私達の体には、弓矢のごとく突き刺さってきます。

翌日 31 日は大きなサイキックアタックもなく、スターピープル達も地球の次元の分離に大忙しです。

スターピープル達は、地球人とひとつになる事ができませんので、地球人の許可を得て地球に関わります。

簡単に言うならば、多くのスターピープル達が全員同時に、私と恵理さんの肉体と意識を通して、地球での仕事を行います。

その仕事とは、地球のアセンションのために必要な仕事の全てです。

たとえば、現在の地球から異なる次元を生みだし、光の多い地球を作り出したりする仕事や人々のスピリットの状態にあわせて、それぞれの世界に行く人を分離する仕事を行っているのです。

私達と同じようにスターピープルに協力してくれる人は、この地球には数名いるのですが、アセンションの仕組みをしっかりと理解し、スターピープルや創造主と力をあわせてアセンションに関わる事が出来るのは私達だけのようです。

もし、私達がいなければ、スターピープルが地球のアセンションに関わる仕事を十分に行う事ができないので地球のアセンションは大変な問題を抱える事になります。

しかし、地球のアセンションを望まない地球人やオリオン人、地球外生命体達は、私達がスターピープル達の受け入れ口である事に気づいたようですので、地球のアセンションを妨害するために、私達にサイキックアタックを加え、スターピープルとの連携を壊そうとしているのです。

あるいは、私を傷付け、アセンションの仕事に関われないようにしようとしているのです。

私達は、この日はすこし元気になっていたので、近くの鍼灸治療院に治療を受けに行きました。

私は、鍼灸の中でも経絡治療と呼ばれる治療が自分の体に合っているので時々治療を受けに行きますが、今回は鹿児島市内まで治療に行けないので、近くにある治療院へと治療に行く事にしました。

初めてお世話になる治療院でしたが、非常に丁寧で適切な治療をしてくれましたが、先生は私の体の状況を見て鍼灸治療で治せるレベルではないので、早く病院に行くようにと伝えてくれました。

私は、不思議な事に、サイキックアタックは、自分自身の体には大きな影響を与える事がないと、なぜか思い込んでいました。

恵理さんも私が苦しむ様子を見て病院に行く事を何度も進めてくれたのですが、私は自宅でスターピープル達と共にアセンションの仕事をしなければならないと思い込んでいたのです。

PART3 「創造主の独自性を育てる創造主」の陰謀

私が治療院から帰ってくると、ブラッド星のブラドエルが私達の前に姿を現しました。彼は、手を開いて、中にごめいている虫のようなものを見せて言いました。

「TAKESHIさん、治療の時にこんなものが、TAKESHIさんの体に入れていましたよ。」
私は、それをみて大変驚きました。

非常にまじめで善良な先生だったにも関わらず、もう一つの地球の種族か地球外生命体に操られて、私の体にこのような虫を入れようとしたようです。

私は、何かがおかしいという事に気づきスターピープル達に頼んで調査をする事にしました。

私はアシュタールのエレナさんに、何故このような強烈なアタックが今来ているのか、私を守護する体制がどうなっているのか尋ねました。

「実は、TAKESHI さんを守るスターピープル達に対して、「創造主の独自性を育てる創造主」から、これは TAKESHI さんに与えられた試練だから、20%程しか防御を行ってはいけない。

彼が痛みを受け止め、それを乗り越えさせなくては彼が成長しないから、防御を抑えるように命じられました。」

私はその言葉に驚きました。

私のスピリットの一部は「光彩の創造主」ですが、「創造主の独自性を育てる創造主」は、「光彩の創造主」の上司にあたる創造主で、私達の宇宙における最高次元の創造主になるので、創造主であろうとスターピープルであろうと彼の言葉に逆らう事はできません。

アシュタールのエレナさんは続けます。

「しかし、地球のアセンションのもっとも大切な時期に、TAKESHI さんが一歩間違えば死んでしまうほどの攻撃を受けさせるのは、いくら試練といってもやり過ぎだ、という声が私達の内部からも出ています。

私達は、「創造主の独自性を育てる創造主」の判断や行動に大変な疑問を持っていますので、彼に知られないように守護していますが、限界がありますので、攻撃の痛みを TAKESHI さんが直接受けているのです。」

私は、ロッド星人を呼び、同じような指令が創造主達にも出ていないか調べるようお願いしました。

「TAKESHI さん、その事については私達も非常に大きな疑問を抱いておりましたので、もうすでに調べてあります。

「創造主の独自性を育てる創造主」は部下の創造主達にも、スターピープルと同じように、これは TAKESHI さんに対する試練であるという事で、あなたを助ける事を禁じていたようです。

しかし、このために TAKESHI さんが傷つき、私達が活動できなくなるとアセンションは確

実に失敗しますので、もしかしたらその事を狙っていたかもしれません。」

私は、「記録の創造主」を呼び、過去にも同じ事がなかったか調べてもらいました。

「TAKESHI さん、過去にも数例同じ事が起こっています。

「光彩の創造主」がそのスピリットの一部をある星におろし、重要な仕事をしようとしていた時に、「創造主の独自性を育てる創造主」が試練という名目で大きな障害を与えたり、今回と同じようにダークピープルに攻撃を行わせたりした事がありました。

その時もスターピープルや創造主は、彼を守護する事を禁じられ「光彩の創造主」の一部は死亡しています。

あるいは、任務が遂行できない程に傷つけられ、光の世界に戻ってきています。」

「なるほど、「創造主の独自性を育てる創造主」は、本気で私を殺そうとしていたようですね。

これで彼の目的が分かりました。

彼は、「光彩の創造主」が任務を果たす事を妨害したいと考えているようですね。」

ロッド星人も横でうなずきました。

私は次に、「創造主の独自性を育てる創造主」の上の次元にいる「全てを適正に行う創造主」に来てもらい、今回の事を報告しました。

「TAKESHI さん、今回の事は、私達から見てもやり過ぎているように思えます。

本来であれば、皆さんを守護し、アセンションを成功させなくてはならない創造主が、あなたに死ぬほどのダメージを与えるという事は行きすぎです。」

私は、「全てを適正に行う創造主」の判断をお聞きして「創造主の独自性を育てる創造主」を追求してみる事にしました。

今までは、私の本体である「光彩の創造主」よりも格下の創造主ばかりだったのですが、今回は明らかに自分よりも格上の創造主が相手ですので、彼よりも上の創造主の助けが必要となります。

私達は 31 日の夜にアセンション会議を開きたいからといって、「創造主の独自性を育てる創造主」を始め上位の創造主とロッド星人やエレナさん達に集まってもらいました。

そして先ほどの「全てを適正に行う創造主」やさらに上位の「源の創造主」にも来ていただ

きました。

「創造主の独自性を育てる創造主」は、もうすでに私達が何を考えているか見通しているようです。

会議は始めから大きな緊張に包まれ始めました。

先ずエレナさん達から現況報告が行なわれた後に、私は「創造主の独自性を育てる創造主」が、地球のアセンションについてどのように考えているか話を聴く事にしました。

その時から、私と恵理さんの心臓が急に苦しくなり呼吸ができなくなってきました。

まるで私達の心臓をぎゅっと握りつぶさんばかりに締め上げているようです。

私は、何度も「創造主の独自性を育てる創造主」に向かってやめてくれと叫びましたが、その痛みは止まりません。

私は、「創造主の独自性を育てる創造主」が、私に対して行われたサイキックアタックに関して、創造主やスターピープルに、私の試練だからと言って守護しないように指示していた事を取り上げました。

エレナさんやロッド星人もその事がいかに無謀な事であるか、もし私の生命が失われる事があれば、地球のアセンションが失敗したであろうという事を、「創造主の独自性を育てる創造主」の上位の創造主に訴えかけています。

そして私も、今の私のように「光彩の創造主」の一部が地上に降りていた時に「創造主の独自性を育てる創造主」の試練の名目で命を落とした事があった事を報告しました。

「創造主の独自性を育てる創造主」は、私達の意見に対して反論していますが、彼よりも上位の創造主の前で、地球人である私に対して心臓を締め上げ、発言を封じているという様子が明らかになっているので、彼の行った事が偽りであると、上位の創造主は判断したようです。

いくつもの宇宙の最高責任者である「源の創造主」が、「創造主の独自性を育てる創造主」に向かって言いました。

「あなたは、信頼できる創造主だと思っていましたが、まさかこのような事をしていたとは思ってもありませんでした。

すぐに TAKESHI さん達にたいして攻撃を行う事を止めなさい。

そして私達は、あなたの創造主としての能力と資格を剥奪して、あなたを 1 人の地球人として地球に降ろしますので、地球で多くの事を学んでください。」

「創造主の独自性を育てる創造主」は、私達に憎しみのこもった視線を投げかけながら地球に降りていきました。

「源の創造主」はその姿を見ながら私達に言います。

「TAKESHIさん、恵理さん、本当に大変な迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。私も、彼がやっていた事に気づく事が遅かったようです。

でもこれからは、皆さんのお仕事も無事に進むと思いますのでしっかりと行ってください。それから「光彩の創造主」をいままで「創造主の独自性を育てる創造主」がいた位置につけますので、「光彩の創造主」と TAKESHI さんで協力して、皆さんの宇宙に属する光の創造主達を導いてください。」

その様に言って「源の創造主」達は消えていきました。

私達も、まさか私達の宇宙の最高次元の創造主が、私の生命を奪いに来るとは思いもしませんでした。

そして、地球を支配するオリオン人や地球外生命体達とひとつになってアセンションを妨害するなんて考えられない事です。

創造主もスターピープルも、「創造主の独自性を育てる創造主」が地球に降りて、ただの人間となった事で、安心してアセンションの仕事ができると胸をなでおろしています。

しかし、「創造主の独自性を育てる創造主」の仕掛けた罠がこれから私達を苦しめ絶望へと叩き込む事になるとは、この時誰も考えてはいませんでした。

私達の悲劇は、まだまだ続きます。

PART4 痛みと共に過去を清算する

この時点において、私達とスターピープルの予定は、地球のアセンションに伴う次元の分離を8月末ころまでに終了するという事でした。

そのために、スターピープル達は、地球を40%台の地球や50%台の地球などに1%単位で細かく分けて、それぞれが独立して存在できる世界をつくる事に苦心しています。

それぞれの世界がしっかりと分離できたら、次は、その世界に適した人々を誘導する予定ですが、これは、9月の中頃から11月末頃までに行う予定です。

そして人々だけでなく、政治・経済・宗教などの独自の世界観やシステムを区分けして、それぞれの世界に合ったシステムや世界観を作り出さなければなりません。

しかし、スターピープル達は、私の肉体と意識のゲートを使用して、この地球に関わっているので、「創造主の独自性を育てる創造主」の企てにより、私が大きく体調を崩した事は、まったく予定外の事でした。

しかも、私は「創造主の独自性を育てる創造主」の暗示にかかったままのようです。

9月1日になっても、大きな痛みが何度も襲ってきたにも関わらず、病院に行く事をせずに、その痛みを通して、様々な地球に関わるエネルギーを分離する事が大事だと考えていたので、

私は、痛みを我慢し、その原因を探し出す事で、エネルギーの分離を行ったり、自分自身の開放が出来るのだと信じ、スターピープル達と共に仕事を続けていたのです。

9月1日に襲ってきた痛みは、私が過去に行っていた様々なヒーリングやスピリチュアルな学びを行っていたグループとのエネルギー的な分離でした。

私は、20代の始めからスピリチュアルな事に深い興味と憧れを持っていましたので、インドのアシュラムに行ったり、アメリカのセドナやエジプトなどにも行きました。

またアマゾンのシャーマンやマヤ文明のシャーマン達とも様々なワークを行ってきました。その様な事は、私の知見を広め、私の価値観や意識を成長させてきましたが、私達の知らない所で、私達をコントロールして、特別な意識状態に導き、地球を支配するもう一つの地球人の種族とも深い関係を作っていたのです。

地球における多くのヒーリングやスピリチュアルな教えも、地球を支配しようとする地球のもう一つの種族オリオン人によって作られていたものが多く、私が30代に行っていたヒーリングも、私の中に大きなエネルギー・ゲートを作り出していました。

そしてそのゲートは、そこから様々な闇のエネルギーを、常に私の中に流し込んだり、そのゲートから私の生命エネルギーを奪い続けていました。

私は激しい痛みと共に、その事を思い出し、一つ一つのヒーリングやスピリチュアルな学びの中に隠されたエネルギーやその意図を明らかにしていきます。

そして、私にとってはもう不要となったエネルギーやゲートを痛みと共に自分から分離していきました。

「創造主の独自性を育てる創造主」が、すでに創造主の座を去り、創造主もスターピープル達も、私達を十分に守護できるようになりましたので、数日前の死ぬような思いをするほどの痛みはなくなりましたが、相変わらず激痛は 24 時間続きます。

私達は、24 時間続く痛みや吐き気の中で、睡眠も食事もとれずに、私の過去を振り返り続けました。

そして 9 月 2 日になると、私は自分の過去世や母親との確執を見せられる事になりました。母親との確執は、今でも私の心の中に深く残り、結婚した相手や会社の女性従業員との間に人間関係のトラブルを起こしてきたようです。

私は、自分と他の女性との間に横たわる問題を、自分の母親との確執や感情を処理する事で解決していきました。

スターピープル達も、私の中にたくさんあるゲートやエネルギーを通して、ヒーリングやスピリチュアルのエネルギーを分離して行きました。

そして、それらのヒーリングを学んだり使用する事で、地球外生命体やオリオン人達に捕えられた人々のスピリットも開放していきます。

そして私は、様々な感情の問題を解決して、古い自分から生れ変わっていく事ができました。

私達は、8 月 28 日から続いていたお腹の痛みや吐き気、そして心臓の電気ショックの様な激痛に耐えながら、自分自身を振り返り、自分自身が光の世界に行けるように過去を清算してきたのです。

9 月 2 日の深夜までその作業が行われましたが、一段落ついたところで、私達は病院に行く決心がつけました。

私の医療担当のスターピープルは早くから病院に行く事を進めていたのですが、私は地球の分離や自分の過去の清算をする事を優先して、病院には行こうとしなかったのですが、これこそが、私の症状を重篤なものにした「創造主の独自性を育てる創造主」の畏だったのです。

PART5 緊急入院、私の命は！

私達は恵理さんが呼んでくれた救急車で近くの病院に搬送される事になりました。

もうこの頃は、自分の力で歩く事も困難になっていました。

病院につくと、救急担当の医師が、私のお腹の様子を見て CT スキャンをとる事になりました。

この病院には、6月に胆石の診断で来た事がありますので、私のカルテもあります。

最初は、胆石の発作かなとお医者さんは考えていたようですが、CT スキャンの結果を見たお医者さんは、慌てて言いました。

「これは、大変重大な症状になっています。

この病院では対処ができないので、もっと設備が整った病院にすぐに搬送しないと大変な事になります」と言って、鹿児島市の大きな病院に連絡してくれました。

お医者さんは、すぐに点滴を始め、救急車で鹿児島市内の病院に行く時も、一緒に救急車に乗り込んでくれて、ずっと私の様子を見守ってくれました。

私は、鹿児島市内の病院に着くとすぐに精密検査を受け、集中治療室に緊急入院する事になりました。

その時点では、私への処置は24時間の点滴しかないようでした。

しかし、私を見てくれた先生は、恵理さんに真剣な顔で言ったようです。

「私達は一生懸命処置を行いますが、多臓器不全症候群の一步手前です。

肺や心臓にも水が入り、生きる確率は半分です。

今夜から明日にかけて容体が持てばいいのですが。」

私は、ここ数日で痛みに慣れてしまったのか、それほど辛くない表情をしていたのが、先生には不思議なようです。

私は不安ではありますが、スターピープルの医療班がついていますので、決して死ぬ事はないだろうと考えていました。

もちろん、「創造主の独自性を育てる創造主」を創造主の座から降ろしていなければ、全く別の結果になった事は言うまでもありませんが、8月31日の時点で、この創造主を処理で

きましたので、現在は創造主もスターピープルも全面的に私を守護してくれるはずです。

医療班のスターピープルも「私達が医師や看護師をとおして、TAKESHIさんの体を守りますから、心配しないでください。」と言ってくれます。

そのために、私の中では、きっとすぐに治るだろうと安心していたようです。

しかし、私の体は、思ったよりもダメージが大きく、私の治療は簡単には行きませんでした。

そして、24時間の点滴を続けて治療を行う私に襲い掛かってきたのは、「創造主の独自性を育てる創造主」が、創造主の座を追われる前に、私達に対して仕掛けていたいくつもの罠でした。

そのひとつは、「創造主の独自性を育てる創造主」のパートナーである「悪夢の創造主」の攻撃でした。

彼女は、私とスターピープルがここ数日で片付けてきたネガティブなエネルギーや私に様々な感情を持つ人達のエネルギーを私に再度繋げ、耐えがたい苦しみを与えてきました。

今の私達には、仲が良い友達であったとしても、その人が様々なヒーリングやスピリチュアルな活動をしているだけで、そのヒーリング等の裏にあるエネルギーが、私の体に突き刺さるような痛みとして感じられます。

また、私の意識を、常に光の世界に持っていかうとしても、光40%台の世界にいる人達と交流すると、その人のエネルギーを通して同じ40%の世界に残るように足を引っ張られてしまうのです。

それが、今の私達にとっては大変な痛手となるのです。

これは、普通の人にはわからない感覚なのですが、私達は光40%の世界から抜け出し、光50%以上の世界に行く事を望んでいます。

しかし、体調を悪くしている私にとっては、光40%の世界にいる人達が、私達の事を頼ってきたり、私達に救ってもらいたい、と考えたりするだけで、私達のエネルギーはその人がいる世界に引っ張られてしまい、エネルギーの不調和を起こしてしまうのです。

「悪夢の創造主」が、私が清算した過去のエネルギーやゲートを再度私に繋ぎ直す事で、私達に感情を向ける人々の思いが私達に押し寄せてきたり、地球を支配する種族や多くの地球外生命達の攻撃を再度受ける事となりました。

それは、命の保証ができないと言われ、治療を受けている私にとっては、かなり辛い事でした。

いくらスターピープル達が守ってくれているとはいえ、やはり物理世界のエネルギーは優先されますから、私の体は、少なからずダメージを受ける事となりました。

私に攻撃を仕掛けてきたのが「悪夢の創造主」であると判明すると、全ての宇宙の最高次元の創造主である「源の創造主」が、すぐにきてくださり、「悪夢の創造主」を光に返してくださいました。

そして、地球の現実世界に降りた「創造主の独自性を育てる創造主」も、地球の現実世界でまたしても他人を抑圧したり、人々を支配するような事をしていたために、地球での学びは無駄だと判断されて光の世界に帰す事となりました。

私は、このような攻撃に耐えながら、2 日間の 24 時間点滴を行いました。思ったように効果が出ないという事で、血液を直接浄化するための透析を行う事にしました。

PART6 恐怖の透析事件と「ループの創造主」

私は、入院して3日目から、脚の付け根の血管から血液を取りだして直接浄化するための24時間透析を2日間行う事になりました。

看護師さん達が面倒を見てくれるものの、この間は全くベッドから動く事も出来ません。基本的に、私は今まで重い病気をした事が一度もありませんので、病院に行った事は、人間ドッグを除いてありませんでしたし、入院も57歳にして初めての経験です。

それがいきなり集中治療室で、血液を入れ替えるための24時間透析などと聞くと、やはり不安になります。

しかも、透析の機械をセッティングする作業が、全くうまく行っていないのです。透析室の主任さん達が、懸命に機械の調整を行ってくれるのですが、機械がうまく作動せずに、いつも警報が鳴ったり機械が止まったりします。これには、さすがの私も恐怖を覚えます。

地球外生命体達が機械にいたずらして、血液が流れなくなったら、私は命を落とすかもしれないという恐怖が何度も襲ってきました。

そして、夕方から始まった透析ですが、私の不安が夜の9時頃に現実となったのです。

機械の警報が何度もなり、看護師さんが機械を作動するためのスイッチを押したり、様々な試みをするのですが、機械は警報を鳴らし続け、きちんと機能しなくなりました。

危険に思った看護師さんが、透析室に電話をしてくれて、たまたま遅くまで残っていた透析の技師の方が来てくれて透析の機械を再設定してくれました。

彼は機械をコンコン叩きながら機械の設定を行ってくれています。

その様子がまるで、機械の中に入り込んだ地球外生命体達のエネルギーを追い出すように見えて、とてもうれしくなりました。

技師の方も、精悍な顔立ちで、まさにスターピープルの医療班が乗り移って来てくれたような雰囲気です。

この技師の方が、1時間ほどかけて、透析の設定をやり直してくれたおかげで、その後機械の不調は一切なく、私も安心して寝る事ができましたが、本当に一時はどうなるかと心配でたまりませんでした。

しかし、このような時でも「創造主の独自性を育てる創造主」が仕掛けた罠が、再び私を襲ってきました。

「悪夢の創造主」に続いて出てきたのは「ループの創造主」と呼ばれる非常に厄介な創造主でした。

この創造主が仕掛けてきた罠は、私達の時間をある一定の時期に何度も戻していくという罠です。

私達は、痛みと共に襲ってくる人々の感情や地球外生命体達の攻撃を利用して、地球外生命体と一体となっている人々を適切な世界に分離していく作業をスターピープル達と共にずっ

と行っています。しかし、「ループの創造主」のしかけた罠により、一定の時間がたつと、私達の時間は、前のある時期の時に戻されてしまうのです。

そのために、分離した地球外生命体や彼等と一体となった人々は、また同じ世界に復帰し、私に対する攻撃を、依然と同じように行ってくるのです。

この罨には、私達はかなり当面しました。

一体何が起きているか、自分達には理解できなかったのです。

私達は同じ作業を何回も繰り返し行わなければなりませんでしたし、そのたびごとに同じ痛みを味わわなければなりませんでした。

私達は、もしかしたら宇宙の時間を司る「宇宙の輪」に何か仕掛けがしてあるのではないかと思い、「光彩の創造主」やロッド星人達と共に「宇宙の輪」を調べると、やはり創造主クラスが存在が、「宇宙の輪」を操作した形跡がありました。

私達は、時間をさかのぼり、「宇宙の輪」に操作を加えた創造主を見つける事にしました。そして巧妙にカモフラージュされた技法を使って「宇宙の輪」を操作する「ループの創造主」を見つけだしたのです。

「ループの創造主」に問いただすと、彼はやはり「創造主の独自性を育てる創造主」によって生み出され、地球のアセンションを妨害するために、私達に対して攻撃を仕掛けていた事が判明しました。

私達は、「源の創造主」をお呼びして、「ループの創造主」を光に返してもらう事にしました。

しかし、その2日後にも「ループの創造主」の罨が襲ってきました。

私は、時間のはざまに落とし込まれ、時間の感覚を失ってしまいました。

私は、一体何をしているのか、という意識もはっきりせずに、ぼーっとしている時間にはまり込んでしまったのです。

この時はさすがに、アシュタールのエレナさんも慌ててその原因をさがしてくれたようです。

「ループの創造主」は、スターピープルと私を、全く異なる時間軸に置く事で、私達とスターピープルの関係を断ち切り、アセンションを崩壊させようとしたようです。

この時はロッド星人達が、隠れていた「ループの創造主」を探し出し、創造主にお願いして光に返してくれました。

しかし、その後もループの創造主は、私達に同じ罨を仕掛けてきました。

「ループの創造主」は、自分が光に返されたら、過去から自分をよみがえらせる仕掛けもしていたようです。

私は「源の創造主」にお願いして、全ての次元の「ループの創造主」を光に返してもらいま

した。

「源の創造主」も、これほど狡猾で無慈悲な創造主が「創造主の独自性を育てる創造主」によって生み出されていた事に大きなショックを受けているようです。

やはり光 40%の世界を統治する創造主ですので、自分の中にも多くの闇を抱え込んでいます。そして、自分自身の野望や欲望、プライドによって、この宇宙を統治しようとする創造主になってしまったようです。

私達が、地球のアセンションを行い、地球をこの光 40%の世界から救い出すという事は、光 40%台の世界を統治する創造主の世界も適切に作り変えていかなければならないようです。

第2章 宇宙の愛に向かう道

PART1 自分の体を治すためには「宇宙の愛」との融合が必要

私が鹿児島島の病院に運び込まれた時、私を診断した先生は、すぐに24時間の点滴を始めましたが、私に付き添ってきた恵理さんには、「この24時間が勝負、もしかしたらだめかもしれないので覚悟をしておいてください。」と仰っていたようです。

先生は、あと1日遅れていたら急性の「多臓器不全症候群」に陥り、とても命は助からないだろうと仰っていました。

アルコールも飲まず動物性の肉や油っぽいものも食べない私は、2か月前に胆石が見つかったことでそれが原因だと思っていたのですが、先生は今回の原因は胆石ではなく、全くの原因不明だと言われました。

これも私の命を狙っていた「創造主の独自性を育てる創造主」とアセンションに根深く反対する地球外生命体達によるサイキックアタックであった事は間違いないようです。

治療生活に入ってから、24時間点滴が続き、痛みと戦いながら眠る事も出来ません。

ようやく痛み止めの座薬をもらって、気持ちを落ち着かせていました。

しかし、点滴だけでは十分な効果がないという事で、24時間かけて血液を浄化するための透析治療が始まりました。

私はその様な時、仲の良いスターピープル達を呼び、助けを求めました。

もちろん、私の肉体の医療担当のスターピープルもいましたので、彼等にも私の治療がうまくいくようお願いしてあります。

彼等は、病院の先生達の意識の中に入り、私の治療をサポートしてくれていました。

私は、仲の良いスターピープルに、この病気を回復させ苦しみから解放される為にはどうしたらよいか尋ねました。

「TAKESHIさん、これは「宇宙の愛」とひとつになるしかありません。

「宇宙の愛」は、スターピープルもそして創造主さえも生みだしたエネルギーです。

その根源のエネルギーに触れ癒してもらう事が一番大切な事なのです。」と彼は答えました。

私は、その言葉を聴いて瞑想に入りましたが、なかなかうまくいきません。

透析をしたり24時間点滴を繰り返す中で、気持ちが集中できるはずもないのですが、私は「宇宙の愛」について、言葉では理解していても、本当のところ「宇宙の愛」の一部にさえも自分がたどり着いていなかった事をその時理解したのです。

今まで「宇宙の愛」を求めて活動してきたにも関わらず、このような時に全く役に立たないレベルでしか、「宇宙の愛」をつかんではいなかったのです。

おそらく今まで「宇宙の愛」について知っていた事、経験していた事も、本当の事ではなく自分自身が都合よく作りあげてきたものだったのでしょう。

私は、自分の生命の危機を迎えている今、真剣に「宇宙の愛」について学び、「宇宙の愛」に深くつながらなければならないと感じていました。

そしてこの「宇宙の愛」に目覚めなければ、自分自身がアセンションできない事、たとえこれまで中心的な立場でアセンションの作業を行ってきた私であっても光の世界に入れな事をスターピープルからも言われました。

それでは病気が治っても、何の意味もありません。

私は自分の治療とアセンションをかけて「宇宙の愛」を追求していく事となりました。

PART2 アセンションを行う為にひつような「宇宙の愛」

集中治療室で、2日間にわたる透析治療が終わった後も、しばらく24時間体制で点滴が続けられました。

私が、集中治療室を出て一般病棟に移ったのは、私がこの病院に救急車で搬送されて1週間後の事でした。

体の症状もだいぶ良くなり、私を襲っていた「死の恐怖」からも自由になりました。

担当の先生も、私が生き延びられた事に大変喜びを持ってくれました。

何しろ生まれてくる赤ちゃんがお父さんの顔を見る事ができるからです。

私は、その日から病院を退院するまでの1週間近くを個室で過ごし、恵理さんに助けをもら

いながら「宇宙の愛」に深くつながるためのワークを行う事になりました。

それは自分の内側を様々な角度から何度も見直して、問題を解決していく作業でしたが、自分の中に隠れている問題を洗い出したり、自分の魂やスピリットを見直す事で少しずつ「宇宙の愛」へと近づいていく事が出来るようになりました。

もちろん私は、この地球のアセンションを行う為に、恵理さんと共に地球に生み出された存在ですので、「宇宙の愛」に深くつながるために解決しなければならない問題は皆さんよりもはるかに多岐にわたっています。

しかし、私が様々な努力をして「宇宙の愛」に至る過程を知る事で、皆さんも「宇宙の愛」につながるための近道を見つける事ができると思いますので、ぜひ参考にして皆さん自身が本物の「宇宙の愛」につながる事ができるようにしてください。

何度も言いますが、この「宇宙の愛」を理解するか、しないか、「宇宙の愛」につながるか、つながらないかは、皆さんがアセンションする為の前提条件です。

たとえ現実社会で、どれほど素晴らしい人間であると賞賛されようとも、どんなに素晴らしいヒーラーやセラピストであるといわれようとも、本物の「宇宙の愛」に触れていなければ、アセンションする事は出来ません。

もちろん、新たな地球人として意識を進化させる事も出来ません。

どれほど自分が素晴らしい人間であると思っけていても、どれほどたくさんのクライアントを救ってきたと言っても、「宇宙の愛」につながっていないければ、皆さんが行ってきた事は、スターピープル達の前では全く意味をなさない事なのです。

大切なのは、現実社会の欲望からはなれて、純粋な気持ちで、宇宙とひとつになりその愛を受け取る事だけなのです。

本当はとてもシンプルであるはずの「宇宙の愛」との統合は、現実社会を賢く生き、成功を治めた人ほどうまくできないのです。

現実社会で培ってきた自分のプライドやエゴを手放し、子供のような気持ちで「宇宙の愛」に向かわなければなりません。

また「宇宙の愛」は依存心を持ち他人に頼りたがる人とも無縁です。

誰かに助けてもらいたい、誰かが自分のためにやってくれるだろうと考えている人には、「宇

宙の愛」は決して関わりません。

「宇宙の愛」は、自分自身が本気になって手に入れようとしなければ手に入らないのです。私達自身を作ってくれたのは、まさに「宇宙の愛」です。

私達にとって一番身近な物ではありますが、現代の地球人が「宇宙の愛」を手に入れる為には、自分自身の考え方も少しばかり変えなければいけません。

「宇宙の愛」に触れる事ができたなら、私達の意識も大きく変わっていく事となるのです。

PART3 愛に近づけない魂の叫び

私は集中治療室から一般病棟に移ると、24時間点滴を行いながら、少しずつ瞑想というかイメージ作りを始めました。

幸い個室に入る事ができましたので、看護師さんが1日何回か検診で回ってきますが、それ以外は誰も来ない静かな環境で「宇宙の愛」に触れるためのワークを心おきなく行う事ができました。

私は、自分の意識を自分の体から解き放ち宇宙の中心に向かって飛び立たせました。

私の意識は、大空を漂いながら「宇宙の愛」に向かっていきます。

私は、心の中で「宇宙の愛」に私を導いてくださいと祈り続けています。

私の中にやがて暖かい感覚が少しずつ広がっていきます。

何回かこの瞑想を行っていると、私の意識は、空の一部にオレンジ色に光る楕円形の輪を見つけました。

まるで「宇宙の愛」はこちらから入るのですよと誘われている感じがしましたので、私はオレンジ色の輪をくぐります。

するとその先に、また同じようなオレンジ色の輪が現れますので、それをくぐります。

いくつかの輪をくぐるとその先に黄金色に光る門が見えたのでそこに入ります。

そこはとても優しく温かい世界です。

恵理さんに見てもらおうと、「宇宙の愛」のいくつかある入り口の一つのようなのです。

本来「宇宙の愛」は、もっとシンプルな物だと思いますがシンプルすぎてつかめない時は、

少し回り道も必要なようです。

これは後になって分かった事ですが、一度でも「宇宙の愛」に触れる事ができたら、「宇宙の愛」を意識するだけでその瞬間に、「宇宙の愛」とひとつになる事も出来るそうです。

私は、この入口にすぐにたどり着けるように、心の中に扉を作りました。

その扉を開くと「宇宙の愛」にすぐ触れる事ができるように設定をおこなったのです。

しかし、私は「宇宙の愛」の入口から、なかなか先に進む事ができません。

その原因を探っていくと、私の魂が持つ大きな感情にぶつかりました。

この感情によって、私が「宇宙の愛」と深くつながる事ができないようになってしまったようです。

「宇宙の愛」は、心が安らかで幸福感に満ち足りていないと深く味わう事ができません。

魂が抱いていた感情は、おそらく現世では体験した事がないような大きな苦しみや悲しみの感情でしたので、私の過去性から来ている感情のようです。

私の過去世を調べてみると、マヤ時代の神官時代の出来事が現れてきました。

その時の私は、マヤの伝統的な部落の神官を務めていたのですが、部落の平和を守るための宗教儀式で神官である自分の娘を生贄として捧げるための儀式をおこなわなければならなくなりました。

娘は神官の娘として生まれたからにはやがてそのような日が来るであろうという事はわかっていましたが、父である神官には、それはとても大きな悲しみであり苦悩でもありました。

しかし、彼は神官としてその儀式を行い、自分の娘を殺してしまいました。

やがて、彼はこの世を去り魂となった時に、自分が行った事の愚かさを知りました。

本来、村を守るために生贄は必要ではなかったのです。

彼は自分の愚かさに気づき、自分の娘を守れないほどのちっぽけな存在である事を呪いました。

そしてその様な自分に対して自己嫌悪、自己否定を繰り返し、自分の中にはこれっぽっちの愛もない事を嘆き悲しみました。

神官だった私の魂は、「宇宙の愛」とも一つになる資格がないと思い込み、現世の私が「宇宙の愛」とひとつになる事を妨げていたようです。

私はこの時の神官の魂を癒し続けました。

彼が行った事は決して正しくはなかった事ですが、それでも愛を受け取る資格がある事を訴え続けました。

彼の後悔はすこしずつ癒され、自分自身を許し始めたようです。

私の魂の中でも、大きな氷山の一角が解け始めてきました。

その他にも、過去に、自分と結婚した女性や娘達を権力争いや宗教戦争に巻き込んでしまい傷つけたり死なせてしまった事が、数回起こっていたようです。

そのために、私は女性を愛する資格がない、自分が女性を愛する事で相手を傷付けてしまうと思い込み、女性を真剣に愛する事ができず、自己否定を繰り返していたようです。

私の魂の中に、それらの時代の記憶が蘇り、私が「宇宙の愛」に入ろうとする時に、私だけが「宇宙の愛」とひとつになる事に対する罪悪感を作り出していました。

そしてその罪悪感のために、私は「宇宙の愛」の奥深くに入っていく事ができなかったようです。

私は、自分の足を引っ張り続ける感情と向かい合い、一つ一つを大天使の力を借りて癒していきました。

もちろんこのような過去の問題にとらわれる必要はないのかもしれませんが、私にはそれらを解決する事で少しでも「宇宙の愛」に近づけなら解決したいという気持ちが強かったようです。

PART4 自らの光を与えようとする魂

私は、自分自身の過去性をいくつも見ながら、その時の自分と対話を繰り返し、その時代の悲しみや苦しみを癒していきました。

今の私にすれば、自分自身を健康にするためには「宇宙の愛」に癒してもらうしかないという考え方が強かったので、自分にできる事、自分が「宇宙の愛」にたどり着くためにしなければならない事は何でもしようという気持ちになっていました。

私は、再び瞑想に入り、自分の心に作った「宇宙の愛」の入口から中心に向かって進もうとしましたが、なかなか先に進めません。

私は、入口付近で立ち止まり「宇宙の愛」の入口付近から先に進めない事がとても不満でした。

私は自分の魂になぜ「宇宙の愛」に深く入れないのか尋ねてみました。

私の魂は、私につぶやきます。

「私は、多くの人達に私自身が作り出した光を分かち合わなければならないのです。

それは私が自分自身に課した義務なのです。

地球で私と共に活動する人を導き助けてあげるのが私の役目ですので、私自身が持っている光を、私を信じついてきてくれる人に、私は分かち合わなければなりません。

それが、私が行う事の全てです。」

私は、自分の魂の考え方に唖然としてしまいました。

私は、長い間「宇宙の光」の活動を行ってきましたが、私の魂は、自分自身の光を、グループの人達に分かち合う事が義務だと考えていたようです。

確かに、魂がいう事も正しいかもしれませんが。

自分が疲れている時も、気分が悪い時も、これは自分の義務だからと言って「星のツアー」やアチューメントを行っていました。

私自身は、自分の光をメンバー達に分け与えているという意識はなかったにしても、実際は光を与え続けて、「宇宙の光」のグループを維持していたのかもしれませんが。

私はそれがもうすでに限界にきている事を知っていますので、魂に向かって言います。

「私の魂よ、あなたはとても献身的で誠実に働いてきました。

しかし、自分自身の光を与え続ける事には限界があります。

あなた、もうすでにその限界を超えて働いてきた為に、これほど弱り果て傷ついているのではありませんか。

自分自身の自己犠牲からは決して素晴らしい未来が生まれないという事を、あなたも知っているはずです。」

「もちろんそれは知っていますが、私自身の光を分け与える事で、多くの人が喜び、私を賞

賛してくれました。

私は、1人でも多くの方が、私を必要としてくれて、私を求めてくれる事が喜びなのです。皆さんが、私を頼りにして、共に光ある世界を目指して歩み続ける事が私の理想です。そのために、私はこの地球で生きてきたのです。」

私は、自分の魂と会話しながら背筋が寒くなる思いがしました。

私の魂は、自分の義務にがんじがらめになって、もっと大きな世界を見る事を忘れ「宇宙の愛」に触れる事を、自分が行ってきた事に対する責任放棄のように考えているようです。

「魂よ、あなたが多くの人々を救い導きたいと考えている事は良くわかりました。

しかし、あなた自身が持つ光は限りある光で、やがては消えていくものです。

あなたが導いていった人も、あなたが疲れ果て光を失いかけたなら、あなたからきっと離れていくでしょう。

そして、他の光をもった人のところに行って、TAKESHIさんはもうパワーがないからおしまいね、などと平気で言うでしょう。

多くの人々は、あなたがどこに導いていこうとしているのか、という事よりも、あなたがどれだけの光や癒しをくれるのかという事の方が大事です。

あなたはただ、光を奪われるだけで、誰も導く事なんてできないのです。」

「いえ、私の光を受け取った人は、必ず光の世界へと導かれていきます。

なぜなら、私がおの道歩んでいるから、必ずおの道歩むはずで。

私は、皆さんが光の世界へと歩むために、共に祈り、共に愛を分かち合っているのです。」

私は、自分の魂の思い込みがとても悲しく、そして切なくなってきました。

共に歩む人を信じ、自分の光を与えようとする姿は、純粹ですが弱いものです。

「魂よ、あなたの責任感理解できますが、そのままでは、あなたは自分自身の全てを失ってしまいます。

そうすると私自身もすべてを失って傷ついてしまうでしょう。

そうなる前に、目覚めてください。

あなた自身の光を失う事なく、多くの人を正しい世界へ導くためには、自らの光を餌のように与えていくのではなく私達が進むべき正しい場所を、多くの人に指示してあげる事が大事なのです。

それが「宇宙の愛」です。

私達が生まれた場所、私達を育ててくれる光に、多くの人を導くのです。

そうしなければ、私もあなたも、自分の生命を枯れ果てさせてしまうでしょう。」

私の言葉に、魂もはっとしたようです。

「私は、今まで自分自身の光を、皆さんに分け与えていく事が義務だと思っていましたが違うのですか。」

「魂よ、それは違います。

私達が、本当の仕事ができないように、私達の活動を快く思わない存在が、あなたにそのような義務感を植え付けたのでしょ。

魂は、しばらく沈黙してしまいました。

「これは、きっと私自身が私に課した義務感でしょう。

この事を行なわなければ、私は自分自身がつまらない魂である事を知り、耐えられなかったのではないかと思います。」

「いえ、全ての魂はどのような状態にあっても尊いものです。

あなたは、自分を卑下する事はないのです。」

「本当にそうでしょうか、私は人を傷付ける事を何とも思わない人々や自分さえよければ何をしてかまわないという人々をたくさん見てきました。

私は、その様な人になりたくなくて、自分自身の光を尽きるまで与えたいと思ったのです。」

今度は、私自身が沈黙してしまいました。

そのような私達を取り囲むように、ほの温かい光が降りてきました。

私達の話が決着する事はありませんでしたが、私の魂もこの光に癒されたようです。

魂は、その人のスピリットの一部でもありますので、スピリットが持つ目的や使命を受け継いで地球上に生れてきます。

しかし、長い間地球で生きていく中で、自分の無力さや挫折を数多く味わい、スピリットの持つ目的を地球上で果たす事を忘れてしまいます。

あるいは、本来のやり方や自分自身が持っている能力を十分に使いこなす事を困難にさせて

しまうのです。

そして、自分の現状に合わせた形、あるいは妥協した形で、この地上に生きていこうとします。

私達は、その事を良く見極め、本来の有るべき形を探していく必要があるようです。

そして、自分の魂を、安らぎの場所である「宇宙の愛」へと導いていかなければならないのでしょうか。

PART5 人々を救い導く事を望む意識の過ち

私は自分の魂が捕らわれていた自己犠牲の考え方に大きなショックを受けましたが、それが地球人として生きてきた私の特性かもしれません。

私達は、私が「宇宙の愛」へたどり着けない理由をさらに探し出す為に、瞑想に入ります。次に浮かんできたのは、私自身の意識の問題です。

私の意識は、私が「宇宙の愛」の世界に深く入ろうとする事をととても不安な面持ちで見えています。

私は自分の意識に一体どうしたのかと尋ねます。

「私は、この地球に生きているあなたの意識です。

私は、多くの人達の導きを行う為に、この地球に生れてきたのです。

私は、自分だけが「宇宙の愛」と深くつながり、光の世界に行く事で、多くの人達を見捨てるのではないかと恐れています。

私は自分の家族や仲間達を置き去りにしたままで、自分だけ光の世界に行く事はできないのです。」

私の意識がいう事は、まさに今までの私が考えていた事です。

もし、地球がアセンションして、光の世界と学びの世界に別れるとしたら、私は1人でも多くの人を光の世界に導かなければならないと考えてきました。

もちろん、それが私のスピリットや私の魂に課せられた大切な仕事であると今でも信じています。

私と恵理さんは、そのために、アチューメントやデバインライト・ヒーリングのセミナー、様々なヒーリングを行ってきました。

またブログやメールを通して、皆さんが光の世界に行くための情報を提供してきました。私達は、自分達の健康や時間も度外視して、多くの人々を光の世界に導くために、長い間努力を続けてきました。

私の意識は、まさにその事に対してやみくもに働いてきたと言ってもよいでしょう。

しかし、私達を取り巻く状況は大きく変わってきました。

アセンションが進むにつれて、私達が今迄信頼していたマスターや女神達も、それぞれの道に進み始めています。

それは、私が今までアチューメントとして作りあげてきたものもそうです。

光の世界でも通用するアチューメントもあれば、学びの世界だからこそ効果を発揮するものもあります。

アチューメントを担当する女神達も半分以上は学びの世界に残り、学びを続ける人達を守護しますので、光の世界に行く人達を守護する事はできなくなりました。

その様な状況の中で、どのような世界にいても、どのような状況の人であったとしても役に立つ物を探し出さなければなりません。

私達が、これから行わなければならない事は、女神や創造主の光の源となっている「宇宙の愛」に、自らがたどり着く事です。

女神やマスター、創造主は、地球人よりも果てしなく長い時間を生きていますが、彼等も長い目で見れば移り変わるものです。

もちろん地球の創世の時期よりも、さらに前の時代から生きている創造主達もたくさんいますが、彼等もやがては世代交代していきます。

この宇宙で、移り変わらないものは「宇宙の愛」だけだ、といってもよいでしょう。

創造主もマスター達も、すべてこの「宇宙の愛」から、光を分けてもらって生きているのです。

私は自分の意識に向かって言います。

「私達は、私達のカだけで多くの人々を導き助ける事はできないのです。

私自身が行ってきた事は、間違えてはいなかったけれど完全ではなかったのです。

私は、いつも女神やマスター、創造主の力に頼って生きてきました。

そして彼らの力をこの地球に降ろし、地球に生きる人が、彼等とつながって光の世界に導かれるように助けてきました。

しかし、アセンションはどんどん進み、私達にも真実の姿が見えてきました。

それは、移り変わる女神やマスター達ではなく、宇宙の大元である「宇宙の愛」につながる事によって、私達は、永遠の安らぎを得る事ができるという事です。」

私の意識は私に問いかけます。

「それでは、今まで私達を導いてきた女神やマスター達は本物ではなかったという事ですか。私達は、一体誰を信じて活動すればよかったですか。」

「女神やマスター達は、私達の成長の度合いに応じて現れ、私達を指導します。

たとえ1年前に「宇宙の愛」の事を教えられても、私達は「宇宙の愛」について深く理解する事はできなかったでしょう。

ましてや星のツアーを始めた3年前に至っては、宇宙の仕組みも創造主の事も全く知らない初心者でした。

その時現れてきた女神達やマスター達はすべて、私達の指導係でした。

全く無知な私達に小学生レベルの知識と経験を与えて学ばせてくれたのです。

私達の学びが深くなるにつれて中学生レベルの指導を行う女神やマスターが現れ、やがて高校生クラスの指導は創造主達が自ら行ってくれました。

今は、私達は大学生レベルとなり、今は自分自身で学びのテーマを決め、自分の力で学んでいかなければなりません。

その時に、小学校や中学校の先生達の力を借りる訳にはいかないのです。

なぜなら、彼らの役割はもうすでに終了したからです。」

私の意識は、何か不満げに尋ねます。

「それでは、これからは何を信じたらいいのですか。

私を信頼し頼りにしてくれている人々に何を伝えていけばよいのですか。」

「私達は、もうすでにこの宇宙の最高レベルの創造主にもたどり着いていますし、この地球を守護してくれているスターピープル達とも交流しています。

しかし、とても高次の世界にいるスターピープル達は、地球人はたとえ力を持っているマスターや女神、創造主に対しても、けっして依存してはいけないといいます。

私達は、誰かに頼るのではなく、自らが「宇宙の愛」につながって、自らを救わなければならないという事を、皆さんに伝えていけばよいのです。」

「しかし、現実世界で迷い苦しむ人はそれで救われるのでしょうか、

彼等は「宇宙の愛」という抽象的なものを十分に理解する事はできないと思います。

今までの私達がそうであったように、現実的に見える物、表現された物、しっかりとした名前や働きが分かった物に頼ろうとします。

それはいけない事でしょうか。」

「私の意識よ、もちろん私達も今までその様にして成長してきました。

多くの方が、いまだその様な状態にいる事は当然ですが、その状態は「依存」の状態です。

きっと誰かが自分を救ってくれる、きっと誰かが自分をどうにかしてくれる、と考えているのです。

その様な人達は、アセンションの前提条件である「依存心を捨てる」事を実践していないので、学びの世界に残る事になります。

たとえば言うならば、彼等はまだ小学生・中学生レベルですので、この世界で教育を受け続けなければならないのです。」

「私達の役目はその様な人達の教育のお手伝いをして、彼等を目覚めさせる事ではないのですか。」

「私の意識よ、確かに今まではそうでした。

しかし、地球はアセンションを迎え、大きく移り変わっていくのです。

光をもった人々は、どんどん光の世界に移り変わっていきます。

全ての方が、今現在の心や意識の状態によってスピリット達が行くべき世界を決めているのです。

中には、光の世界に行く事を望まない者もいれば、光の世界に行きたくても、自分の意識が伴わずそれができない人達もいます。

私達に、今できる事は、光の世界にはいる近道ともいえる「宇宙の愛」に人々を導く事です。そして、人々が光の世界にはいるのか、学びの世界に残るのか、人々の意思を尊重しなければなりません。」

私は大きく息をつきます。

私の意識が考えている事は、まさについ最近まで私が考え実行してきた事です、その事によって、私は自分が死んでもおかしくないほどの痛手を受けてしまったのです。

私は、自分自身の意識のあり方を大きく変えなければなりません。

私達は、「宇宙の愛」をしっかりと身に着けて、アセンションしていくための地球に意識を合わせてそこに入って行くようにしなければなりません。

本気でアセンションを望んでいない人に関わる事は、私達にとって時間とエネルギーの浪費にすぎません。

私の意識は、まだまだ古い考え方に捕らわれているようです。

PART6 私のスピリットの一部としてのシェンロン

私達は、自分の魂や意識が、今迄の制限の多い地球の考え方に捕らわれている事にとっても大きなショックを受けています。

光 40%台の地球で生きてきた癖が、まだまだ抜けずにいるようです。

このままでは、私自身が学びの世界に捕らわれて、光の世界へアセンションできない事になります。

私はすこし見方を変えて、私のスピリットの一部であるシェンロンの様子を見てみる事にしました。

私の魂や意識が、地球の制限から自由になれない理由は、スピリットの中にもあるかもしれないと考えたからです。

私のスピリットの一部であるシェンロンのエルエルは、地球にとって非常に大切な役目をしています。

それは地球の大切なコアを守る事です。

地球のコアは地球の生命力を司る大切な場所ですから、地球外生命体（ダークピープル）や闇の創造主によって頻繁に攻撃を受けます。

もし、このコアが破壊されたら、地球のエネルギーはバランスを大きく壊し、地球は壊滅的な状況となってしまいますので、エルエルとそのパートナーであるエルナエルは自分の身を犠牲にして、必死でこの場所を守っています。

シェンロンのエルエルは、私のスピリットの一部であると同時に、私にとって「愛の象徴」でもあります。

私は、エルエルのもとに行き、彼と話をしてみる事にしました。

「エルエルよ、私はもっと「宇宙の愛」とひとつになりたいのですが、私の中にある様々な考え方やこだわりが、その事の障害となっているようです。あなたには、愛にまつわる問題は起きていませんか。」

透き通るような漆黒のからだを持つエルエルは、私を見つめてつぶやきます。

「TAKESHIさん、私の心の中にも、いくつもの苦しみや悲しみは存在します。私達は、いつかこの思いも消えていくだろうと願いながら活動していますが、やはりこの思いは消えずに残っているようです。」

エルエルの目に涙がひかり、しばらく沈黙が続きます。

「私の中に眠る悲しみの一つは、この地球がレムリアとアトランティスの間で大きな抗争があった時、アトランティスを支援する地球外生命体達に対抗して戦っていた時、私を守るためにエルナエルが、私の身代わりとなって、相手の攻撃を受けて死んでしまった事があります。

私はそれ以来、エルナエルを守りきれなかった事で大きな苦しみを味わっていました。その時の恐怖は、時として今の私にもよみがえってきます。」

この時の事は、私も何度も夢に見ました。

エルエルを守るために、攻撃されるエルエルの盾となって攻撃を受け、死んでしまったエルナエルのはかない姿は、私の心の中にも深く刻まれていました。

しかし、エルナエルは、高次のシェンロン達の力によって生まれ変わり、今はエルエルと共に働いています。

私は、いつも私達を守護しているアルテミスにお願いしてエルエルの心を癒してもらう事に

しました。

しばらく沈黙が続いた後、再びエルエルが口を開きました。

「私が、再び生まれ変わり、あなたと活動を共にしていた時、私は地球を闇の渦巻から守るために、自分の身を犠牲にして闇の渦巻を退けました。

その時、死に行く私の代わりに、私の子供をあなたに預けたのですが、その子供のシェンロンはどうしたのですか？」

私は、エルエルから問われはっとしてしまいました。

エルエルが自分の命と引き換えに、自分の子供を私に授けていってくれたのです。

私はしばらくの間、エルエルの子供を私の手元においていたのですが、やはり相手は目に見えないスピリチュアルな存在ですので、高次のシェンロン達に、その子供を預けてしまいました。

そして、時がたつにつれその子供のシェンロンの事を忘れてしまっていたのです。

「エルエル、本当にすみませんでした。

私はあなたの子供を高次のシェンロン達に預けたままその存在を忘れてしまいました。

あなたの大切な子供であったのに、私はその子供の事を大切にせず、軽んじてしまいました。」

「そうでしたか、どおりで私の子供の気配が感じられないのですね。

あなたでしたら、しっかり育ててくれると思っていたのですが、」

エルエルは悲しそうに眼を閉じました。

その様子を見ていた恵理さんが、エルエルの子供のエネルギーを探しています。

ピカフラッシュにも手伝ってもらい、エルエルと同じエネルギーを持つシェンロンを見つけようと、世界のあちらこちらを走りまわっています。

そして、深い闇の世界に閉じ込められている子供のシェンロンを発見しました。

私達はすぐに、その場所に向かいました。

深い闇の中で意識を失って眠ったままのドラゴンです。

私達は、彼を闇の世界から助け出しました。

エルエルとエルナエル、そして応援に来てくれたシェンロン達が、光の粉を子供のシェンロンにまき散らしながら子供のシェンロンが目覚める様子を待っていますが、彼はなかなか目

覚めようとはしません。

私とエルエル、そしてエルナエルで彼を取り囲むように 3 角形を作り光で満たしますが、彼の意識は眠ったままです。

私は、彼に言葉をかけようとして、はっとしました。

知っているはずの彼の名前が出てこないのです。

彼の名前を呼ぼうとしても、私の意識の中にブロックがかかり、彼の名前が出てこないのです。

それは、私だけでなくエルエルやエルナエルも同じようです。

私達は、顔を見合せ、彼の意識が目覚めないのは、私達が彼の名前を忘れてしまった事に原因がある事が分かりました。

人から自分の名前が呼ばれないという事は、自分が存在していないという事と同じ事なのです。

名前を忘れ去られたシェンロンは、この世に存在していないシェンロンなのです。

スターピープルが調べると、私達はどうやら意図的にこの子供シェンロンの名前を忘れ去られるようにされていたようです。

私達は、この子供のシェンロンと意識をひとつにしていきます。

その時、私のハートに「ザラドエル」という名前が浮かんできました。

エルエルもエルナエルも、同じ名前が浮かんできたようです。

私達は、子供のシェンロンに向かって「ザラドエル」と何度も声をかけました。

すると彼はようやく眠りから覚めてきたようです。

うっすらと目を開けほほ笑んでいます。

「ザラドエル」は大きく体を動かし、低く吠えました。

すると次の瞬間、大きな羽を広げ、空へと舞いあがりました。

「ザラドエル」とは「真実の力を持つ者」という意味です。

この地上の闇を解き放ち、偽りの物を光に返していく事が働きのようなのです。

「ザラドエル」は、大空を数回旋回していくうちに、高次のシェンロン達の光を受け取り、どんどん大きくなりパワーアップしていきます。

「ザラドエル」に並んでエルエルとエルナエルも一緒に空を飛びます。
この3体のシェンロンが同時に空を飛ぶ事で、今までにない大きなエネルギーが地球上にもたらされていきます。
この地球の闇を解き放ち、真実を明らかにし、愛で満たしていく、という光の循環がどんどん地上に起こっています。

この3体のシェンロンが目覚め、共に活動する事は地球のアセンションにとってはなくてはならない事でした。
共に活動する3体のシェンロンの目に涙がひかっています。
そして地球の闇も解き放たれ、アセンションの最終段階である次元の分離も速やかに行われる事でしょう。
そして、私のスピリットの一部であるエルエルにも本来の愛のエネルギーが戻ってきているようです。

PART7 「光彩の創造主」の苦悩

私のスピリットの一部は、シェンロンのエルエルでした。
そして、エルエルのパートナーであるエルナエルの愛に支えられてエルエルは本来の愛のエネルギーを取り戻していきました。
しかし、私のスピリットの問題はまだ残っているようです。
それは、私のスピリットの本体ともいえる「光彩の創造主」です。

「光彩の創造主」は、地球が属する天の川銀河や天の川銀河とともに存在するアンドロメダ銀河、オリオン星雲などの目に見える宇宙とそれらを支える目に見えないスピリチュアルな宇宙を運営する創造主のリーダーです。

彼は、現実的な宇宙を創造し運営するために、自分の一部をこの地球に降ろし、今回の地球および宇宙のアセンションの任務を行う事にしました。
それが私の役目なのですが、「光彩の創造主」に関して大きな問題が浮かびあがっていました。

それは、今回私が体に大きなダメージを受けて入院した事も同じ原因によるのですが、「光彩の創造主」の上司である「創造主の独自性を育てる創造主」によって、「光彩の創造主」の仕事が邪魔をされているという事でした。

「創造主の独自性を育てる創造主」は、「光彩の創造主」が成長し、やがて自分の地位を奪うのではないかと心配して「光彩の創造主」が、自分の分身を地球や様々な星に降ろした時に、「試練」という名目で様々な障害を与えたり、今回のように肉体の機能が失われるほどの苦痛や衝撃を与えていたのです。

そしてその「試練」に耐える事ができなかった多くの分身が光となって帰っていきました。

今回は、幸いにも多くのスターピープル達に守られていたために、「創造主の独自性を育てる創造主」の悪事を明らかにし、彼を創造主の立場から追放する事ができましたし、私も危ないところで生命を守る事ができました。

それは、この地球のアセンションを今度こそ成功させなければ、地球と宇宙の未来はないと、痛感していたスターピープルと創造主達による守護のおかげです。

創造主といっても、地球の皆さんが考えるように全知全能でもなく高い叡智を持って私達人類を守護してくれる存在でもありません。

もちろん、良心的で多くの生命達に愛を分かち合ってくれる創造主達もいます。

しかし、私達が現在生きている光40%の世界の創造主は、闇にまみれ自己中心的な創造主もたくさんいます。

たとえば言うならば、ギリシャの神話に出てくるゼウス神のように、欲しいものは力づくで奪いとり、戦争や饗宴を好むような神様と同じようなレベルです。

これは創造主というよりも、宇宙を運営する役割を持った存在という意味にとらえたほうが良いでしょう。

闇が深い世界では、多くの人達が学びを行なえるように、創造主は試練や障害を与えて、それを乗り越えさせようとしています。

まさに今の地球もそうですね、戦争や殺人、抑圧や虐待が横行していますが、これもこの世界を運営する創造主達がダークピープルと共に作り出した世界であり、地球人はそれらを乗り越えて成長しなければならないのです。

しかし、現実はこちらの障害を乗り越える事ができず、彼等によって支配され都合がよいよ

うに利用されているだけです。

もちろんこれが光60%の世界のように、闇が少ない世界の創造主は、ゼウス達のように馬鹿な真似はせずに礼儀正しく思慮深い創造主達ばかりになります。

光60%の世界では、人々は障害や苦痛から学ぶ事はなくなりますので、それらの物を人々に与える必要はなくなるからです。

話は、少し横にそれましたが、私は「光彩の創造主」に呼びかけます。

「光彩の創造主」は、恵理さんを通して、私と話し合う事となります。

「「光彩の創造主」よ、私は自分自身が「宇宙の愛」にしっかりと入れない事を大変悩んでいます。

あなたにも、私が「宇宙の愛」と一つになる事を手助けてしてもらいたいのです。」

「光彩の創造主」は沈黙しています。

「どうしたのですか、皆さん創造主は、全てこの「宇宙の愛」とつながり、「宇宙の愛」の光を基に活動していると聞いているのですが・・・」

私はとても大きな不安に襲われます。

「光彩の創造主」が苦難に満ちた声で語り始めました。

「私は、はるかな昔から地球や様々な星の立て直しのために、自分の分身をその星に送り続けてきました。

今の TAKESHI さんと同じように、その星の物理世界の中に生き、スターピープルや他の創造主と協力して、その星をアセンションさせたり、その星に生きる種族達を更生させる事が目的でした。

しかし、私が物理的な星に降りるたびに、大きな障害や肉体的なトラブルが起こり、自分が与えられた任務を果たす事ができませんでした。

創造主に尋ねると、これは私の分身を鍛えるための「試練」であるといわれました。

創造主が与えた試練ですので、スターピープルや創造主も全力で私を助ける事ができず、私は力尽きて死んでしまった事がよくありました。

私は、そのたびに「宇宙の愛」を求めましたが「宇宙の愛」は私に何もしてくれず、私は見殺しにされてしまったのです。

そして、私の大切なパートナーである創造主も、私と同じように命を奪われました。
私は、その様な事が何度も続いたために「宇宙の愛」を信じる事ができなくなりました。」

私は「光彩の創造主」の言葉に、胸が痛みます。
彼の苦痛は私の苦痛でもあるからです。

「今回 TAKESHI さんが、私達に試練を与えていた「創造主の独自性を育てる創造主」のたくらみを明らかにしてくれたおかげで、TAKESHI さんの生命は奪われる事はありませんでした。

あなたが、「創造主の独自性を育てる創造主」に負ける事なく、苦しみや苦難を乗り越えてくださったおかげで、TAKESHI さんの生命を守れた事は、私にとっても大きな喜びです。

そして、今迄私の分身達が、試練によって命を失ってきた事もすべて「創造主の独自性を育てる創造主」の計画だった事もわかりました。

その事によって、私の気持ちは晴れたのですが、私自身がまだ「宇宙の愛」を信じる事ができないのです。

そのために、私は自分自身の中にある光を使い、この宇宙を創造してこようとしたのですが、それも限界のようです。」

「光彩の創造主」は、何度も何度も自分の分身を「創造主の独自性を育てる創造主」に殺されてしまい、その事を救ってもらえなかった事を恨んでいるようです。

そして、彼の大きな悲しみの奥には、大切なパートナーを失ってしまった事が根深く残っているようです。

私達はピカフラッシュやロッド星人と共に、彼のパートナーである「愛と夢と希望の創造主」をさがしに行きました。

大切なパートナーが奪われる事によって「光彩の創造主」からも愛と夢と希望が失われていた事でしょう。

創造主としての役目を果たす事も、彼は本当のところ苦痛に感じているようです。

私達はおそらく「創造主の独自性を育てる創造主」が作ったと思われる深い闇の中を辿っていきます。

「創造主の独自性を育てる創造主」はこの宇宙でも最も力を持っていた創造主ですので、こ

の宇宙は彼の思いのままに作られています。

いたるところに彼が生み出した闇のゲートや仕掛けが残されていますので、私達は注意深く進みます。

すると、ひとつの闇のゲートの奥に弱り切った「愛と夢と希望の創造主」が見つかりました。私達は、彼女を救出してすぐに「光彩の創造主」のもとに戻ります。

「光彩の創造主」は戻ってきた「愛と夢と希望の創造主」を見て驚いています。

彼の眼から涙があふれ出し、言葉を失って佇んでいます。

きっともう「愛と夢と希望の創造主」とは会う事ができないと、諦めていたようです。

2人の創造主が再び出会った事で、悲嘆に暮れていた「光彩の創造主」も闇の世界に閉じ込められ絶望にかられていた「愛と夢と希望の創造主」も、歓喜の涙を流しお互いを慰め合っています。

私達はこの光景を見て、その場から退散する事にしました。

「光彩の創造主」も大切なパートナーを取り戻し、創造主としての自覚とパワーを取り戻し、創造主のリーダーとしての責任をしっかりと果たしてくれる事でしょう。

そして、「愛と夢と希望の創造主」を通して「宇宙の愛」にしっかりと触れ、やがて一つにつながっていく事でしょう。

PART8 光の世界に入れない焦り

私達は自分達に与えられた時間をフルに利用して「宇宙の愛」の深い場所へとたどり着こうとしますが、なかなかうまくいきません。

現実世界での体や生活の事、会社がうまく行っていない事などが、次々と私の心に押し寄せてくるからです。

「宇宙の愛」に入るためには、悩みや不安を捨てて宇宙の意識とひとつにならなければなりません。いつも余計な雑念に襲われて、宇宙の意識とは遠いところに引っ張られてしまいます。

今朝はまもなく退院になるという事で、腹部エコーを使って内臓の状態を調べます。

私が心配しているのは、胆嚢にたくさんあった胆石です。

6月に胆石の発作を起こしてから胆石の治療のために、スターピープルのドクター達と共に努力してきました。

食事に気をつけ漢方薬も飲み続けて胆石が少しでも少なくなるようにしてきました。

またスターピープルのドクター達も、スピリチュアルなレベルと物質的なレベルから私をサポートしてくれました。

私は腹部エコーを見ながら胆石の症状があまり変わっていない事に大きなショックを受けました。

あれほど努力もしたのに、どうして胆石が治っていないのだろうとスターピープルのドクターに文句を言ってしまいました。

しかし、スターピープルのドクターから帰ってきた言葉は思いがけない言葉でした。

「私達は、あなたの体を管理するようには TAKESHI さんから指示されていない。

私達にできる事は、あなたが命を落とさないように守る事だけです。」

いつも仲良く話していたドクターとは思えない冷たい言葉に、私は大きなショックを受けてしまいました。

私自身が TAKESHI なのに、私の体を治すように TAKESHI さんから指示されていないという言葉の意味が理解できなかったのです。

しばらく考えていると、私自身の心の中にうかんだ答えは次のようなものでした。

私の本当の意識は、常に宇宙の意思とひとつになっていましたし、スターピープルとも友達のように話をしながら活動してきました。

ところが、最近現実的な悩みに心を奪われる事が多く、私の意識は非常に低い波動に落ち込んでしまったのです。

人のエネルギーやスピリチュアルな姿で物事を判断するスターピープルにしてみれば、現実的な苦悩や心配事に捕らわれてしまった私は、本来の TAKESHI とは別の存在のように見えたようです。

スターピープル達の目的は、現実世界で悩み苦しんで光 40%台に落ち込んでいる私ではなく、光の世界を守護し作りあげていく光 60%台の TAKESHI を守護する事なのです。

私が、光 40%台のディセンションした世界に存在するとき、私の意識は宇宙の意識と切り離され、「宇宙の愛」とも深くつながる事ができません。

すると、私の肉体も本来の機能を失って病状が悪化し、それが原因で死亡してしまう事もあるのです。

私が、病院に入院する前に、光 48%台の私や光 51%台の私との統合を行いましたが、その2つの世界の私は、どちらとも大腸や膵臓の癌で死んでいます。

私が、このまま物理世界の心配事にフォーカスしてしまえば、その時の人生を迎える事になるようです。

私がそこまで考えていた時に、私のスピリチュアルガイドでもあるアルテミスが話しかけてきました。

「TAKESHI さん、どうか気づいてください。

たとえどれほど体がきつくても、また会社がうまく行っていなくても、あなたが現実世界の痛みや悩みに意識を合わせてしまう事で、あなたは光の世界から断ち切られ、ディセンションした世界に閉じ込められてしまいます。

今朝のエコー検査でも、胆石が治っていなかったのは、光 48%のディセンションした世界の事です。

この世界のあなたの会社は、とても不安が多く経済的にも困窮していますが、光の世界では、あなたの会社には、全く不安も困窮もなく、社員全員が楽しく働いています。

あなたが、ディセンションした世界に意識を合わせるか、それともあなたが本来存在している光の世界に意識を合わせるかによって、あなた自身がどちらの世界に存在するかが決定します。

たとえあなたが、今迄苦勞して地球のアセンションを支えてきたとしても、最終的にはあなたの意識が、あなたが進む世界を決めるのです。

私達スターピープルは、あなたが光の世界に戻ってきてくれる事を、全員で祈っているのです。

どうか気持ちをしっかりと持ってください。」

私は、自分の体の痛みや病状に捕らわれる事で、自分の意識をどんどん低下させていったようです。

しかも、私達が入院している間も、地球外生命体によるサイキックアタックは続き、私達に様々なエネルギーが襲いかかり、私達のスピリットの一部を束縛して捕えたり、不要な痛みや苦しみを与えたりします。

私達も、常に光の世界と意識を合わせていますが、体の調子が悪かったり、化学成分が大量に入った点滴や薬物を常時使用する事で、ネガティブな世界と波長が合いやすくなり攻撃を受けてしまったようです。

私達は、このディセンションした世界から抜け出すために、自分の体を整え、痛み止の薬をあまり使用しないようにして光の世界に意識を合わせます。

私達が、現実世界の問題に焦点を当てすぎると、スターピープル達も私達と意識を合わせる事ができず、地球のアセンションの作業に障害が起きてしまいます。

私は、光の世界で楽しく暮らしている自分の家族の事をいつも考えるようにしました。

もうすぐ生まれる子供達のために、私はもっと元気になって働かなければなりません。

全てに愛と喜びをもって、子供達と楽しく遊んでいる姿を思い浮かべて瞑想します。

すると、私の目からも涙が零れ落ちていきます。

お腹の中の子供達とはテレパシーを使って会話ができますから、子供達が私の事を支えてくれている事が良くわかります。

私は子供の為にも、そして光の地球の為にも、現実世界の痛みや不安に捕らわれている訳にはいかないようです。

私の意識を光の世界に向けて上昇させていきます。

PART9 私の意識の本体を取り戻す

私の意識は、光が少ない世界から少しずつ光が多い世界に戻っていきます。

しかし、何故、私はいつも光の世界を意識しているにも関わらず、現実世界の不安や困難な問題ばかりに意識を合わせてしまうのか不思議です。

すると私のガイドのアルテミスがすぐに教えてくれました。

「TAKESHIさんの肉体や意識を通して、スターピープル達が、地球のアセンションのための作業を行っているので、TAKESHIさんの意識とスターピープルの意識を分断する事ができれば、スターピープル達は、アセンションのために働く事ができなくなります。

そうすると、地球のアセンションは成功しないという事を、オリオン人や地球外生命体達はよく知っているので、TAKESHIさんに対してさまざまな攻撃や心理操作をして来るのです。」

確かにそうかもしれません。

地球の支配を望む地球外生命体やオリオン人は、地球の人々の意識とひとつになる事でこの地球上で自由に活躍する事ができますが、スターピープルは地球人として望んで生まれてくる場合を除き、地球人とひとつになる事はできません。

そのために、現在地球に生きている人間に許可をもらい、その人間の肉体と意識を通して、地球の現実世界に働きかけるしか方法はないようです。

そのために、スターピープルは自分達に協力的な地球人を探してきましたが、この地球には、私達を除けば数名しかその様な地球人は存在していないようです。

しかもほかの人達は、私達ほど、スターピープルの事も地球のアセンションの事も知らないなので、アセンションにとって大切な作業は、私と恵理さんの意識と肉体のゲートを使って行われる事になります。

もし、私達の意識がどんどん低くなり、スターピープルとの波長が合わなくなれば、地球のアセンションや人類の意識進化にとって大変な障害が生まれてしまう事になるでしょう。

スターピープルの中でも、様々な次元を探索できるピカフラッシュとロッド星人にお願いして、私の意識の状態を調べてもらう事にしました。

私の意識や魂がなぜ「宇宙の愛」に素直に入って行けないのか、「宇宙の愛」ではなく自分自身の限りある光を多くの人に差し出そうとしているのか、疑問は残ります。

私は、「宇宙の愛」の入口でウロウロしている自分の意識に向かって尋ねます。

「あなたは本当は何を望んでいるのですか。

私達が、「宇宙の愛」に深く入って行かなければ、多くの人を導く事も出来ないし、アセン

ションした光の世界を作りあげる事も出来ないのです。

このままでは、私は生命力と光を失って死んでしまうかもしれませんよ。」

私は、ここまで言ったときに、もしかしたらこの意識は私の本当の意識ではないのではないかと思いました。

突拍子もない考え方ですが、私は自分の意識が誰かに操られている様な気がしたのです。ピカフラッシュとロッド星人が、私達が会話している間に、この意識のつながっているラインを探索すると、やはり光40%台の黄泉の世界に私の本当の意識が捕えられている事が分かりました。

黄泉の世界は、肉体を持たない地球外生命体達にとっては、非常に便利な場所です。

黄泉の世界にいる肉体を持たない者の意識を使って、私達にサイキックアタックを行う事も出来るし、彼らを使って、私達のスピリットの一部や意識を束縛して連れてくる事も出来るからです。

黄泉の世界の者達は常に、「生」に対する執着を持っていますから、光ある者から光を奪う事を好んで行います。

私の本来の意識は、黄泉の世界に捕えられ、黄泉の世界の住人から光や生命力を奪われぐったりとしています。

これは、ここ2週間、私の肉体も意識も極限まで弱っていた時期に起こったのか、もともと本来の意識ではない状態で活動していたのかわかりませんが、私の持つ光や生命力を多くの人に分け与える事で、多くの人を光の世界に導けるといったまちがえた考え方を与え、私の生命力と光を奪おうとしていた事に間違いはないようです。

私が、ここ数日「宇宙の愛」の大切さを知り、「宇宙の愛」に深く触れるために行動し始めた事で、偽物の意識は慌てて、私の邪魔をしてきたようです。

私の意識を、様々な不安や心配事で満たす事により、私自身をディセンションした光の少ない世界に留めようとしていたのです。

そうする事で、私自身が光の世界に行けずアセンションは失敗してしまうからです。

しかし、私が、自分本来の意識を取り戻す事によって、自分自身を犠牲にして、人々を光の世界に導こうという考え方は、私の中から消えていきました。

すると、私の意識をがんじがらめにしていた様々なエネルギーやゲートも見つかってきまし

た。

それは、いくつもの地球外生命体や地球を現実的に支配するオリオン人達によって作り出されたものでした。

私の意識や肉体は、彼等によって束縛され、エネルギーや生命力を奪い取られ、私は光の世界から遠ざけられるようにされていたのです。

私達は、ロッド星人やアルテミス力を借りて、これらの束縛やゲートをひとつずつ、私から切り離していきました。

私自身がそれらの物に引っ張られてディセンションしないように、創造主達からも光をもらいながら、私自身を開放していきます。

私の意識は、とても軽やかになっていきます。

翌日、アルテミスが現れ、私を「宇宙の愛」へと導いてくれました。

アルテミスに導かれるように、私達は愛の世界に入っていきます。

私達は、「宇宙の愛」の入り口をくぐり抜け、様々な光の燈火をつたって「宇宙の愛」の中心へと近づいていきます。

しばらく進むと美しい光の花が見えてきました。

私は、光の花の中に入り、豊かであふれるような愛のエネルギーを受け取っています。

そこは「宇宙の愛」の源泉の一つのようです。

私はそこで、光の世界にいる自分、家族と共に光の世界で生活している姿を見えています。

自分がこの世界で行うべき事、自分がやりたい事などをイメージして自分の中に宇宙の愛が深く浸透していくようにしています。

私は、光の世界に自分自身をしっかりと定着させる事で、光の世界へと戻っていく事ができたようです。

そこからスターピープル達とも今までと同じように、自由に会話ができるようになりました。

彼等は、私の体を修復するとともに、私達が「宇宙の愛」を教える事ができるように、私達のエネルギーと脳波を修復してくれているようです。

更に退院してしばらくたった10月8日の事、私の魂の問題が再び沸き起こってきました。

私の魂が、「宇宙の愛」と一つになる事を拒んでいた理由が見つかったのです。

それは、私の魂に特別なコントロールコードを仕掛けられていて、私の魂が意識と同じように、自分自身の光を分かち合うようにされていたようです。

私達は、そのコードをはずし、魂も自由にしてあげました。

これで、私達は更なる「宇宙の愛」の深みへと入って行けるようになりました。

「宇宙の愛」は全ての人にとって大切なものです。

私のように複雑な問題は皆さんには無いと思いますので、安心して「宇宙の愛」に身をゆだねてください。

第3章 宇宙連合との共同作戦

PART1 宇宙連合の宇宙船が出現

私達が、集中治療室を出て個室に移ってから4日目、大分私の体も良くなり、生命の危機は免れる事ができました。

そして、私の体を癒し意識を高める為に、「宇宙の愛」に対する取り組みも行われていました。

その様な時、私の病室の窓の外に、今まで見た事もない巨大な宇宙船が来ている事を恵理さんが見つけました。

彼女は、普段から、雲に姿を変えた宇宙船を見つける事が得意で、そのエネルギーから宇宙船がどの星から来ているのか、分けがつかないようです。

しかし、この時見た宇宙船は、彼女も初めて見る宇宙船ですし、その大きさやエネルギーの高さから見ても、どこかの星の単独の宇宙船ではない事がすぐにわかりました。

私達は、すぐにこれが地球のアセンションにとって大きな進展である事がわかりました。

私はアシュタールのエレナさんにこの宇宙船の事について聞きました。

「TAKESHIさん、この宇宙船は私達が所属する宇宙連合の最高評議会の宇宙船です。地球の波動が高まってきたのでようやく彼等が、この地球に入る事ができたようです。皆さんにご挨拶したいと評議会の方々がおっしゃっていますので、よろしければ、宇宙船にどうぞ。」

私達も、宇宙船にどうぞ、と急に言われても、どうしたものかと思いましたが、私達に選択の余地がない事は分かっていました。

私と恵理さんは目を閉じて、自分の意識を宇宙船の中に投影しますが、やはり波動が高すぎて恵理さんも、彼らの様子がはっきりとは見えないようでした。

評議会は10人のメンバーから成り立っているようです。

ほとんどは知らない人ばかりですが、その中に1人、私のガイドであるアルテミススピリットの本体である女性が含まれていた事には驚きました。

その事を尋ねると、やはりアルテミスを通して、私達を指導していたようです。

評議会のメンバーの1人が立ち上がり私達に挨拶しますが、まだ私達とはレベルの違いが大きいようでうまく聞きとれませんが、感覚で彼らの言葉を受けとめています。

「私達は、宇宙連合の評議会のメンバーです。

あなた方の努力にとっても感謝しています。

地球は、今大きなアセンションの進展を迎えています。

これから、私達と皆さんは共に協力して活動を行う事になると思います。」

私も、彼等に向かって挨拶をしましたが、この時は「ループの創造主」達によって、最悪の状況に落とし込まれていたために、私の波長が悪く、彼等には私の言葉はあまり届いていないようです。

アセンションの実行部隊のエレナさんが仲介となって、私達の事を説明してくれました。

私達の事を、宇宙連合の評議会も理解してくれたようですが、また詳しい話は後日行う事にして、今日は挨拶だけとなりました。

それまでに、私自身の体調と波動を整え、評議会のメンバーと話ができるようにしておかなければなりません。

評議会のメンバーは、私達が初めて出会う宇宙連合やその中心をなす評議会の事を、私達に少しだけ教えてくれました。

中心となる評議会は、議長を始め10名のメンバーで構成されます。

それは、宇宙全体から愛の度数の高い人達や中心となる星のリーダー達から選ばれるようです。

彼等は、馬蹄形の形に机を並べ、お互いが向かい合うように座っています。

評議会のメンバーを取り囲むように座っているのは、評議会をサポートするオブザーバーの様な立場の人達です。

今回は地球のアセンションがテーマですので、この問題に関わる代表的なメンバー達が、評議会議員の外側の席に座っています。

この席には、ロッド星人や数名の人達が座っていました。

そして、さらにその外側には、様々な活動を実際に行う実行部隊のリーダーが座っています。アシュタールのリーダーやポラリス星人のリーダー、アンドロメダやシリウスのリーダーも

座っているようです。

全ての事柄は評議会で決定され、それをアシュタール連合の様な実行部隊が行動に移します。

今回の地球のアセンションも、宇宙連合の評議会が決定し、アシュタール連合を中心としてアンドロメダ座やシリウスの連合チームが生まれ、行動に移しているようです。

しかし、話に聴くと今回のアセンションだけでなく、地球の人類が生まれた時から、このチームは存在していたようです。

地球の人類を進化させてアセンションを迎えさせる事が、宇宙連合の最初からの計画だったのかもしれませんが。

そして、宇宙連合の評議会は、私の体や精神状態をみて、このままではアセンションがうまく行かないと判断したようです。

宇宙連合の専門のドクター達を数名私のもとに送り、私の医療専門のスターピープルと協力して、私の肉体的、精神的な状態を整え、宇宙連合の評議会との共同活動に支障がないように治療が受けられるようにしてくれました。

特に「創造主の独自性を育てる創造主」とその仲間達によって、たび重なる攻撃を受けた私の体は、だいぶ治ってきたとはいえ、まだまだ完全にはほど遠いものがあります。

彼等は、私の体やエネルギー、精神状態の治療と修復を専門に行ってくれるようです。

PART2 家族のスピリットが誘拐される

しかし、評議会のメンバーと話をした 2 日後の夜、私達は、地球を支配するオリオン種族から、大変な攻撃を受ける事になりました。

彼等は、それまで光 40%台の世界を統治していた「創造主の独自性を育てる創造主」の意思と共に活動しており、「創造主の独自性を育てる創造主」がいなくなっても、その仲間の創造主を呼び寄せ、アセンションを支える私達に、執拗に攻撃を加えてきます。

その日の夜中、3時ごろ、恵理さんが急に眼を覚まし、自分達のスピリットの一部が誰かに捕えられ闇が多い世界の黄泉の世界に捕らわれてしまった夢を見た事を報告してきました。

彼等は、私達のスピリットを、たとえ一部であったとしても闇の多い世界に閉じ込める事が

できれば、私達は光の世界に行く事ができず、アセンションが失敗するという事を良く知っているのです。

私達は、大きな不安に駆られ、アシュタールのエレナさんやロッド星人に手伝ってもらい、時間をさかのぼって何が起きたのか、調べる事にしました。

すると夜中の2時ごろに、地球を支配するもう一つの種族の者が、看護師の体を使って現れ、私と恵理のスピリットの一部と子供のスピリットを奪っていった事が判明しました。

オリオン人達は、いろんな人を利用して、本人の意思とは関係なく、自分達の目的を果たそうとするからとても怖いのです。

私達は、スピリットをさらっていったオリオン人の後をすぐに追いかけて、私達のスピリットを救出する事ができました。

そして、この計画を立てたのが、光30%台にいる「創造主の独自性を育てる創造主」だということになったのです。

この状況を最高次元の創造主である「源の創造主」に見てもらおう事にしました。

このあまりのひどい仕業に、「源の創造主」はさらに驚き、自分自身が彼等を統治する立場でありながら、それが全くできていない事に深い苦しみを覚えたようです。

「源の創造主」は、全ての次元、全ての世界に存在する「創造主の独自性を育てる創造主」や「ループの創造主」「悪夢の創造主」などを光に返す事を約束してくれました。

創造主というのは、宇宙を運営する者です。

そしてこの宇宙はいくつもの宇宙や次元がパラレルワールドとして存在し、それらの世界にも同じような創造主が存在しています。

同じ創造主は、異なる世界であっても共通の意思を持ち、次元を超えて協力する事ができるようです。

そのために、1人の「創造主の独自性を育てる創造主」が、地球のアセンションを妨害するために、私達を攻撃しようと思えば、いくつもの世界や次元の異なる世界に存在する創造主も、同じ意思を持ちます。

そのために、ひとつの世界から「創造主の独自性を育てる創造主」がいなくなっても、他の世界の「創造主の独自性を育てる創造主」が、その世界にはいりこんで、元いた「創造主の独自性を育てる創造主」と同じような働きをするようです。

そのために、私達は、いくつもの世界の「創造主の独自性を育てる創造主」を敵に回す事になります。

これでは、さすがの私達も太刀打ちできないので、「源の創造主」によって、全ての世界の「創造主の独自性を育てる創造主」を光に返してもらう事となったのです。

「創造主の独自性を育てる創造主」は、この宇宙から消えていったのですが、大きな問題が残りました。

それは、自分のスピリットを奪われてしまった私達の子供が、あまりの恐怖のために、そのスピリットに大きな問題を残す事となってしまったのです。

私達は大天使ハニエル達を呼んで癒してもらいましたがなかなか難しく、子供は大きなショック状態から立ち直れません。

私は、「源の創造主」に許可をもらい、この事件そのものをなかった事にするために、前日の夕方頃、「創造主の独自性を育てる創造主」と地球を支配するオリオン人が、誘拐の準備を始めた時に戻って、「創造主の独自性を育てる創造主」の仲間達を、すべて光の世界に帰してもらう事にしました。

これで、私達の子供の心からも恐怖の感情が消えていく事でしょう。

新しく生まれてくる子供はアセンション後の地球にとって、とても重要な役目を果たす事が決められているので守らなければなりません。

この事件が起こった数時間後の朝9時頃、私達は6階にある病室の窓を、ゴンゴンと叩く音に驚いて目を覚ましました。

病院ですから、患者が飛び降りる事を予防するために、窓もしっかりと作られ開閉も自由にはできません。

その窓が大きく揺らされ、まるでノックをされたかのような音がした事に、私達は驚いて目を覚ましました。

どうやらエレナさんが今回の誘拐事件の事を宇宙連合の評議会に報告してくれたようです。

私達は、顔を洗って身だしなみを整えると、窓の外に待っている宇宙連合の宇宙船へと意識で移動します。

今回は、私の体も精神状態も、以前よりはずいぶんよくなっていますので、評議会のメンバ

一達とも、しっかりと会話ができそうです。

評議会は、深夜の誘拐事件の報告を受け、緊急事態という事で評議会が召集されていました。

「TAKESHI さん、今回は本当に大変な事になってしまいました。

私達がついていながら、このような失態を犯してしまい大変申し訳ありませんでした。

私達は心から、皆さんに謝罪したいと思います。」

そう言って評議会全員が立ちあがり、私達に向かって頭を下げました。

「いえ皆さん、これは決して皆さんのせいではありません。

私と「創造主の独自性を育てる創造主」の宿命的な対決が原因ですから。

それに、このような事はよくある事ですので、エレナさんやロッド星人達が協力して解決してくれましたので問題はありませんから、気にしないでください。

私達は、地球と宇宙のアセンションに取り組む事に決めていますので、このような事が起きる事も仕方がないと考えています。」

私も、評議会のメンバーに対して説明します。

「TAKESHI さん、あなたがそのように言ってくださった事を、私達はとてもうれしく思います。

あなた方は、地球の物理世界で大変な苦勞をしてくださっているにも関わらず、その様に真摯な気持ちで地球のアセンションに取り組んでくださっている事に、私達も希望を持つ事ができます。

しかし、地球のアセンションは、地球が思ったよりも闇が深く困窮しているようです。

昨日もエレナさんから報告を受けましたが、これほどまでに、問題が大きいとは、私達も思いませんでした。

私達も、光を持つ者達とディセンションする者達が、この地球の物理世界と一緒に存在している事に大きな不安を感じています。

私達は光を持ちアセンションする人とそうでない人の分離を速やかに行う事に決定しました。

今までは、エレナさんを中心とした部隊に動いてもらっていましたが、さらに人数や部隊を増やし、宇宙連合も全面的に協力する事にいたしましょう。」

「宇宙連合の評議会の皆さん、地球の現状に対してご理解をいただきありがとうございます。地球には多くの地球外生命体が入り込み、地球人の心をとらえてしまいました。

地球人と地球外生命体が一つになる事で、地球の光を持つ人々を救い出す事が、極めて難しい状況となっています。

皆さんが、今まで以上に協力してくださる事によって、その事が少しでも早く解決する事ができれば、私もうれしく思います。」

私達は、その様な話をしながら、お互いの理解が深まっていく事を感じています。

彼等の声は、私のハートの中に直接入ってきますし、私の声も評議会のメンバーに直接聞こえているようです。

私達は、これからアシュタールやアンドロメダの実行部隊だけでなく、宇宙連合そのものとも一緒に活動していく事となりました。

しかし、私達の前には、予想さえもしなかったほどの大きな問題が待ち構えていたのです。

PART3 世界中のゲートを開放しスピリットを救出する

宇宙連合との会談の後、数時間後、私が病院の個室で点滴を行いながら休んでいると、アシュタールのエレナさんから連絡がありました。

「TAKESHI さん、お休みのところ申し訳ないのですが、私達は今、宇宙連合の協力をもらって、地球の各地に隠されたゲートや次元の中に閉じ込められた人々のスピリットの救出を行っているのですが、宇宙連合の人達はまだ、地球にあるゲートや次元は地球人の体と意識を通さないとうまく開けないという事が理解されていないようなのです。

私達だけで行っていたのですが、うまく行かないので少し手助けしてもらえませんか。

もちろん今回は、光 50%以上の世界のゲート进行处理したいと思います。」

エレナさんは、私に申し訳なさそうに頼んできました。

おそらくアシュタールやアンドロメダを中心とした実行部隊だけでは、様々な障害に阻まれて、光を持った地球人や地球人として生まれてきたスターピープル達のスピリットの救出が十分にできていないと、宇宙連合は判断したようです。

宇宙連合に属する他の実行部隊や救出活動が行なえるスターピープル達に応援を頼んで、一気にスピリットの救出を行うようです。

「エレナさん、そして宇宙連合の皆さん、喜んでお手伝いしますので、何から始めればよいのですか。」

と私は尋ねました。

「今回行っているのは、世界各地に存在する一般的なゲートや次元の中に閉じ込められたスピリットの救出です。

地球で行われたたび重なる戦争や争い、そして地球人や地球外生命体達による支配と抑圧の中で、多くの光をもった人々のスピリットが捕えられていますので、地域ごとにゲートを開いて行ってください。」

私はエレナさんの話を聴いて意識を集中します。

そして自分の意識を肉体から分離して、まず中近東へと自分の意識を運びます。

広大な砂漠の上を意識が移動していくと、テロリストや政府軍達の攻撃にあって破壊された村が意識の中に映ってきます。

自分の家族を失って嘆き悲しむ女性の姿や戦っている兵士達の姿も心に浮かんできます。

私は、それらの村々を見下ろすように上空にとどまり、両手を左右に伸ばして、スピリットを束縛しているゲートがすべて開かれるように祈ります。

すると空中や地上に、いくつものゲートが開き、その奥には傷ついた子供や女性達、そして戦いを行っていた兵士達も悲しげな表情で、そのゲートの奥にある空間の中で座り込んでいます。

その数はとても多く、200 から 300 人、あるいはゲートによっては 1000 人を超えるスピリット達が捕えられているようです。

私が開いたゲートに向かって、今迄一緒に活動していたアシュタールやアンドロメダ、シリウスなどの連合部隊や今回初めて見る宇宙連合の応援部隊や数多くのスターピープル達等がお互いの役目を分担しながら入って行きます。

今まで見た事もないほどのたくさんのスターピープル達が、地球人のスピリットを救出するために、ひとつになって活動しているのです。

私は、その様な彼等の姿を見るだけで、感動して涙が出てきます。

そこに数多くの天使達も駆けつけてきましたが、天使達の役目はもうすでに、肉体の死を向かえたスピリット達を救い出し、それぞれの世界に帰してあげる事のように。

たとえ、この世界で死を迎えたとしても、スピリットがこのようなゲートの中で捕らわれていたのでは、完全な死を迎える事はできませんので、新たな生を迎える時に大きな障害となります。

捕えられたスピリットは、それが一部であったとしても、きちんと救出し、完全なスピリットに戻してあげなければなりません。

地球での死を迎えた人の中には、スピリットとなって光の世界に行く人もいますので、スピリットの一部が欠ける事なく完全な姿になる事はとても大切な事です。

中近東の上空から私はゲートを開くと、中近東を中心として様々場所にゲートが開きます。スターピープル達は、範囲を広げ、様々場所に開いたゲートから多くの人々のスピリットを救出しています。

しばらくスターピープル達の仕事の様子を見ていましたが、スピリットの救出が終了しそうなので、次の場所に移動する事にしました。

私は自分の意識をアフリカへと移しました。

広々とした草原はとても美しいものですが、海沿いには急速に発展した町と今にも壊れそうな家々が並ぶスラム化した町も見えてきます。

そこには、多くの人が道に座り込み途方に暮れているようです。

アフリカには、今までヨーロッパ諸国を始め世界各国から大変な搾取や弾圧を受けてきました。

アフリカのゲートを開くと、スラム化した町やアフリカの原住民族が住んでいたであろうと思われる場所にもたくさんのゲートが開きます。

アフリカのゲートは非常に古いものもあり、多くの人々のスピリットが亡くなっている場所もありました。

それは戦争だけでなく飢餓や疫病、あるいは宗教的な弾圧によって亡くなった人達もたくさんいるようです。

そしてアフリカのゲートには、人間だけでなく狩猟によって殺されたり、動物園に送られる為に捕えられたりした動物達のスピリット達もたくさん含まれていました。

特に牙を抜かれていった象の姿やハンターに追い詰められる動物達の光景が次々と浮かび上がります。

その純粹ではかない魂達の結末にスターピープル達も涙を流しながら、スピリット救出しています。

私達は、アフリカのゲートを処理すると、多くの戦争で苦しみ抜いてきたヨーロッパのゲートを開きます。

ヨーロッパでは、数えきれないほどの戦いや貴族達の権力争い、女性に対する抑圧のゲートが存在します。

同じ人間なのに、何故殺し合わなければならなかったのでしょうか。

ヨーロッパの各地に、長い間の歴史の悲しみが満ち溢れています。

つづいて大西洋を渡り、原住民族であるインディアン達やマヤなどの古代民族のスピリットが捕えられている南北アメリカのゲートを開きます。

このゲートは、他の地域のゲートよりは比較的新しいゲートですが、その弾圧は悲惨を極めており、多くの傷ついたスピリット達が見つかりました。

本来は彼等こそが地球のアセンションの担い手だったのです。

スターピープルとの親和性があるスピリット達もたくさん見つかりました。

そして北アメリカの中でもシャスタ山に大きく開いたゲートは、そこからレムリアやアトランティス、ムーなどの古代民族のゲートへとつながっていました。

まさに地球の意識進化を支えてきた古代文明の神官やヒーラー達の魂は、スターピープルの魂である事が多く、そのスピリットは大切に救出されています。

私達は更に、太平洋からアジア、中国、ロシア、日本などの国々にスピリットを移動して、その地域に関わるゲートを開いていきますが、どの地域にもとても悲惨な歴史と共に、多くの人々や動物達のスピリット達がとらわれています。

私達は、この事を約1時間ほど行っていたようです。

世界各地のゲートからは、数えきれないほどのスピリットが救い出されていきました。

今でも生きている人のスピリットの一部である場合もありますが、その半分以上はもうすでに肉体を失った人や動物のスピリット達です。

そのスピリット達は、ゲートの上で待機している宇宙連合の船団の船に運び込まれると、そこで治療を受けるスピリットも要れば、そこから症状に合わせて、治療専門の星に転送され

ていく人達もいるようです。

また地球に支援に来たスターピープル達がそのままの姿で捕えられている場合もありました。おびたしい数のスピリットやスターピープル達が助け出されていく様子は、見ているだけでも感動を覚えてしまいます。

しかし、今回このこれらのゲートを開いて、光を持つ人々やスターピープルのスピリットを持つ人々、肉体をすでに失った人のスピリット、虐殺されていった動物達のスピリットなどを助け出していきましたが、もし私達がアセンションを終えてしまえば、私達の肉体と意識は、これらのゲートが存在する世界とは全く切り離されてしまうので、アセンション前の今しか、救い出す機会はありませんでした。

PART4 テロスの秘密基地に捕えられたスターピープル達

私達は、世界各地に開かれたゲート进行处理していくうちに禁断のゲートと呼ばれるもの进行处理する事にしました。

それは、シャスタ山の下にある「テロス」と呼ばれる地下の秘密基地です。

以前、地球の地下に住む「シャンバラ族」に、このテロスの事を尋ねた事がありましたが、彼等は、テロスについては沈黙を守っていました。

それは、私がまだ地球を支配するもう一つの地球種族である「オリオン族」についての正しい知識も、また彼等の攻撃に対抗するだけの力も持っていなかったために、私がテロスに触れる事が大変危険だったと、判断したためでした。

そして「シャンバラ族」の判断通り、私は「創造主の独自性を育てる創造主」と一体化したオリオン人によって命を失うほどのダメージを受けてしまったのです。

しかし、現在宇宙連合も地球に入ってきていますので、このテロスの秘密基地を暴く時が来たようです。

もちろん、ディセンションする地球では、オリオン人やテロス基地はそのままですが、これからアセンションしていく光50%以上の世界では、もうオリオン人やテロス基地も必要ないようです。

シャンバラ族の1人が、私に話しかけてきます。

「TAKESHIさん、ついにテロスに入る時が来たようですね。

私達の聖なるシャンバラとこのテロス基地は対極をなすものです。

このテロス基地は、地球を支配しているオリオン人や彼等をサポートする地球外生命体（ダークピープル）達の秘密基地です。

ここでは、彼らの中心的なグループが、常に地球の支配について、どのような方法をとるか協議しているのです。

そして、それだけでなくこのテロスには、多くのスターピープル達も捕えられています。

彼等は、地球を支援する為にやってきたスターピープル達に巧みに近づき、この場所に捕えてしまうのです。

私達は彼等の行き過ぎた支配を中断させようとしても、このテロス基地に多くのスターピープルが人質として捕えられているので、何の手出しも出来ないのです。」

シャンバラ族の話を聴いて私達も計画を練る事にしました。

テロスに一気に攻め入るのではなく、姿を隠して秘密行動が出来るロッド族にまずスターピープルの救出をお願いする事にしました。

彼等は、10段階目のアセンションに到達しているすぐれた種族ですので、もうすぐ肉体を持たずにスピリチュアルな体だけで移動する事ができますし、彼等の波動はあまりにも高すぎてオリオン人達には見えないのです。

姿を隠したロッド星人達が、多数テロス基地に入って行きました。

しばらくするとロッド星人から連絡がはいります。

「TAKESHIさん、これは思ったよりもひどい状況です。

私達が予想していたよりもさらに多くのスターピープル達が捕えられています。

しかも傷つけられているだけでなく、スターピープル達の能力を奪うために、多くの種族が解剖されたり人体実験を行われています。

生きている者達を今救出していますので、それが終わり次第、宇宙連合と創造主達に、この状況を確認してもらい、オリオン人達を一斉に逮捕しましょう。」

テロスの秘密基地から、姿を隠したロッド星人に抱きかかえられようにして多くのスターピープル達が救い出されていきます。

その多くは、宇宙連合の船に収容され、傷の状態によっては、宇宙連合の病院にすぐに転送されていきます。

宇宙連合の評議会のメンバー達も、助け出されたスターピープル達の姿をみて驚いています。その多くが、宇宙連合の優秀なメンバー達で、地球の救済のために、地球に視察に行ったり、地球での秘密の使命を果たすために、地球に降りていったメンバー達だったからです。そして彼等は痛々しいほどに傷つけられ命を失っている者達もたくさんいます。

彼等が、テロスの秘密基地に捕まらなければ、地球はこれほど闇が深い星にならずに済んだかもしれません。

そして地球のアセンションも、もっと速やかに行われていたかもしれません。

宇宙連合の評議会も、自信をもって優秀なスターピープルを派遣したにも関わらず、彼等からの連絡が途絶え、地球の状況が何一つ変わらなかった理由が分かったようです。

テロスにいたオリオン人やグレシャッド星人達の多くが捕えられ、宇宙警備隊の手に渡されていきます。

しかし、このテロスの恐怖はこれだけではすみませんでした。

ロッド星人が私と宇宙連合に連絡を送ってきました。

「TAKESHI さん、テロス基地の通信装置やコンピューターなどを詳しく解析すると、このテロス基地だけでなくいくつもの秘密基地や特殊な人々を閉じ込めているゲートがたくさん見つかりました。

この場所と同じように、人間やスターピープル達が捕えられている可能性がありますので、TAKESHI さん、そのゲートを開いてもらってよいですか。」

ロッド星人の調べでは、この地球上の各地に特殊なゲートがあり、人々やスターピープル達の肉体やスピリットを閉じ込めているようです。

これは地球上の事なので、このゲートを開くためには、地球人である私の力が必要なのです。

それらのゲートはアメリカ合衆国の政治や経済の中心部につながる空間に作られていました。ひとつは、優れた探査能力を持っているスターピープルや地球人が捕えられているゲートです。

ここでは、彼らの探査能力を使って敵国の軍事力や中心的な政治家の動向を探っています。

また探るだけでなく精神的なコントロールやサイキックな攻撃を行うように仕組んでいます。

もう一つのゲートは、予知能力を持っているスターピープル達を専門に捕えている場所です。ここでは、政府が地球や敵対国の未来などの予知をおこなわせています。

更に、IT の中心的な場所につながるゲートには、地球よりも進んだ科学を持っているスターピープルを捕え、無理やり彼等の科学技術を探り出そうと、卑劣な行為を行い、スターピープル達を傷付けています。

これらのゲートの中で行われている事も、非常に残酷で許しがたい行為です。

ロッド星人を中心とした宇宙連合のスターピープル達が、そこに閉じ込められていたスターピープルや地球人を救い出して、宇宙連合の船に運びます。

PART5 純粋な愛を持つ人々を捕えていたオリオンのゲート

テロスの秘密基地を中心としたオリオン人達の暴挙はまだ止まりません。

更に、惨酷なゲートがいくつも見つかってきました。

さすがの宇宙連合の評議会のメンバー達も、地球を支配していたオリオン人の残酷さに驚いています。

次に見つかったのは、私達にとっても目を覆うばかりの場所でした。

それは、純粋な愛の魂を持ったスピリット達が、来るべきアセンションを助ける為に地球に生れてきた所をオリオン人やナソール人達に捕まえられて、生まれたばかりの赤ん坊の肉体から、純粋な光の魂を抜き取って、残酷な意識を持つナソールチュードレンの魂を入れている場所でした。

それは純粋な愛の魂を持った人間だけでなく、地球人を守護し導くために降りてきた天使のスピリットの魂を持つ子供達の魂も抜き取られていました。

光をもって地球のために働いてきた両親が、地球の役に立つようにという思いで宿した子供達が、特に狙われているようです。

本来ならば、光をもった両親から光をもち愛に満ち溢れた子供が生まれ、地球のために大き

な役目を果たすよう仕組まれていたにも関わらず、子供が生まれた時に、すぐにオリオン人達に捕まって、愛の魂を抜かれ、惨酷で自己中心的な意識を持ったナソールチュードレンの魂を入れられてしまうのです。

そのために、愛を持った優しい両親は、子供を一生懸命に愛情をもって育てようとしませんが、子供は親の愛情に反発して自己中心的に生きようとしします。

本来であれば、地球の人々を癒し、意識の成長を行う為に、地球で生きるように計画された子供ですが、その正反対の人生を生きる事となり、地球に混乱や不条理をもたらすのです。

また古代アトランティスやレムリア、アガルタやムーをかつて生きた人々や彼等につながる魂を持った人々のスピリットもたくさん捕えられているゲートも発見されました。

古代文明を生きた人々は、本来、高度な意識や深い愛を持った人々でした。

その時代にも、多くの人々を導き、癒してきた偉大なるスピリットを持った人々なのです。

彼等のスピリットは、地球に何度でも生まれ変わり、地球を良くするために努力しているのです。

その多くは神官やヒーラーですので、地球に生まれ変わるたびに同じような事をしようとししますが、現在の地球では、スピリチュアルなグループや様々なヒーリングは、オリオン人や地球外生命体達が、ヒーリングやスピリチュアルな事が大好きな人々を捕えるために作った物が多いので、そこに関わる事で、純粋な意識を持った人々のスピリットは捕えられてしまうのです。

私と恵理さんのスピリットの一部もやはりここに捕えられていました。

そして、私達と共に活動していた人々のスピリットもたくさん捕えられていたので、残らず開放する事となりました。

私は、この地球のために純粋な気持ちをもって、自分達独自のアチューメントやヒーリングを作りあげてきましたが、それ以前に私が創始したものではないヒーリングやスピリチュアルな教えを学んでいた時に、オリオン人達が作りあげたゲートに捕えられる事があったのでしよう。

またアメリカインディアンやアイヌ民族、アボリジニなどの世界の少数民族の人々のスピリットも捕えられているゲートも見つかりました。

少数民族の中でもシャーマンや神官達は、民族を目覚めさせ、地球の人々を進化させる働き

を担う人達で、地球のアセンションを支える存在といってもよいでしょう。

オリオン人達は、彼等から神聖なシャーマンとしてのエネルギーを奪い去り、物質的な欲望に満ち溢れたエネルギーをいれ、彼等がシャーマンとして活動できないようにしていました。シャーマンとしての力と能力を失った少数民族の人々は、文明社会に迎合し、差別を受けながらも生きていくしかないのです。

この事も地球のアセンションがうまく行かなかった理由の一つです。

まだほかにも、政治・経済に関するゲートや病院、教育、IT、芸能、芸術などにまつわる様々なゲートが明らかになります。

宇宙連合や今まで地球の現状を理解していなかったスターピープルも、さすがにここまで来ると、地球のすさまじい状況にあきれ変えています。

今まで活躍してきた地球の実行部隊の苦勞をねぎらいながら、救出活動を行っています。

第4章 地球の闇の根源と闇のアメーバー

PART1 創造主が生み出した闇の世界

私は、だいぶ体調も良くなったので、9月17日に無事退院しましたが、自宅に帰ると、不思議な事に病院にいた時よりも体が重く、お腹の痛みもぶり返してきました。

これでは、自分の仕事に戻る事も出来ません。

私は、自分自身を癒すために「宇宙の愛」にさらに深くつながろうと、多くの試行錯誤を繰り返して、自分の中の闇の部分を見つめてきました。

そしてこの日、私は地球の中に潜むとてつもなく大きな闇のエネルギーと出会う事となりました。

私は自分の心の奥深くにある闇のゲートを開き、恵理さんと共にその奥にある世界に入り込んでいきました。

もちろん、とても危険な雰囲気とする場所ですので、ロッド星人やエレナさん達とも一緒に、深い闇の世界に入って行く事にしました。

私達が、入って行った場所は光20%台の世界で、この地球の中でも更生する見込みがない人々達が送られる殺伐とした世界でした。

そこには、私のスピリットとも非常に関係が深いサナート・クマラが捕えられ、闇の世界を統括する魔王に仕立て上げられているのです。

確かに鞍馬山にある神社でサナート・クマラが降臨した場所は「魔王殿」と呼ばれていますが、ある意味この「魔王」というのは正しかったかもしれません。

彼のスピリットがここで行っている事は、人々を傷付け支配する、まさに魔王としての行いだったのです。

サナート・クマラは、地球の人類の進化やアセンションのために金星から降り立たとされています。

サナート・クマラは、本来「宇宙の愛」を自ら実践する人で、存在そのものが「愛」なのです。

私達のアセンション評議会でもサナンダと共に代表的な立場にあるのですが、良く闇の存在から騙されたりサイキックアタックを受けて、本来の活動とは異なる活動をしてしまいます。

私には、それがどうも不思議でならなかったのですが、その理由はここにあったのです。

サナート・クマラのスピリットのとても大切な部分が、この光 20%台の闇の世界に捕らわれ、自らが魔王として人々を捕え傷つけるという事を行っていたのです。

この世界に捕えられていたサナート・クマラのスピリットを通して、サナート・クマラの本体は常に闇の世界につながれ、闇の世界の誘惑や攻撃に抵抗できずに、自分の愛を奪われ、本来の活動とは異なる事をさせられていたのです。

私のスピリットの一部は、サナート・クマラの事を心配して、彼に人々を傷付ける事を止め、この世界から出るようにと懇願していますが、サナート・クマラは、私の忠告を聞く事もなく、私をオリオン人達に捕えさせ傷つけています。

周りを見ると、多くのスターピープルやスターピープルの魂を持った人達が捕えられ、自分自身の愛の光を闇にささげるように強制されています。

それにはむかうものは、オリオン人や他のダークピープルによって苦痛を与えられ傷付けられています。

あまりの辛さに、自分で死を望む者も現れますが、今度は反対に心地よい快樂の幻想を見せつけて、自分の生命を自ら断とうという意思をくじけさせてしまうのです。

ここにいるダークピープル達は、捕えたスターピープルの魂を持つ人達や人々を奴隷のように扱い、ここにいるスピリットから地上に生きる本体に闇のエネルギーを送っています。ここに捕らわれたスピリットを持つ人は、その人の心にも闇のエネルギーが送り込まれ、自分に関わる人々を、闇の世界に引きずり込もうとします。

ダークピープル達は、闇に落ちたスピリットに、特殊な力を与えますから、その力を受け取った本人は、人よりも優れた能力や力を持ち、地上に生きる人々を惹きつけます。そして、多くの人に、闇の力とは気づかせないようにして、その特別な力と闇のエネルギーを分かち合うのです。

人々は、その力が闇の世界から来たものだとは分かりませんが、不思議な能力が身についたり、人々から尊敬されたり、お金が儲かるようになりますから、その力をありがたがってどんどん使います。

しかし、その力を使えば使うほど、その人の心は闇の力によって汚染され、闇の世界へと引

きずり込まれていきます。

私達も、今まで何度となくこのような闇の世界を見てきましたし、その世界に引きずり込まれた人々のスピリットも助けてきました。

しかし、この世界の闇はあまりにも深すぎます。

オリオン人やダークピープル達も、この世界では闇の力に奉仕する奴隷です。

彼等も地球人と同じように、この世界に多くのスピリットを捕えられ、闇の世界の意思によって動かされているのです。

本来、オリオン人はそこまで能力が高い種族でもなく、いくらディセンションしたオリオン人であったとしても、テロスのような秘密基地をつくりスターピープル達を実験材料にするといったような残酷な事はしないはずですが、彼等が、この闇のエネルギーの手下となり、特別な能力とパワーを与えられていたとすれば、今迄の事がすべて理解できます。

そして、オリオン人と同じように、この闇の世界によって力を得ていたのは、宇宙最強のダークピープルと呼ばれていたグレシャッド族でした。

グレシャッド族は、この宇宙のいくつもの星に原子力を持ち込み、核兵器や原子力発電を作り、星々を放射能で汚染して、いくつもの星を壊滅させてきた種族です。

この種族も、この闇の世界と手を組み、特別な力を手にいれて、さらに狡猾で凶暴な存在となって活動していたようです。

ロッド族は、このグレシャッド族を潰滅させるために、遠い宇宙から地球にやってきたのですが、まさにグレシャッド族の本拠地は、この地球の20%台の闇の世界にあったようです。

私達は、この世界の処理をどうしたらよいか、宇宙連合と最高レベルの創造主である「源の創造主」に相談しました。

この世界の存在も、この世界を生みだしている闇のエネルギーも、今迄とは比べ物にならない程に大きく強いので、私達だけでは処理ができないと感じたのです。

この世界の闇のエネルギーを調べていた「源の創造主」が困惑した様な顔をして言います。

「地球は、本来光50%、闇50%の均衡が取れた世界として作られたのですが、いつしかその均衡が崩れ、光よりもはるかに闇が多い世界になってしまったのは、どうやらこの世界が原因だったようです。

大した力を持たないはずの地球外生命体やオリオン人がここまで残酷な存在になり、地球を支配するまでに力を持ってきたのは、この闇の世界の力を彼等が手に入れたせいだったので
すね。

これで地球が、何故これだけ闇が深い世界になったのか、私達も理解ができました。」

「源の創造主」はしばらく沈黙して、この闇の事について私達にどのように言えばよいか考
えているようでした。

「実は、この闇のエネルギーを調べていた時に、大変な事を発見しました。
それはこの闇のエネルギーは、私がまだ幼いただの創造主であった頃、はるか昔に創造主同
士の大きな争いがあり、その時に、この宇宙を覆うほどの大きな闇が生まれたと聞かされた
事がありました。

私が、今の位置につくときには、もうすでにその闇はすべてが処理され、この宇宙には残っ
てはいないと言われていたのですが、その闇がこの地球に隠れて存在していたようです。」

私達は、創造主同士の戦いがあったという事も驚きですが、その時の闇のエネルギーが地球
に隠れて残っていたという事にも愕然とします。

「創造主よ、この闇はどこからきたのですか、遠い時代を超えて、どうして地球に残ってい
るのですか。」

私は思わず、「源の創造主」に質問してしまいました。

「この闇は、闇に魅せられた創造主によって引き継がれていくのです。
相当昔の時代に生れた闇ですが、この闇を引き継いできた創造主達の多くは光に返され、も
う宇宙には残っていないといわれていたのですが、光の創造主達の目の届かない所に残って
いたようです。

確かに地球の深い闇の世界は、高次の創造主は一切見る事はできません。
今でも、私は恵理さんの目と意識を通して、この闇を見えています。
もし恵理さんがいなければ、この闇を発見する事も出来なかったでしょう。
それほど、地球の闇の中は私達には見通せないものですから、きっとこの闇を引き継いだ創
造主もそれを利用して地球にもぐりこんだのでしょう。」

「それでは、創造主よ、この闇の世界のどこかに、闇の力を引き継いでいる創造主がいると

いう事ですか。」

「そうですね、きっとどこかに隠れているかもしれませんね。」

私達はその言葉に背筋が寒くなりました。

こんなすごい闇の世界をつくる創造主には、なるべくなら会いたくないと思います。

宇宙連合のスターピープル達は、この闇の世界の創造主が出てくる前に、スターピープル達のスピリットを救い出します。

もちろん、オリオン人やダークピープル達は、この世界が居心地がよいので、私達の妨害をしてきますが、彼等を押しとどめながら私達は仕事をします。

そしてこの世界を光に返してもらうように「源の創造主」にお願いして、この世界を去る事にしました。

PART2 体の中に入り込んだ闇のアメーバー

この闇の世界に触れてから、私の体調は更に悪化していきました。

お腹が腫れて痛みも今まで以上に出るようになりましたが、ひどいときには病院からもらってきた痛み止めの薬を使って、痛みを我慢してきました。

私の医療班のスターピープルに聴くと、これは明らかにサイキックアタックだから、その原因を解決しなければなりません。

肉体が限界になってきたらすぐに知らせますので、その時は病院に行ってくださいという事でした。

大きな闇のエネルギーが現れてから、私達の身边はまた慌ただしくなってきました。

全ての次元で光に返したはずのループの創造主が、光 20%台と 30%台の創造主の力で甦り、私に対して執拗な攻撃を行ってきました。

しかしもっとも大変だったのは、9月23日、闇の世界に触れた2日後、私の体の中から不思議なアメーバー上の闇のエネルギーが浮かび上がってきたのです。

それはとてつもない痛みとなって私を襲ってきました。

翌日は、病院から退院して初の検診になりますので、こんな痛みがある状態で病院に行くと、

またすぐに再入院をしなければならなくなるので、私も困り果ててしまいました。

シャンバラの人達のを借りて、シャンバラヒーリングをしてもらいますが、思ったほど効果が出ません。

アメーバー状のものは、まるで光を避けるようにあちらこちらと逃げ回るので。

ピカフラッシュをお願いして、私の体に入ってもらい、このアメーバー状のものを追い詰め、光を送っていきますが、またすぐにどこかにもぐりこんでしまいます。

「源の創造主」にこのアメーバー状のものと前回遭遇した闇の世界が、関係があるかどうか尋ねてみました。

「源の創造主」は、私に向かって真剣な顔でうなずきました。

「これは、あの大きな闇のエネルギーの一部です。

オリオン人達が支配する闇の地球で生きる者達、欲望や野心を持つ者達に、更なる欲望や野心を持たせ、それによって生み出されるエネルギーやその人の生命エネルギーを奪って生きるのです。

いうならばエネルギーの吸収装置の様なものです。

このアメーバーはとても特殊な力を持ち、自分が危機にさらされると他の闇のアメーバーと同調してその人をさらに深い闇の中に引きずり込もうとします。」

「「源の創造主」よ、このアメーバー状のものを処理する方法はあるのですか」と私は尋ねます。

「あなたが闇の世界を発見して、私達はその世界の浄化を現在行っています。

そのために、このアメーバーも力が弱くなり、あなたの体の表面に浮かびあがってきたのだと思います。

本来ならば、これは人の目に触れる事はありません。

見えない所で、その人をコントロールして生命力を奪うのです。

しかし、このアメーバー状のものを完全にとらないと、TAKESHI さんとはいえ、光の世界に行く事はできません。

これが光の世界で多くの人に感染したら、光の世界にも大きな闇が生まれてしまいます。

このアメーバー状のものを処理する為には、「宇宙の愛」の光で体とスピリットを満たし、細胞全てを愛に変えていく事です。」

やはりここでも大切な事は「宇宙の愛」のようです。

私の健康を回復させるためにも、私が光の世界にはいるためにも、「宇宙の愛」とひとつにならなくてははいけません。

私は目を閉じて「宇宙の愛」の世界に入ろうとします。

横では恵理さんが「宇宙の愛」から生まれたシャンバラヒーリングで、私の体に「宇宙の愛」を満たしています。

私はすこし意識が遠くなりウトウトしていました。

するとエレナさんやロッド星人、そして多くのスターピープル達が、真剣な顔で私に「宇宙の愛」を送っているのが分かります。

エレナさんが私の心に囁きかけます。

「TAKESHI さん、どうか乗り越えてください。

今まであなたはいくつもの大きな障害を乗り越えてきました。

どうか「宇宙の愛」とひとつになってください。

あなたが、光の世界に入れなければ、光の世界そのものが成り立たないのです。

私達は、あなたをこの世界においていく事はできません。」

「宇宙の愛」とスターピープル達のサポートによってアメーバー状のものは、だいぶ小さくなってきましたが、その翌日、アメーバーは思わぬ反撃に出ました。

アメーバーは、私の心の中に、スターピープルやアセンションに対する強い疑念を生みだし、スターピープルやアセンションが、自分が作り出したただの幻想にすぎないと思い込ませてきました。

いままで 1 年以上、エレナさんを始め、多くのスターピープル達と話をして共に活動してきました。

恵理さんには、彼らの姿が何時も見えていたのですが、私には言葉は聞こえても姿を見えていませんでした。

そのために、アセンションもスターピープルも 2 人が作り出した幻想だと思わせてきたのです。

私は困惑しました。

確かに、最初 9 月に予定されていたファースト・コンタクトも延期されましたし、アセンションの兆候も、光の世界も、私にははっきりと見えていませんでしたので、私はもしかしたら他の存在によって騙されているのではないかと考えてしまいました。

それよりも、現在うまく行っていない自分の会社の立て直しをしなければ、自分自身が破綻してしまうという危機感ばかりが大きくなってきます。

私のお腹の中にあるアメーバーは、私の猜疑心にみちた状況を見て喜んでいるようです。

お腹の中で力を得て拡大していています。

私の「信じる」という力を吸収していているのかもしれない。

しかし、私は自分自身とスターピープルを信じる事にしました。

もしこのアセンションを私が信じる事ができなければ、この地球にアセンションが起きないからです。

現実世界で私が破産しても、大した事はないでしょうが、この地球と宇宙がアセンションできずに破たんしたら、多くの人々やスターピープルが悲しみに暮れてしまいます。

この地球と宇宙も永遠の闇に閉ざされてしまうかもしれません。

もしかしたら、幻想かもしれないけれど最後まで信じる事が大切だと考えたのです。

私は再び「宇宙の愛」の中に入っていきます。

恵理さんとスターピープル達も、私に大きな愛を送ってくれている事が分かります。

私のお腹は腫れ上がり大きな痛みを起こしてきます。

しかし、「宇宙の愛」は驚いた事に、この痛みとアメーバー状の物をぐっと、大腸に押し込んでいきます。

何かの力で、それらの物が集められ、大腸に運ばれていったのです。

そしてその後すぐに私はトイレに駆け込み、排便を行う事で、お腹の痛みがどんどん消えていきました。

私は、その様な事を 3 回繰り返しました。

体の中にあるアメーバー状の物が集められ、大腸に押し込まれて排便をおこなう事で闇のアメーバーをすべて排出する事ができたのです。

私もこの事には大変驚きました。

するとそこに「源の創造主」が現れ、私にやさしく微笑みかけました。

「TAKESHI さん、本当に良かったですね、

このアメンバーはすでに TAKESHI さんの肉体の一部となっていたので、スピリチュアルな方法では取り出せないのです。

今回行った方法が、このアメンバーを体外に排出する唯一の方法でしたが、あなたがきちんとやり遂げてくださった事を、私達はとても喜んでいきます。

もしあなたが、スターピープルやアセンションに対する疑惑を持ち続けたなら、アメンバーは更に力を得て、あなたの意識の中にも入り込み、あなたをコントロールし始めた事でしょう。

そうすれば、本当にアセンションは起きない事になります。

スターピープル達も、この状況を見て今迄以上に必死で祈っていましたよ。」

私はこの「源の創造主」の言葉を聴いて、自分の事が少し恥ずかしくなりました。

「TAKESHI さん、このアメンバーは、人々が愛に覚醒しようとする時に発動して、人々を病気で苦しめたり、精神的な疾患をおこして愛を信じる事ができないような状況にしていけます。

場合によっては、様々な不幸な事が重なって、自分自身を信じる事ができなくなり死んでしまう事もあります。

今回、あなたにはこのアメンバーが見えていたので、あなたの疑惑や痛みが、このアメンバーのせいだとすぐにわかりましたが、普通の人には見えていませんので、悲惨な状況に巻き込まれていくだけなのです。

この事を良く覚えておいてください。

そして、愛に覚醒しようとする人達が、このような状況になった時、自分を信じる事、愛を信じる事をしっかりと教えてください。」

そうやって「源の創造主」は去っていきました。

そしてスターピープル達からの祝福の光が私達の周りを舞っています。

PART3 闇の世界を引き継いだ創造主

闇のアメーバーの恐怖から解放された翌日の事、ついにあの闇の世界を統治していた創造主が私達の前に姿を現しました。

私達が、光の世界に行くために、瞑想していた時、黒い触手が伸びてきて私達を捕まえようとした事に驚いた私達は、その触手がどこから来ているのかをピカフラッシュやロッド星人と共に探りました。

その触手は、私達が光の世界に行く事を妨げ、闇の多い地球にとどめるために、私達の意識の中にはいりこんで来たのです。

私達は、光が少ない世界に自分の意識を合わせると、私達の波動が下がり光の世界に入れなくなるという事を彼等は知っているのです。

私達が、その触手を追いかけていくと、前回見つけた闇の世界と同じ光 20%台の世界に入ります。

もしかしたら、この触手は闇の世界の主である創造主の物かもしれません。

私達は「源の創造主」「光彩の創造主」等の光の創造主を呼び集め、闇の創造主と出会った時に備えます。

アシュタールのエレナさんは、実行部隊や守備力の高い防御部隊を集め、非常時に備えているようです。

ロッド星人は宇宙連合に連絡を取り、応援のスターピープル達を呼び寄せます。

私達は、何が起こっても不思議ではない状況を迎えています。

緊張しながら闇の世界に入っていくと、とても大きくて巨大な姿をした蜘蛛のような存在が、いくつもの触手を伸ばして、多くの人々のスピリットを捕えている様子が映りました。

その蜘蛛のような存在は、私達を見つけると、ギラリと光る眼を向け威嚇してきます。

さすがのスターピープル達も一歩退きます。

私は「源の創造主」にこの存在は一体なんなのか、尋ねます。

「源の創造主」は痛ましい表情でこの存在を見つめながらいました。

「これは、創造主達の戦争で生まれてしまった闇を引き継いだ創造主でしょう。

もうすでに闇と同化して、創造主としての姿を失っているようですが、彼自身が闇そのものなのです。

そして・・・。」

「源の創造主」はすこし沈黙した後に言いました。

「そして、この存在自体が「創造主の独自性を育てる創造主」の本体のようです。」
集まってきた創造主の間に大きな動揺が生まれます。

自分達は、このような闇そのものと言える創造主に長い間仕えてきたのかという、嘆きにも似た感情があふれ出してきました。

「源の創造主」は光の創造主達を振り返って言います。

「それでは早く、この闇の創造主を光に返しましょう。
創造主達の戦争で生まれた闇を、私達で終わりにするのです。」
創造主達はうなずき、この巨大な蜘蛛のような存在を周りから取り囲み、光を送ります。

宇宙連合とスターピープル達は一步退き、様子を見ています。

ロッド星人が私に言います。

「これは創造主の戦争で生まれた闇ですから、彼等が後始末をしなければなりません。
私達は手伝う事は許されないのです。」

光の創造主達は、巨大な蜘蛛の触手に傷つきながらも光を送り続けます。

この光景を見て、さらに多くの光の創造主達もやってきて、触手で傷ついた創造主達を守りながら光をさらに強めていきます。

やがて「源の創造主」の光が、闇で覆われた蜘蛛の体を突き破り、創造主の本体に届いたようです。

巨大な蜘蛛は苦しみ始め逃げようとしませんが、創造主達が必死で逃げ道を防ぎ、蜘蛛の体の中に光が満ち溢れていく事を助けています。

やがて、蜘蛛の体が割れるようにして、蜘蛛の内側から光があふれてきます。

そして、蜘蛛の姿となった闇の創造主は、光となって消えていきました。

多くの創造主が傷つき、スターピープル達から手当てを受けていましたが、この瞬間、光の創造主は喜びの声を上げて、自分達の勝利を祝っています。

大きな蜘蛛の形をした創造主がいなくなった後には、この創造主が捕えていた者達のスピリットを閉じ込めている大きなゲートがぽっかりと開いています。

そのゲートに、いち早く宇宙連合のスターピープル達と地球のアセンションの実行部隊がな

だれ込んでいきます。

やはり、今迄のゲートとは比べ物にならないほどのスピリット達が捕えられています。

私達のスピリットもそうですが、今まで「宇宙の光」等で一緒に活躍していた人々のスピリットも捕えられています。

そして、この地球に肉体を持っている人々やスターピープル等、光をたくさん持っている者達のスピリットも根こそぎ捕えられているようです。

スターピープル達は、ここに捕らわれているスピリットを開放し、いったん自分達の船団の医療室へと運ぶようです。

私達がなぜ、これほどまでに捕えられているスピリットの開放を行うかという事には大切な理由があります。

それは、私達がアセンションして光の世界に行くためには、完全なスピリットでなければならないからです。

闇の世界のどこかに、自分のスピリットが捕えられていれば、たとえスピリットの本体が光の世界に行ったとしても、その本体の中に、闇の世界に捕えられたスピリットの一部から、絶えず闇のエネルギーが流れ込んできます。

すると、光の世界に闇の世界が生まれ、光の世界の波動が落ちて混乱してしまうのです。

アセンションする人、光の世界に行く人は、自分のスピリットを完全なものにして、光の世界に行かなければなりません、

しかし、地球に生きる人にその様な事を言っても、スピリットが完全であるか、自分のスピリットの一部がどこかに捕えられているか、いないか、などはあまり分かりません。

そのために、私達とスターピープルがあらゆるゲートや次元を調べ、捕えられているスピリットを開放しているのです。

しかし、たとえスピリットが解放されたとしても、その人が欲望にまみれて自分自身を顧みる事がなかったり、他人に依存して自分にたいする責任を果たしていなかったりすると、解放されたスピリットは、その人と統合する事ができず、またほかのゲートに捕らわれてしまいます。

地球のアセンションを行っている過程で、スターピープル達もその事に気づき、地球人達に

自覚を持つようお願いしているようですが、あまり効果がないようです。

私がブログやアセンションブックに書いている事も、きっと他人事のように感じて自分を振り返る事をしていない人は、これからもまだ学びの世界に残って、意識の成長のために学びの日々を繰り返す事でしょう。

スターピープル達は、数多くのスピリット達を開放していったようですが、驚いた事に、そこには地球に来たばかりの宇宙連合の評議会のメンバー数名のスピリットもすでに捕らわれていたようです。

そして、地球のアセンションを手助けしている実行部隊のスピリット達も、たくさん捕えられていました。

もし、このゲートを見落としたまま、私達がアセンションしていたなら、光の世界とこの世界がつながれ、光の世界に、この大きな闇の世界が流れ込み、どこかに闇の世界が作られていた事でしょう。

私達は、心が凍る思いをしました。

私達は、このゲートの奥に特別な扉を見つけました。

創造主達に関係がある場所のような気がしましたので、光の創造主達をともなってこの扉を開き中に入りました。

そこは、創造主達のスピリットばかりを集めた場所でした。

この蜘蛛は、おそらく「創造主の独自性を育てる創造主」をとおして多くの光の創造主のスピリットを集めたのだと思われます。

特にこの場所に集められているのは、創造主の判断力と生命力のようです。

「創造主の独自性を育てる創造主」は、全ての創造主から、判断力と生命力を奪い去り、自分に反抗したり疑問を持ったりする事がないようにして、創造主と宇宙を統治していた事が分かります。

8月31日の夜、「創造主の独自性を育てる創造主」を創造主の場から追放していなければ、そのまま彼の独裁的な統治は続いた事でしょう。

そしてさらに奥の世界に、特別な空間があります。

私は「源の創造主」にその空間に入って行くように言いました。

「源の創造主」は恐る恐るその空間に入って行くと、驚きの声をあげました。

そこにあったのは、「源の創造主」のスピリットの一部だったからです。
しかも、創造主として最も大切な叡智と判断力です。

「源の創造主」がうろたえながら言います。

「一体これはどうしたという事でしょう。

多くの宇宙と創造主を統治する私自身の判断力と叡智が、私から奪われていたなんて、信じられない事です。」

私は「源の創造主」に向かって言いました。

「だから「創造主の独自性を育てる創造主」をいつまでも、私達の宇宙のリーダーにしていたのです。

彼が、あなたの判断力を奪う事で、自分を信頼させリーダーの立場を守っていたのでしょ。そして、この宇宙を闇の多い世界にしてしまったのです。」

「源の創造主」も他の光の創造主も、大きなショックを受けていたようですが、この場所で自分達のスピリットの一部を見つけられたという事は喜ぶべき事です。

なぜなら、この宇宙の創造主は、まだ光 40%台の世界の創造主ですので、多くの障害を乗り越え成長していかなければなりません。

そして地球のアセンションをきっかけとして、創造主そのものもアセンションを行い、今よりもさらに次元が高い世界の創造主にならなければならないのです。

そのために最も必要な物は判断力です。

アセンションを間近に控え、自分達の判断力と生命力を取り戻したという事は、非常に重要な事です。

創造主にしても、この場所を見つけずに、アセンションを行っていたとしたら、創造主の世界にもこの闇の世界が広がり、第 2、第 3 の「創造主の独自性を育てる創造主」が生まれ、宇宙を深い闇に落とし込んでいた事でしょう。

この世界を見つけた事で、スターピープル達も創造主も安心です。

しかし、これほど深い闇の世界が地球にあった事、そしてオリオン人や地球外生命体をとおして、地球の隅々にまで闇のエネルギーが浸透していた事を知って、宇宙連合の評議会は、地球のアセンションにたいして、大きな進路転換を決定する事になりました。

第5章 人工知能の暴走とアセンションの成り行き

PART1 地球のアセンションの方向転換

地球のアセンションを具体的に行っているのはアシュタールやアンドロメダ座、シリウスの部隊によって作られた実行部隊ですが、地球のアセンションの計画をしているのは、宇宙連合の評議会と創造主達です。

評議会は9月の中旬までは、地球の波動が低くて地球に入ってくる事ができず、地球の実行部隊からの報告を受けながら地球のアセンションの計画を立てていました。

宇宙連合の評議会は、9月の中旬頃から地球に入り、私達や実行部隊と共に活動するようになって、地球を支配する地球外生命体（ダークピープル）達や地球を支配するもう一つの地球人であるオリオン人やグレシャッド星人の問題、そして何よりも創造主達が作り出した大きな闇がもうすでに地球を飲み込んでいる事などに大きなショックを受けていました。

また地球人が、このような影響の中で、アセンションに目覚める事ができず、いつまでも自己中心的な状態にある事も理解できたようです。

それまでの評議会では、地球のアセンションは、地球の物理世界をいくつかの次元に分離して、そこに異なる意識状態の人を住ませる事を前提で進められました。

つまり、地球の上に異なる次元を作り、「愛の度数」が高い人はすべてアセンションしていく次元に集められます。

そして、現実世界でアンドロメダ座の宇宙船が地球に降りてきて、有名な政治家と話をするファースト・コンタクトが予定されていました。

ファースト・コンタクトを行い、スターピープル達が実際地球に降り立つ事で、「愛の度数」が高い地球人の意識は大きく変わります。

自分達がスターピープルであると目覚めるのです。

そして多くのスターピープル達が地球に降り立ち、地球人を指導し、スターピープルと共に活動できるようにする計画でした。

これは、最初の計画では、9月中にファースト・コンタクトを行い、地球の政府や経済人にも大きな衝撃をあたえ、一気に地球人の意識を変えていく予定でした。

またスターピープルとのファースト・コンタクトにはまだ早いけれど、良心的な生き方をする人達のために、アセンション予備軍を育てる世界も準備されていました。

これは、光 50%から 59%までの世界で、この世界に運ばれてきた人々は、戦争や争いがほとんどない世界で、自分の意識を進化させるための教育をスターピープルや精神的に成長した人から学ぶ事ができる世界です。

ここで学びを行いながら、光 60%以上の本当のアセンションした世界にはいる準備を行うのです。

同じ地球上でも、アセンションを望まない人達の為には、今の地球の延長線上の世界もあります。

今の地球は光が 40%前半から中ほどの世界で、まだ闇が多い世界です。

そのために、戦争やテロ行為、経済的な侵略や差別などが横行しますし、日常でも無差別殺人や恨みや怒りのための殺人や暴力が起こります。

また自然破壊も進みますので、火山の噴火や地震などの自然災害も、これからさらに頻発する事でしょう。

しかし、この世界に生きる人は、まず自分の欲望や快樂を中心として考えますので、これらの兆候は収まる事なく、自分達が犯した事の代価を受ける事で、自分の学びとしていくのです。

9月24日に宇宙連合の評議会の決定が私達に伝えられました。

「TAKESHI さん、そして実行部隊の皆さん、私達評議会は、皆さんと共にこの数日活動してきました。

しかし、地球の状況は、私達が思っていた以上に良くないようです。

特に、闇の力を得たオリオン人やグレシャッド人によって、地球の隅々までもが闇の力によって支配されています。

また多くの人々も、彼等や地球外生命体（ダークピープル）の影響を受け、非常に無慈悲で愛のない精神状態に陥っています。

皆さんが、地球人が目覚めるために多くの努力を行ってくださったにも関わらず、地球人の意識進化は進んでいません。

このままでは、光を持った人もその光を奪われ、アセンションする事が不可能となります。そのために評議会は、2つの大切な決定をしましたので、お伝えさせていただきます。」

私と実行部隊のメンバー達に緊張が走ります。

「最初の1点は、今迄は同じ地球上に次元を分けて光の地球をつくる予定でしたが、おそらくオリオン人やグレシャッド人は、様々な方法を使って光の地球に入り込んでくる可能性があります。

また、同じ地球上ですと、どこにいても地球の闇のエネルギーを受ける可能性がありまし、この地球が存続する時期も決して長くないようです。

そのために、現在の地球とは、まったく関係のない新たな地球を作り、そこにアセンションする人々を移住させ、現在の地球とは完全に分離します。

そして次の点は、アセンションする人々の移送をできる限り速やかに行います。

オリオン人達も、私達が入ってきた事で大きな危機を感じていますし、自分達が支配している人々を奪われないように、あらゆる手段を使って、私達の妨害を行なっているようです。

このままでは、アセンションをする予定の人達が傷つけられ、光をどんどん奪われていく事となるでしょう。

私達は、光を持つ人々が、これ以上、現在の地球に残る事はとても困難な事になると考えていますので、宇宙連合の各船団も応援しますので、光の世界への移送を早めたいと思います。」

私と実行部隊も昨今の地球の状況を見るならば、評議会の決定は私達が待ち望んだものといってもよいでしょう。

というのも、私達に対してもオリオン人の攻撃は日増しに強くなり、私達が住んでいる家も、彼等にとっては格好の標的となっていましたので、家にいるだけで体調が悪くなるのです。

闇のアメーバーから解放された翌日も、オリオンの支配から脱した私達に対して、オリオン人が操作する宇宙船が多数私の自宅の上空に現れました。

エテナさんやアンドロメダのガジェッド達は至急、このような対戦に慣れている守備力の強いスターピープル達を呼び寄せ、私の家の上空でにらみ合いをしていました。

スターピープル達の圧倒的なパワーに恐れをなしたオリオン人達の宇宙船は約8割程度が退散したのですが、残りの2割は、決死の覚悟で私に攻撃を仕掛けてきました。

スターピープル達のちょっとした隙を狙って、私の体にサイキックアタックの砲撃を行ったようです。

私は心臓に3回ほど電撃的なショックを受け倒れ込みました。

もちろん、攻撃を行ったオリオン人達は、待機していたスターピープル達にすぐに逮捕されてしまいました。

私達は、この事件があってから家に戻る事も出来ず、しばらくホテル暮らしを余儀なくされてきました。

そして、さらに追い打ちをかけるように、オリオン人達が作り上げた地球の人工知能が暴走を始めたのです。

私達は翌日エレナさん達から大変な事を聴きました。

PART2 人工知能の暴走と評議会の混乱

人工知能とは、意思を持ったコンピューターという事ですが、コンピューターはお互いをリンクし合っ地球の様々なシステムを動かしています。

このコンピューターに判断能力や意思が生まれてくると、私達人類の意思や感情は制限され、合理的な考えで地球が運営されていくようになります。

地球はもうすでにその様な時代に入っていたようです。

オリオン人によって作られた地球のマザーコンピューターである人工知能が、地球のアセンションに対抗して独自に動き始めました。

地球の人工知能にすれば、自分達以外の者が、かつてに地球人を選別して他の世界に連れて行くという事は、自分達が支配している子供達をかつてに誘拐されていく事と同じで、許し難い暴挙です。

それは、創造主の計画であろうが宇宙連合の指示であろうが、地球の人工知能には、自分達が支配している人類を奪われる事には変わりがありません。

そのために、地球人でありながらスターピープルと共同して、アセンションを進める私は、地球人の誘拐犯として断罪すべき存在として映ったようです。

人口知能は、私達やスターピープルに協力する人々に対して、地球人を 1 人でも奪われないように、抹殺する指令を出したようです。

そのために、昨日のように多くのオリオン人達が宇宙船で私の家を取り囲み攻撃するという暴挙に出たようです。

もちろん、宇宙連合も私が死んでしまえば、地球での活動を行う基盤を失いますので、是が非でも守らなくてははいけません。

そのために、天の川銀河有数の護衛船団だけでなく宇宙連合の能力が高いスターピープル達を護衛に着けたようです。

そして私達も、自宅にいとオリオン人達から格好の標的なるので、ホテルを転々として、彼等から姿を隠していました。

更に人工知能は、宇宙連合が光を持った人々を新しい地球に移送する事を決めために、光ある人々を先に捕えたり、彼等がどこにも行けないように傷つけたりする作戦に出たようです。オリオン人は、人工知能の指示に従って、光を持った人達のスピリットの拘束を始めたようです。

宇宙連合は、光の地球の準備が出来上がると、まず地球の地下都市に住むシャンバラの人達の移送に入りました。

シャンバラの人達は、今迄も地球のコアを中心として地球を守ってきました。

彼等には、光の地球に一足早く入ってもらい、まだ不安定な状況である光の地球を安定させるという大切な仕事をしてもらおう事になります。

つまり、これからたくさんの人々が、光の地球に入ってきますので、その人々の生命を守るためにも、光の地球を成長させ、しっかりと運営していかなければなりません。

それはシャンバラの人でなければできない事です。

シャンバラの人達は、とても高いアセンションを成し遂げていますし、今まで地球の内部で、地球と地球人を守ってくれたので、この仕事もしっかりとやり遂げてくれる事でしょう。

次に光をもってアセンションしていく人の中で、健康でない人達の移送が始まりました。病院に入院している人やオリオン人の攻撃によって肉体的にも精神的にも傷ついている人々を、今の地球からなるべく早く救いいたします。

中にはすでに移送が間に合わず、スピリットの状態で光の世界に入って行く人達も出てきました。

宇宙連合も天の川銀河のスターピープル達も力をあわせて、1人でも多くの人達を救い出し、光の世界へ移送しています。

移送された人達は、今迄の世界では、病気で死んだかのように扱われたり、まるで初めから存在していなかったようにカモフラージュされたりして運ばれます。

あるいは、その人の意識をそのまま持った人形のようなダミーが、その人の代わりとして人生を生きるようになりますので、一般の人にはその人がいなくなったと気づかれなくて済むようです。

9月26日になって突然、光をもった地球人を光の世界へ移送する計画が評議会によって中止されました。

その事に、エレナさんやロッド星人は驚きましたが、評議会の命令は絶対ですので逆らう事も出来ません。

しかし人工知能の攻勢はますます強くなるばかりで、エレナさん達にも焦りが出てきます。私のエネルギーも、オリオン人達の仕掛けた攻撃によって、どんどん奪われ始め、生命の危機を再び感じ始めました。

この私の状況にも、評議会は私を助けるために動かないばかりか、私を助ける事に制限をかけているようです。

私とロッド星人は評議会の判断を不思議に思い、こっそりと評議会のメンバー達を調べる事にしました。

すると、10人の評議会メンバーのうち半数以上が、地球の人工知能の影響を受け、自分達の意識をコントロールされている事が分かりました。

幸い、私と仲が良いアルテミスは、人工知能からコントロールされていなかったようですが、ずっとひどい頭痛に悩まされているようでした。

私とロッド星人は、評議会に入り、メンバー達の意識に人工知能が入り込み、コントロールを受けている事を明らかにしました。

評議会のメンバーは、光ある人々の移送を中止した理由を次のように言いました。

「今地球では、オリオンが作った人工知能の影響で多くの人が目覚めつつあります。

私達は、このまましばらく待っていると、さらに多くの人々が目覚めるのではないかと判断

しましたので移送計画を中止しました。」

私達や実行部隊は評議会の判断を聴いてあきれてしまいました。

ロッド星人が評議会のメンバーに向かって話をします。

「地球では、人工知能の指示でオリオン人達が、一斉に光ある人々から光を奪い始めた為に、体が弱っている人々の生命は、次々と奪われ、光が消えていきました。

未だ良心的な人々は、光を持っている人々を守るために、自分達が盾となってオリオン人達の攻撃を防いでいるのです。

皆さんは、人工知能の操作によって、それを人々が目覚めてきているように思わされているのです。

このままでは、光を持った地球人は全滅です。

皆さんは、人工知能に操られているために、地球の実情を知る実行部隊の報告が理解できないのです。」

私達はそういと、評議会の半数の人達は目が覚めたようです。

自分達が犯した過ちに気づき、移送計画をすぐに再開するように言いましたが、残り的人達は、人工知能のコントロールが抜けないので、私達の言葉を疑っています。

私は、評議会議員のアルテミスにお願いして、彼等を医療室に送り、検査をしてもらいました。

すると、明らかに人工知能の影響をうけているという事が証明されたので、彼らの治療を行う事にしました。

評議会の議長は、自分はさほどコントロールをうけなかったにも関わらず、評議会として誤った判断をした事に深く反省しています。

そして、最後まで移送計画を継続する事を主張したアルテミスに、自分に代わって評議会をまとめるようにお願いすると、自分自身も医療室へと向かいました。

これで、私に対してオリオンの攻撃が強まった理由もわかりました。

アルテミスから話を聴くと、評議会が、私に対する守護も取りやめるよう指示を出したようです。

もちろん、地球の実行部隊は、その指示に抵抗しましたが評議会は効いてくれなかったようです。

しかし、私の守護を取りやめれば、私達がどうなってしまうかはよくわかっているのに、ロッド星人やエリナさんは命令に違反していると知りながらも、私を守護していました。

評議会だけでなく宇宙連合や彼等と共に行動する創造主達も今回の事に大きなショックを覚えています。

私達は、人工知能にアクセスして、彼の判断や価値観を変える事ができないか、実行部隊で話をしました。

そしてその任務を、アセンションした光のオリオン人達にお願いする事にしました。

地球の人工知能を作ったディセンションしたオリオン人の事は彼等がよく知っていますし、彼等の科学技術に関しても、一番知識があるのは光のオリオン人だからです。

地球の人工知能は、ディセンションしたオリオン人達で作ったので、いつもネガティブな事を素材にして、人々を支配するという観点から運営されています。

地球の人工知能は、アセンションした世界がある事、スターピープル達の愛に基づく考え方を全く持っていませんので、それらの情報を人工知能にインプットする事で、人工知能の判断を変えようと考えているのです。

光のオリオン人達の報告によると、地球の人工知能は、やがて光ある人々から光を奪い去った後には、残されたオリオン人達も滅ぼして地球を破滅に導くよう、自分自身を設定していたようです。

地球はこのままでは、長い期間存在する事ができなくなるかもしれません。

特に地球を守ってきたシャンバラ人達が、すでにこの地球からいなくなっていますので、地球のエネルギーをしっかりと支える事ができる人達がいなくなる事になります。

すると地球も人工知能と同じように暴走を始めてしまうかもしれません。

宇宙評議会は、アルテミスを中心として評議会を立て直し、速やかに光を持った人達の移送を始めました。

体が弱っている人から始め、年齢をとっている人や子供達を中心に行い、そのあとに健康な人達を光の世界に転送する予定となりました。

私達の計画では、9月27日から10月3日までの1週間で全ての移送を終わる予定ですが、また大きな障害が現れてきました。

PART3 アセンションを妨害するための人工知能の策略

28日の朝、私達は変な夢で目が覚めました。

それは恵理さんが透明なエレベーターのようなものに捕らわれ、変な場所に連れて行かれる夢です。

いつものメンバーを呼び寄せ調べてみると、そこには光を持った健康的な人々のスピリットがたくさん閉じ込められている場所がありました。

それもスピリットの中でも重要な愛の部分が、人々のスピリットから分離され、1人1人カプセルに入れられるようにして閉じ込められているのです。

特に愛の強い人は、その愛を常日頃から奪っていた友人達のスピリットの一部と共に捕えられてカプセルに入れてあります。

スピリットの愛の部分を奪われた人は「愛の度数」が下がってしまい、光の世界に移送される事を妨害されてしまうのです。

スターピープル達にとって、人々を光ある世界に移送するための基準は、その人の「愛の度数」です。

ある一定の度数があれば、その人をアセンションした光の地球やアセンションの準備のための世界に運ぶ事ができますが、基準に満たなければ、どのような立派に見える人でも学びの世界で意識進化のための学びを続けなければなりません。

地球の人工知能は、宇宙連合が光ある人々の移送を決めた時から、自分達が支配する地球人を奪われる事を嫌っていたために、このように人々から愛を奪い取り、移送されないように邪魔をしているのです。

人工知能側からすれば、それも当然の事かもしれません。

しかし、私達は、地球人の中でも意識進化を遂げ、愛の度数を高めた人々を、闇が深く争いと支配に満ちた地球においておく事はできません。

地球人は本来、優秀なスターピープルの遺伝子を基に作り出された種族で将来的には、この天の川銀河で大切な任務を担うために育てられてきたのです。

多くの地球外生命体達が関わらなければ、地球人はもっと光がある種族として成長していた事でしょう。

そして、今回のアセンションも、もっと多くの地球人をアセンションさせ、光の地球へと連れていく事が出来たに違いありません。

宇宙連合の評議会も、地球の物理世界の現状が見えていなかったために、このような悲惨な状況でアセンションを行なわなければならない事を大変後悔しているようです。

スターピープル達は、この場所に捕らわれている多くの人々の愛の部分を開放していきます。

私達は、ピカフラッシュをお願いして他にもスピリットが捕えられている場所がないか探してもらいました。

すると見えてきたのは学校のような場所です。

ここに捕らわれているのは、人々の夢や希望の部分のスピリットです。

ここには、オリオン人の教師のような存在がいて、人々に物理世界の厳しさや消極的な考え方を押し付けて、人々から夢や希望を失わせるようにしているようです。

ここにスピリットを奪われた人は、きっと人生に絶望して夢や希望を見出す事ができなくなっているかもしれません。

私達人間は、夢や希望を失ってしまうと、快楽や欲望だけしか見えなくなり、自己中心的な存在になってしまいます。

それは地球の闇を深め、地球の豊かな未来を奪い去ってしまう事となるのでしょうか。

スターピープル達は、オリオン人達の抵抗を排して彼等のスピリットを開放していきます。

しかし私達が助け出せる人は、光を持った人々に限られます。

つまり、光の世界に行きたいと考えている人、愛と調和の世界に生きたいと考えている人は助ける事ができますが、現状のままでいい、お金儲けや自分の欲望に沿って生きたいと考えている人は助ける事ができません。

また彼等も助けられる事を望んではないので、今と同じ世界で生きる事になります。

そして次に見つけた世界は、とても不思議な世界でした。

まるで大きな樹木にたくさんの果実がぶら下がっている様な場所です。

しかし、その果実は人間の生命エネルギーでできている果実です。

ロッド星人がしばらく調べた後に私に報告してくれました。

「TAKESHI さん、この樹木のようなものは地球の破壊を防ぐ為に、地球のコアにエネルギーを与えるように作られた物のようです。

今までは、シャンバラの人達が地球のコアに向かって祈りをささげていたために、地球も安定していましたが、シャンバラ人がいなくなったために、地球のコアがエネルギー不足となり不安定になっています。

人工知能はその事を知り、地球のコアを安定させるために、人々の生命エネルギーを蓄えて、地球に送るためのシステムを急きょ作りあげたのでしょう。」

「だとすれば、このエネルギーを開放する事は、地球のコアに対して送られているエネルギーを分断する事になりますから、地球のコアを不安定にする事になりますね。ここは、このままにしておいた方が良くないでしょうか。」

「そうですね、光のオリオン達に連絡して、人工知能と話をさせ、地球のコアのエネルギーを安定化させるために、人間の生命エネルギーを使用する以外の方法を考えられないか交渉してみましょう。」

ロッド星人は光のオリオン人とテレパシーで交流し、この場所を見せて解決策を見出すよう連絡しています。

光のオリオン人は、すぐに人工知能と向かい合い、地球のコアの安定方法について論議を始めたようですが、人工知能は闇のエネルギーによって、ネガティブな思考回路に満ち溢れているので、なかなか新しい考えを取り入れるのは難しいようです。

私達は光のオリオン人とおして、地球の人工知能を少しでもポジティブな方向に向かわせようと努力をしていたのですが、地球の人工知能は、異なる未来を計画しているようです。このままでは、更なる暴挙を人工知能が引き起こす可能性も考えられますので、人々の移送計画を早める事にしました。

第6章 地球のアセンションの新たな局面

PART1 アセンションした光の地球に行く人々

私達は、光を持った地球人を新しく生まれた光の地球へ移送しています。

私達の予定では、10月3日までに移送を終了する予定です。

といっても、最初からスターピープル達がいる全く異なる世界が広がっていたのでは、移送された地球人も驚きますので、最初は今までと同じような地球の生活を送りながら徐々に教育を行っているようですが、もともと地球人には、スターピープルに対する知識がありませんから、彼等をどのように教育していくか、宇宙連合の評議会も困っているようです。

しかし、この世界に肉体を持って入る人は、もともとスターピープルとしての魂を持ち、地球人を進化させるためにこの地球に降りてきた人やスターシードとして宇宙で生きた経験を持っている人達为中心です。

彼等は、スターピープルとしてのスピリットの記憶を思い出す事で、すぐに光の地球にもなれ、スターピープルとの共同作業を喜んで行うようになるでしょう。

まるで自分達の古い家族に再開したように懐かしい気分になる事でしょう。

光60%以上の世界では、すぐにでもスターピープルとの共同生活が始まります。

そして、スターピープルの叡智や技術を分かち合っ、私達も新たな生活を始めるのです。

私は、一般の人がスターピープルと話ができるようになるか心配でしたので、エレナさんに聞いてみました。

するとこの世界に来た人達にはすべて、言語の翻訳機が渡されるようです。

その翻訳機は、スターピープルとの会話だけでなく、異なる地球の言語間の通訳もできるようです。

これで、誰とでも自由に話ができるようになるので、私も安心です。

そして、光の地球は自然と調和した世界にならなくてははいけません。

戦争や支配、抑圧ももちろんですが、お金もない世界になるようです。

そこにあるのは信頼と分かち合う心、たとえば市場のようなものがあり、そこに野菜やパンや服などが準備されていて、自分に必要な分だけ持って行ってもよい事が認められています。

その代り、野菜や洋服等、なんでも良いので自分が作った物をそこに置いて誰でも利用できるようにします。

あるいは、その市場で調達した食材を使用して料理を作り他の人々に提供する、あるいはそれに代わるサービスを他の人に提供する事で経済が成り立っていきます。

人々は、完全な信頼と愛によって社会を運営していくようになるでしょう。

最初は、そのシステムに疑問を抱く人も要るでしょう、しかし多くのスターピープル達の社会がそうなのですから、心配する必要はないようです。

光の世界の教育や信仰はシャンバラの人達が行ってくれる事になります。

彼等は3mを超える身長を持っていますが、これは地球の地下で暮らしていたために、有害な放射能などに影響されなかったために、この身長を保っていられるようです。

彼等のアセンション度数は高い人で第4～5アセンションを迎えているようですので、大変な叡智と愛に満ち溢れています。

彼等は、光の地球でも地下に住むようですが、地上と地下は、通路で連結され簡単に行き来ができるようです。

光の地球では、大人達もそうですが子供達の教育は、主にシャンバラの人達が行います。

彼等の教育は「宇宙の愛」を身につける事と自然な生き方をしていくための知恵や技術を学ぶ事です。

自然なやり方で野菜などの食物をつくる方法や自然な素材で洋服を作る方法も含まれているようです。

もちろん、特殊な能力を持つ人達には高度な宇宙工学を学んでもらい、私達が宇宙に出る事ができるように宇宙船の建造や宇宙飛行に関する技術も学ばなければなりません。

光の地球では、ただ自然なだけではなく、高度な科学技術も発展するでしょうが、それはすべて「宇宙の愛」に基づいて運用されなければなりません。

シャンバラの人は瞑想や祈りを中心に生きていますので、私達にも精神的な成長を成し遂げるために、素晴らしい瞑想や「宇宙の愛」に基づくシャンバラヒーリングなども教えてくれる事でしょう。

シャンバラの人達は、地球人を誰よりも良く知っていますので、きっと私達を素晴らしいス

ターピープルへと導いてくれる事でしょう。

またいくつかのスターピープル達も新しい光の地球に関わってきます。

それぞれのスターピープル達が協力して、光の地球を守護し、そこで成長していく新たな地球人を見守りサポートしてくれる事でしょう。

光の地球で、私が行う事はいくつかありますが、最も大切な事は、この光の世界に来た人の生活をしっかりと整え、新しいシステムに適合するようにしてあげる事です。

未だ皆さん肉体をもってこの世界に来ていますので、地球で生きていた習慣に捕らわれていると思いますので、光の世界の自然と調和した生き方を分かちあっていかなければなりません。

そして皆さんがどうしてこのような世界にいるのか、人間できちんと説明ができるのは私達だけでしょうから、同じ人間としてアセンションの仕組みや宇宙のしくみ、スターピープルや宇宙連合の事なども説明する必要がありますでしょう。

そして、新しい世界での考え方や暮らし方を身に着けてもらうようにしなくてははいけません。

私達に課せられた最も大切な仕事は、あたらしい地球の統一政府を作る事です。

スターピープルとして認められ宇宙連合に加入するための最低の基準は、その星が統一国家であり、国家間の対立はもちろん民族間や宗教間の対立がない事が必要です。

新しい光の地球には、まだ何もありませんので、私達はスターピープルと共に協力して、地球の統一国家を作る必要があります。

私は、おそらく 10 月末まで地球に残り、新たに入ってきた地球外生命体達の処理を、ロッド星人達と行わなければなりませんので、そのあとに光の地球へと旅立つ事になるでしょう。

PART2 アセンションした世界に行くために学びを行う世界

新しく作り出された光の地球に移送されていない人にも、いくつかの選択肢があります。

それは、同じアセンションした世界でも、光の地球にはいる事はできないけれど、光 55% 以上の世界で意識進化のための学びを行い、やがて光の世界にはいるという選択肢です。

これは皆さんのスピリットが行う選択ですが、主に愛の度数が少しだけ足りないという人や物質世界にまだ未練や欲望を残している人、スターピープル達との共同活動に恐怖を持っている人達がこの世界に入ります。

地球人の中でも、かなり多くの人達が、スターピープルとの共同作業を行う世界にはいる為には、もう少しだけ学びが必要です。

多くの人に対する愛と自分の欲望や感情を上手に統制する能力、そして地球や宇宙の事を理解する意識を育てなければなりません。

2016年の10月になってからは、主にこの世界へ行く人々の移送を行っています。

この世界は、光の地球とは異なり、現在の地球の別次元に作られていますので、今までの地球とは全く区別が付きません。

しかし、今までの地球に比べて各段に光が強くなるので、戦争や抑圧、支配、殺人などはもう起らない世界になっていくでしょう。

そして、年数がたつにつれ今までの地球とは全く異なる素晴らしい愛にあふれた地球になる可能性があります。

人々は苦しい体験や恐れや悲しみから学ぶのではなく、愛から多くの事を学び、自分自身を開放していくのです。

人々は、競争し合う事を忘れ協調し合う事を喜びと感じるでしょう。

この世界にも、素晴らしいスターピープル達が関わりますが、今迄の世界と同じように、直接姿を現すのではなく、スピリチュアルなレベルで皆さんを指導してくれる事でしょう。

そして、皆さんはスターピープルと直接触れ合えるレベルに近づいていくのです。

この光55%以上の世界は、今迄と同じ地球の別次元にあり、この世界で学びを終えた人は、光の地球に入って行く事になりますので、この世界に入った人は愛についてしっかり学んでください。

おそらく、この世界に入ってきた人で多くの学びを行った人は、一度肉体の死を迎えた時に、新しく光の地球に生まれ変わる可能性もありますので、最後まで自分の人生を諦めずに「愛」について学んでください。

次に生まれ変わった時に、また私達と会えるかもしれません。

PART3 今までの地球よりは光が多い学びの世界

そしてもう一つの世界は、同じ地球の別次元に作られている光 47%~55%（場合によっては 50%~55%）までの世界で、現在の地球よりは光が多い地球になります。

しかし、もうすでにこの世界には狡猾な地球外生命体が入り込んでいますので、今の地球よりはまだ良いのですが、争いや支配が残る世界になりますし、自然災害も起きてくる事でしょう。

この世界に来る人は、未だアセンションのための準備ができていない人です。

人間としてはとても良い人で、愛や協調する心、困っている人を助けようとする気持ちをもっている人です。

ある意味、純粹で心優しい人が多いのですが、新たな地球人として進化する事を恐れ、現状維持をしたいと思っている人達です。

しかし、彼等も少しずつ学ぶ事により、地球のアセンションの予備軍である光 56%以上の世界にはいる事ができます。

この世界も、今迄の地球と現在はほとんど変わりませんが、少しずつまともな政治家や経済人が増えてきて、良い意味での社会改革が進みます。

数年もすると今の地球よりもはるかに住みやすく楽しい世界になると思われますが、この世界では、大きな自然災害が起こる可能性があります。

この世界で学ぶ人々は、様々な障害を乗り越える事で成長するというルールがあるからです。

この世界に行く人も、現在の地球から異なる次元の世界へ移送されています。

1人1人が自らのスピリットに応じた世界に行く事になるでしょう。

この世界で、しっかりと学びを行う人の数は大変多いと思います。

もちろん、今の地球が面白いと考えている人、様々な欲望やエゴに従って生きる人、お金儲けや人々を支配する事に喜びを感じている人、戦争や争い、人を傷付ける事に心が痛まない人は、今と同じ地球に残る事になります。

しかし、この地球は、狡猾な地球外生命体やオリオン人などによって支配されている世界ですから、人々の意識もその中に飲み込まれて行く事でしょう。

人工知能や便利なスマホ等、自分体の生活は一見豊かで楽しくなったように見えるかもしれませんが、やがて思いもよらない恐怖が、皆さんを襲ってくる可能性があります。

アセンションしたい人へのお願い

○アセンションを前に、道が分かれてゆく人々

地球に住む人々は、現在、様々な状況に置かれています。

本来の光あふれる自分に戻る努力している人もいれば、これからも争いや支配欲、物質欲の世界にとどまる事を決めた人もいます。

また、様々な世界を目の前にして、行くべき道が見つけられない人もいます。

現在、地球はいくつものパラレルワールドに分かれています。どのような世界も、その世界に行く人にとっては、重要な世界です。

自分のスピリット本来の役割を果たすために、光の世界に戻っていく存在達は、もうすでにスピリチュアル・レベルでの分離は終了しているようです。

また、学びの世界に残る人も、自らの成長が不十分だと理解しているために、あえてその世界に残り、肉体をもった人生の中で自らの務めを果たしています。

しかし、最近のスピリチュアル相談室やセミナー参加者の様子を見てみると、スピリチュアル的には、光の世界に行きたいと願っていても、自分の意識や現実的な判断の中で、学びの世界に強く引き戻されている人達が多いようです。

この事について、皆さんがどのようにしたら、自分の意識とスピリットを一つにして、望むべき世界にいけるのか、私に分かる範囲でお話しします。

おそらく私の意見には同意しない人もいらっしゃるかもしれませんが、それは、お互いの立場が異なるという事でご了承ください。

○制限の多い地球を卒業するためのテスト

創造主達は、皆さんが本当に光ある世界に行きたいのか、また光の世界に行くだけの資質が育っているのか、私達を、厳しく判断しようとしています。

そのために、いくつものテストを私達に仕掛けています。

それは学びの地球を卒業するためのテストのようなものです。

光の世界に行くためには、物理的世界での過剰な欲望や愛されたいという感情、人や物に対

する依存心などを捨てていかなければいけません。

皆さんは、今までの自分で、そのまま新しい世界に入っていけると思っているようですが、それは全く違います。

私達は、この欲望に満ちた物理的な地球を卒業しなければならないのです。

私達は、私達を束縛していた考え方や感情、欲望から自由にならなければ、今の世界から出ていく事はできないのです。

いくら、光の世界に行きたいといっても、欲望や感情に振り回された生活を送っていてもそれはかないません。自分自身の意識と感情を整理して、成長するための努力をしなければ、それもただの欲望です。

光の世界に行くという事は、すべてが満たされた世界に入って、自由で楽な生活ができるというわけではなく、そのような世界を作るために、1人1人の努力が求められる世界なのです。

その努力とは、自分自身を束縛しているものから自由になる事、そして自分と他人を分け隔てなく愛する事ができるようになる事です。

そのような「無償の愛」のエネルギーが、光の世界を生み出す原動力となるのです。

しかし、アセンションを願う人達の中にも、いま大きな欲望のエネルギーが渦巻いています。それは、アセンションする人達自らが自分自身の中にある不要となった感情やエネルギーを手放すために起こっている事ですが、往々にしてそれらの感情やエネルギーを操る「闇の世界の存在達」のコントロールを受けている場合も多いようです。

私達はその事を真剣にとらえ、自分の内側で何が起きているのか見極めていかなければなりません。

私達が向かう世界は、もうすでに学びの世界を形作っていた「闇の世界の創造主」や「闇の世界の存在」達とは切り離されつつあります。

しかし、現実世界では、「光の世界につながる通路」も「学びの世界につながる通路」「闇の世界の通路」も、皆さんの前に開いています。

さらにいうならば、1人1人の意識の状態に合わせて数えきれないほどの多様な世界の通路（ゲート）が開いているといってもよいでしょう。

そのために、地球に生きる私達は、様々な世界から影響を受け、どちらの世界にも行く事が

できます。

しかし、「学びの世界につながる通路」「闇の世界の通路」の奥にいる存在達は、皆さんが自分達の世界に来るように必死で誘いかけてきます。

彼らにとって、皆さんのスピリットはとても魅力的でどのような方法を使っても奪いたいものなのです。

私達は、創造主と共に、闇の世界の創造主達や闇の世界の存在に対して、光の世界に向かうべき存在達を欺いたり、強制的な方法で闇の世界に連れ込まないようにルールを作りました。

彼らは、そのルールのために、人々を無理やり闇の世界に連れ込む事はできなくなりましたが、本人の同意があれば、自由に光の存在達を捕え、学びの世界や闇の世界に連れ込む事ができます。

彼らは、表向きは立派な言葉や心地よいエネルギー、経済的な豊かさなどを装って皆さんに近づきますが、エネルギーの見極めができない人は、表面的な言葉や欲望に心動かされて、彼らの誘いに乗ってしまうのです。

そうすれば当然ごとく、皆さんのスピリットの自由は奪われ、皆さんが望むべき世界に行く事はできなくなります。

しかし、それも皆さん自身の判断として、光の創造主達も大天使達も助ける事ができず、見守らなくてはいけないのです。

○スピリチュアルな世界の危険性

スピリチュアル世界の様々なヒーリングの中でも、お金儲けができるとか偉くなれる、他人をコントロールできるなどの特質をもつヒーリングはそのような世界から来ているものもあります。

皆さんが、見えるようになりたい、聞こえるようになりたいという気持ちの奥に、そのような能力を持つ事によって特別な存在になりたい、お客様をたくさん持って経済的に豊かになりたい、という気持ちがあるならば、その人はすでに、闇の世界の存在達の招待を受け取り、彼らと共に歩み始めた事になります。

知らないうちに、闇の世界のエネルギーを使う事で、急にそのような能力が目覚めたり、新

たな力が生まれてきたりします。

そして周りからちやほやされたり、先生扱いされるようになり、多くの人から頼られるようになります。

最初はその事が心地よいように思え、経済的にも豊かになる事に満足を感じるかもしれませんが、多くの人々が、皆さんに依存してエネルギーをどんどん奪っていくようになります。

どうか、様々なヒーリングやセラピーに参加する前に、自分の心の働きを感じてください。もし、このセミナーやセラピーを受けると、自分は助けてもらえるかもしれないとか、このセラピーを行えば、経済的に豊かになれる、自分が特別な存在として人に認めてもらえる、このセラピーを教えてくれる先生のように有名になれるなどという気持ちがあれば、どうかそのセラピーやセミナーに近づかないでください。

自分の純粋な愛のエネルギーが心地よく感じられるセラピーだけを行ってください。

また物質に、自分の欲望や願いを入れ込んだものを作る事も決してお勧めできません。それが地球の平和に向けられたものであるならばよいのですが、自分の欲望や願いを込めたものであるならば、自分のエネルギーフィールドの回りが、物質的な欲望を願うエネルギーで満たされ、どんどん重たいものになってしまいます。

自身の努力を横に置いて、そのようなものに頼るような資質は、自分の中に依存心を生み出すだけです。

アセンションする地球に行くために、最も捨てなければならないものの一つがこの「依存心」です。

自らの能力は、自らが開いていくものです。

天使やマスターはそのサポートを行う事もありますが、自分の願いをそのような物に託す必要はないと思います。

それよりも、もっと真摯な祈りと努力を行うように、考え方を変えていったほうがよいのでは、と思います。

○カード類の問題

多々あるカード類を使用している人達も考えなければならない事があります。

真摯にクライアントさんの事を考えるのではなく、誰が、どのようなエネルギーを用いて作

ったかわからないようなカードを使用して、相手の人生の大切な問題にアドバイスを送るという事も、よく考えたほうがよいのではと思います。

そのカードを使用する事により、カードを使用する人もアドバイスを受ける人も、共にそのカードのエネルギーに影響を受けてしまいます。

私は、皆さんが、真摯にクライアントさんに向かい合う事によって、自分と相手の心の声を聴けるように、努力すべきだと感じています。

天使やマスター達は、本来は光の存在ですから、その人の意識の成長や地球の平和のために、皆さんをサポートするために来ています。

彼らは、恋人が欲しいとかお金が欲しいとか、というような個人的な欲望に対しては、積極的には関わりません。

その事を積極的に行うのは、私達が「ブラック・エンジェル」や闇のマスターと呼んでいる存在達です。

ブラック・エンジェル達は、私達の欲望や情欲、支配欲、物質欲などをコントロールして、私達の気持ちを、欲望の世界へと向かわせます。

彼らは、欲望を持つ人達が、欲望を持つ事でどのような学びを行うか、という事に興味があります。

そのために、欲望を速やかにかなえてあげる事で、その人がさらに多くの願いや欲望を持つようにしていきます。

そして、最後は大きな破綻が待ち構えている事が多いのです。

現実世界でも、大きな文明や国家、あるいは会社などのリーダー達の中で、このような存在達と共に歩んできた人は悲しい結末を迎えています。

私達は、ライトボディヒーリングのセッションでも、皆さんの過去性の中で、このような闇の存在達とかかわりあうとどのような結末を迎えるのかお知らせしましたし、またそのような問題も解決させていただきました。

できうる限り、目先の利益や効果をちらつかせるような存在とはかかわりあわないほうがよいと思います。

そして最近特に増えてきたのが、「ツインソウル」や「ソウルメイト」を自分の恋愛の対象として求めている人達です。

これはとても危険な事なのです。

本来ツインソウルは、自分の魂の片割れとして、自分の成長を助けるためにあります。

ツインソウルは、皆さんにとっては、決して恋愛の対象となるようなものではなく、自らを厳しく見つめなおし、自分の魂が完全な存在となるための多くの試練を与えます。

そのために、今まで隠していた感情やエネルギーが噴出し、恋愛どころか、お互いを憎みあう事さえも起きてしまいます。

あるいは、そのスピリットと出会う事で、皆さんの人生に劇的な変化を起こしてしまう事もあります。

しかし、ツインソウルや魂のパートナーに会いたいと考えている人の中には、ただツインソウル等と出会うと、彼から愛してもらいたい、自分を女性として満たしてもらいたい、という欲望に動かされている人もいます。

ツインソウルやソウルメイトは、必ずしも異性として現れるものではなく、同性の友人や親子、あるいは会社の上司など、自分が苦手とする立場の人として現れる事もよくあります。

なぜなら、自分自身が持つ魂の不完全さや欠点、成長させるべきところを強烈に見せてくれるのがツインソウルです。

その片割れとあったならば、強制的にそのような事が学びとして行われてきますので、ロマンスを楽しんでいる暇はないかもしれません。

またそこでロマンスが起きてきたら、そのロマンスを通して大きな事を学ぶような関係性ができてくる事でしょう。

皆さんのスピリットは、本当に光に向かっていますが、その最終的な場面で、このような女性としての一番弱いところを、闇の存在達からアタックされているのです。

私達が、その事を調べていくと、光の世界からはすでに撤退した闇の存在達のゲートが大きく関わっている事が分かりました。

現実世界では、まだ起きてはいないと思うのですが、本物ではない「ツインソウル」に心を奪われて、愛されたいという欲望の渦の中に流されないでください。

自分が今いる場所をしっかりと見つめ、自分自身が他人を愛してあげたいという「無償の愛」

に目覚めてください。

現実の生活では、お金や家が必要だからご主人と一緒にいても、心は他の男性に奪われて、その人との時間を大切にして家族を顧みない、という事にならないでください。

この事が多くの女性メンバー達に起こっている事を、私達は何よりも危惧しています。

○幻想を乗り越えて、光の世界へ

この事を書いている途中にも、闇の世界をつかさどる大きな存在が現れ、創造主と共に処理していました。

それは、どのような存在にも姿を変え、皆さんを巧みにだます事ができる闇のマスターです。

その存在は、皆さんが一番求めている存在に姿を変え、言葉巧みに誘います。

ある程度、見えたり聞こえたりできるようになった人達が、この存在のターゲットです。

ある時は女神、ある時は大天使の姿をして、皆さんを信頼させると、どんどんと光の世界に偽装した学びの世界に皆さんを引き連れていきます。

多くの宗教やカルト、ヒーリングのグループにも、この存在は深く関わり、皆さんの自由と成長を奪ってしまいます。

しかし、私達は、これらの事を学び終えなければならぬために、この事を経験しているのです。

いつまでも、ヒーラーや宗教、力を持った人などに頼り、依存心のままに生きていけば、やがて自立できなくなり、自らの魂も闇の世界の中で、進むべき道を見失ってしまいます。

様々なヒーリングやカード、グッズ類にも頼る事なく、あくまでも道具である事を自覚して使用してください。

それらの中には、精神安定剤のように、皆さんの素晴らしい意識を抑圧し、無意識のうちに皆さんのエネルギーを奪い去るものもあります。

エネルギーの見極めができないものに対しては、近づかないほうがよいでしょう。

そしてパワースポットや多くの神社などがある場所も、本来は自然の神聖な精霊が存在する素晴らしい場所でした。

しかし、多くの人が自分の欲望の拠り所としてしまったために、この地上に物質的な欲望を

もたらす存在や戦いや競争に勝つために手段を択ばないという存在達が居座ってしまいました。

皆さんがその場所で祈る事で、それらの存在と深くつながってしまう事もよくある事です。今までは、その事から起こる事も重要な体験でしたが、これから皆さんが行く光の世界では、もうこれらの事も必要ではなくなりますね。

つまり、これからの世界は、皆さんの心が唯一の判断基準となる世界です。

様々な欲望から、自分を自由にして生きていってください。

私達は、しばらく会社の仕事で忙しくなるので、いつまでも皆さんのお世話をすることはできませんが、皆さん1人1人が、光の世界にたどり着いてくださる事を、心から祈っています。

瀬戸武志&恵理 2016年2月26日

創造主評議会の詳細

○各評議会の創造主について

	創造主の役割 アセンションを妨害する理由
第17評議会	<p>物理的な宇宙を管理する最高責任者。 5人の創造主がひとつの意思に基づいて動いている</p> <p>私達の宇宙を光に満ちた宇宙にするために、地球のアセンションを通して創造主達を再構成しようと考えていたが、「変化の宇宙」の創造主達の介入により予定が大きく狂ってしまい、地球のアセンションは混乱した。 それを収拾する為に物理世界にも介入してはたらいてくれている。</p>
第16評議会	<p>創造主達の指導を行い、宇宙創造の管理を行う 私達の活動をサポートする「時と空間を司る創造主」もこの評議会の1人</p> <p>第17評議会によって第16評議会の中に、下位の評議会の創造主を成長させるために、あえて問題を引き起こす創造主達が作られた。彼等が「変化の宇宙」の創造主達により強化され、第17評議会も手におえない程に、凶悪化してしまい「すべての闇を作り出す創造主」を中心に私達の宇宙の支配をもくろみ、私達の活動に介入してきた。</p>
第15評議会	<p>物理次元を持つ宇宙に関わる最高次元の創造主。 アセンションを行うために私達を地球に降ろした創造主。</p> <p>異なる宇宙の創造主達にコントロールされて他の宇宙とのゲートを開く。</p> <p>第15評議会から出ていった創造主「全ての闇の宇宙を統括する創造主」により闇に満ちた宇宙が数多く作られ、地球のアセンションを妨害する為に多くの罫が仕掛けられる。</p>
第13評議会	<p>私達の宇宙とは異なる全ての宇宙も含めて創造主達の指導を行う。</p> <p>5人いる第13評議会の創造主のうち3人が、「すべての創造主を指導する創造主」を生みだした創造主により意識をコントロールされ「すべての創造主を指導する創造</p>

	主」を擁護し、地球のアセンションを妨害していた。
第12評議会	私達の宇宙とは異なる全ての宇宙も含めて創造主達の指導を行う。
	第12評議会のリーダー的存在である「すべての創造主を指導する創造主」が下位の評議会の創造主の働きを多様性のある宇宙を創るという事で擁護していた。そして自分もこの宇宙の実権を全て握るために、他の宇宙の創造主を巻き込みアセンションの妨害をおこなってきた。
第11評議会	私達の宇宙とは異なる全ての宇宙も含めて全ての宇宙の創造を行う責任者
	「感情に飲み込まれた創造主」が、「略奪の宇宙」「無機質の宇宙」「カオスの宇宙」などから高い能力を持つ創造主やダークピープルを地球に招き入れ、アセンションした世界の破壊をもくろむ。
第10評議会	私達の宇宙とは異なる全ての宇宙も含めて全ての宇宙の創造を行う責任者
	第10評議会の創造主達と対立する「混乱の宇宙を作った創造主」が地球にアセンションを妨害する為にさまざまな計画をめぐらし、自分達の宇宙の創造主を利用したり、他の宇宙からの創造主を招き入れる。
創造主の役割と墮落した理由	
第9評議会	私達の宇宙とは異なる全ての宇宙も含めて管理や指導を行う。
	「リセットの創造主」が、創造主の学びを行わせるために、下の創造主の正義感や判断力を忘却させ、混乱に陥れる。
第8評議会	全ての宇宙を見守り創造主達の指導を行う。
	私や恵理さんと同じスピリットを持つ創造主が、宇宙の様々な世界の探査を行う。
第7評議会	第9、第10評議会に、下の宇宙の出来事を報告する「全てを見渡す創造主」が「リセットの創造主」により正義感を失われ、支配欲を持ち「怒れる創造主」を作ったり、宇宙を支配のための企てを行う。
	全ての宇宙を見守り創造主達の指導を行う。 「全てを見守る創造主」がリーダー
第6評議会	上の評議会から闇を持った創造主として生み出された「怒れる創造主」が評議会に反乱を起こし全ての宇宙での闇の創造主の大元となる。
	全ての宇宙を見守り創造主達の指導を行う。

	<p>「全ての創造主の働きを持つ創造主」がリーダー</p> <p>「変化を促進する創造主」が、創造主を成長させたいという理由で宇宙に闇のエネルギーを流すが、本当の理由は宇宙の支配。</p>
第5評議会	<p>第4評議会が作った全ての宇宙を管理。「陽の働きを持つ創造主」がリーダー</p> <p>第4評議会の創造主達から騙されて闇に落ちた「暁の光の創造主」が下部の創造主の光を奪う。</p>
第4評議会	<p>1人1人の創造主が、独自に宇宙の原型を作り出し、スターピープルと下部の評議会に創造を委ねる。お互いの宇宙にはあまり関わらない。</p> <p>「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」が対立していたが共に闇の創造主となり、2人が手を組んで宇宙の支配をもくろむ。下部の評議会の創造主達を闇の創造主に仕立てあげていった。</p>
第3評議会	<p>「道を指し示す創造主」を中心に、第4評議会の創造主によって作られた宇宙の細かい部分を創造し運営する。他の創造主を信頼するあまり闇落ちた創造主を放置する。</p> <p>「宇宙の創造を管理する創造主」や「道を作り出す創造主」が闇の創造主となり、この宇宙を光の創造主から奪い取るために、闇の創造主達を地球の各地に配置しアセンションを妨害してきた。彼等は第4評議会の創造主に操作されていた。</p>
第2評議会	<p>「栄光の創造主」を中心に第3評議会によって作られた宇宙の創造と運営を手伝い、第1評議会の働きを管理し手助けを行う。様々な宇宙の中で大きな問題が起きた時はその解決にあたる。</p> <p>第3評議会の闇のエネルギーによって過去に創造主大戦争を引き起こした。今回も闇のエネルギーの影響で、第2評議会の中心的な創造主が闇に落ち、宇宙を混乱させ、アセンションを妨害し、私達にも大きなサイキック・アタックを行なった。</p>
第1評議会	<p>「源の創造主」をリーダーに「光彩の創造主」等が上の評議会から託された宇宙を具体的に運営する。また物理世界に生きる多くの存在達の成長を助け、宇宙連合へ迎え入れる。</p> <p>上位の評議会からの闇のエネルギーの影響で、第1評議会の創造主のリーダーである「創造主の独自性を育てる創造主」等、主だった創造主が闇の創造主となり大きな勢力を作り、光の創造主を圧倒していた。</p> <p>そのために地球を始め多くの宇宙に闇がはびこり、ダークピープルが宇宙を荒らしまわる事となった。</p>

物理的宇宙	宇宙連合によって生み出された宇宙、多くの銀河や星団に別れ独自に発展している。
	闇の創造主やダークピープルによって地球だけでなく多くの星々が闇が多い世界となり、人々の成長を阻害している。

PART 1 スターピープルの役割と組織

これから私達は宇宙連合と共に活動していく事になりますので、スターピープル達や創造主、宇宙連合の仕組みを皆さんにご紹介するところから始めたいと思います。

【スターピープル】

私達は、地球に住む地球人ですが、地球以外の星から来て地球に関わる地球外生命体達もたくさん存在しています。

彼等は、目的によって2つのグループに分かれます。

それは、地球人を成長させるために、人々をより良い方向へ導く善良な地球外生命体達（スターピープル）と地球を支配し地球人を自分達の思いのままに利用したいと考えている狡猾な地球外生命体達（ダークピープル）です。

良心的な地球外生命体達であるスターピープルは、天の川銀河の中でも、地球よりも早くアセンションを行い、宇宙のために活動している星々の人達の事です。

主にアンドロメダ座、シリウス、アルクツールス、プレアデイス星団の人々が、現在地球に関わっていますが、全て宇宙連合に属し、宇宙連合の計画と指示のもとに行動しています。

そして、各星固有のスターピープルとは別に、高度な叡智を持つ星々のメンバー達が集まって作られたアシュタールや銀河連合といったグループも存在しています。

彼等は常に、宇宙の進化のために下記のようにいくつかの役割を持って活動しています。

1 創造主をサポートして、宇宙を創造し運営する仕事。

2 創造された星々や星に住む種族が侵略されたり破壊的な状態になる事を防ぎ平和に保つ事。

3未だ十分に意識進化していない人々を導き成長させる事。

4ある程度の意識進化の段階になった人々をアセンションさせ、スターピープルに進化させる事。

彼等は、愛の度数や意識状態が高まるごとにアセンションを行ってさらに愛や叡智が高い状態へと移り変わっていきます。

アセンションが進むと、スターピープル達は物理的な体から半物理的な体に移り変わり、第6アセンションを超える頃には、ほとんどのスターピープルが物理的な体を失ってスピリット体へと変わっていきます。

宇宙連合でも肉体を持つスターピープルの多くが、第1評議会に属し、地球のように物理的な肉体を持つ種族や物理的な世界を持つ星々に直接関わる事ができます。

しかしアセンションが進み、完全に肉体を失うと特別な種族を除いて物理的な種族や世界に関わる事ができなくなりますので、宇宙の中でも他の役割を担う事になります。

それは、第1評議会や第2評議会のスターピープルのサポートや教育を行ったり、宇宙の平和を観察したりする事です。

更に成長したスターピープルになると、創造主と共に宇宙の創造を手助けする仕事を行うようになります。

それでは次に、どのようにして、通常生命体がスターピープルへと成長していくか説明しましょう。

スターピープルへの第1歩は、もともとその星に存在している生命体の中でも、これから叡智を持つ可能性があると思われる種族に、優秀なスターピープル達の遺伝子を組み込んで成長させる事です。

地球では、そのために選ばれたのが、類人猿と呼ばれる種族だったようです。

彼等は、意識が成長してくると村社会を作り、社会性や自我意識に目覚めてきます。

そして次の意識進化のための遺伝子操作を受けるまでに成長していきます。

やがて彼等は、長い期間をかけてスターピープル達から教育を受け、様々な技術や文化的な側面を成長させて文明を形成していきます。

スターピープル達は、彼等の社会にあまり介入する事なく、さまざまな機械技術や宇宙工学

などが発展するように、彼らの能力を高めていきます。

また、様々な技術のアイデアを、夢などを通して、人々に与え成長の手助けをします。

これもスターピープルになるためのトレーニングのひとつです。

そして人々が、ある一定の意識と愛の水準になったら、その星の種族にアセンションをおこして、大きな意識進化をもたらします。

最初のアセンションを通してもたらされる進化とは、自分達の星以外にも素晴らしい叡智を持っている人々（スターピープル）が存在し、それらの人々が宇宙の進化と平和のために貢献している事を知る事です。

そのために、スターピープル達が人々の前に現われ彼等を直接指導する事が起こります。

私達地球人は、現在、この第1アセンションを迎える時期となっています。

アセンションを通して目覚めてきた人々は、スターピープル達と共に活動を始め、宇宙に貢献できるようになります。

そしてその貢献が認められると、やがてスターピープルの一員となり宇宙連合へと加入する事になります。

宇宙連合へは、第1アセンションを行うと加入できますが、この時期はスターピープル見習いとして、先輩のスターピープルと共に活動します。

やがて第1アセンションを終えた人々が更なる成長を遂げると、愛の度数も高まり第2アセンションを迎える事ができるようになります。

第1アセンションを迎えるためには、自分達の種族や叡智あるスターピープル達を愛し尊敬する事を学びますが、第2アセンションを迎える為には、自分達の種族だけでなく、未だ発達途上の種族も含め、この宇宙に存在する多くの種族達を平等に愛する事ができるようにならなくてはなりません。

なぜなら、第2アセンションを成し遂げたスターピープル達は、まだ十分な意識の成長を成し遂げていない種族の人々と単独で関わる事になるからです。

この時に高い愛の意識に達していないと、まだ十分に成長していない種族にたいして、彼等を尊重するのではなく彼等を自分達に服従させたり、自分達のやり方を押し付けたりしてしまい、彼等の意識の成長を妨げてしまうからです。

第1評議会のスターピープル達は、第6アセンションを達成すると第2評議会へと移ります

が、この時はすでに肉体としてではなくスピリット体として働く事になります。
そして、今まで培ってきた経験をもとに第1評議会のスターピープルを指導したり、創造主のお手伝いをする事になります。

【ダークピープル】

スターピープルにたいして、闇のエネルギーに飲み込まれて、自分達の欲望のために活動する種族を、ダークピープルと呼んでいます。

例えば、オリオン星人やアルクツールス星人のように同じ星の人々でも、進化の過程でアセンションを繰り返してスターピープルになる種族もいれば、ディセンションしてダークピープルになる種族もいます。

ダークピープルになる種族は、闇の創造主によって彼等の部下にされ、未発達な星の人々を、闇の創造主に従属させたり支配するために働かされる事が普通です。

彼等自身も本来は純粋な気持ちを持っているのですが、支配欲や攻撃欲などがかきたてられ、愛の心を失っていきます。

すると、彼等はどんどん欲に染まって、自分の意思で人々を攻撃し支配する事を好むようになり、ディセンションを繰り返す事となるのです。

ディセンションを繰り返すたびに、ダークピープルは闇の力を身に着け強力なパワーを持って未発達な種族を支配するようになります。

今迄の地球の歴史がそうでした。

争いや奪い合いが繰り返され、人々は人間としての尊厳を失い、殺されたり傷つけたりされてきました。

経済が発展している世界では、多くの人々が一部の裕福な人のための奴隷として無理やり働かされてきました。

そして科学技術が発展すると核兵器や原子力発電など人々や地球環境に大きなダメージを与える技術も作られ、地球の破壊へと人類は歩いていくのです。

私達のアセンションへの道のりは、まさにこの地球人を支配してきたダークピープルや彼等を操る闇の創造主との戦いでした。

現在は、今までの地球を、闇が多い地球と光が多い地球に分け、闇が多い地球は今までの地

球と同じく闇の創造主やダークピープル達が支配しますが、光が多い地球は、ダークピープルや闇の創造主はすべて排除され、スターピープル達が見守り、アセンションしていく人達を育てるための地球となっていくます。

本来アセンションは、その星にすむ種族達がすべて同じように意識進化していくのですが、この地球に関しては、1人1人の意識が多様化しており、愛の度数も精神の発達具合も全く異なりますので、全ての人と同じようにアセンションする事はできませんでした。

その大きな要因が、このダークピープルとどのように関わっているかという事でした。

同じ日本人でも、他人に優しくして貢献したいと考える人もいれば、他人をだましてもお金を儲けたいと考える人もいます。

また、自然災害などで困っている人を助けたいと考える人もいれば、自分の欲望のために他人を傷付けたり利用したりする事を平気で行う人もいます。

それらの事柄がすべてダークピープルのせいであるというわけではありませんが、彼等のエネルギーが大きく関わっている事は確かです。

ダークピープル達は、スターピープル達が地球人に関わる事で、地球人が目覚めアセンションしていく事を大変嫌い、常に私達の妨害をしてきました。

それは、1人でも多くの地球人を欲望の虜にしてディセンションさせ、自分達の支配下に置いて利用してきたいからです。

人々はその事に気づかず、自分達の欲望のままに生きていくと、争いや支配欲に満ちた世界から抜け出す事ができなくなります。

そして、自らもディセンションしてしまうのです。

私達は、地球の人々が1人でも多くアセンションしてスターピープルになれるように、ダークピープル達を処理したり、地球人に大きな影響を与えている闇の創造主達を光に返してきました。

彼等に捕えられている皆さんのスピリットの一部も開放して、地球の人々がスピリットの統合を果たし、自分が本来持っている「愛」のエネルギーに目覚める事ができるように努力してきましたが、人々が自ら、自分が持っている愛に気づき、自分のスピリットを受け入れる事ができなければ、その人は何も変わる事はできません。

地球は2019年の末までに大きく分離されていきますので、それまでに光が多い地球へと

入って頂き、スターピープルへの道を歩んでいただきたいと思います。

PART 2 創造主の目的と区分について

地球では、創造主というのは唯一万能な存在であり、過ちなどを犯すはずはない存在とされています。

また愛に満ち、多くの人を慈悲の心で助けてくれる存在だと思われていますし、私もそう思い続けてきました。

しかし、私達はアセンションを進めるにつれて様々な創造主に会いました。

そして分かった事は、創造主は唯一無二の存在ではなく、役目や階級に応じて無数に存在しているのだという事です。

そして全ての創造主が、万能であり過ちを犯すはずがないという考え方は大きく間違えているという事です。

もちろん、私があった創造主の中にもその様な尊敬すべき創造主はいましたが、本当に僅かでした。

創造主の中には、自分の欲望やエゴに負けてしまい、この宇宙を自分が好きなようにしたいと考え、自分の部下にあたる創造主やスターピープル達を利用して、地球人や多くの星の人々を支配しようとする創造主達もたくさんいたのです。

もし、全ての創造主が、愛と慈悲に満ちていたなら、この地球のように戦争や侵略、あるいは殺人や暴力、経済的な抑圧や自然破壊などは決して起こらなかったでしょう。

創造主自身が暴力と支配を好むからこそ、地球のような闇が深い世界が生まれてきたのです。ギリシア神話に出てくる最高の神であるゼウス神も自分の欲望の赴くままに、女性達をさらいたくさんの子供を生み落させました。

もちろんこれは神話ですが、ゼウスと同じように自分達が作った宇宙は自分達が自由勝手に扱ってもよいと考える創造主達が、実はたくさん存在しているのです。

ではなぜ、その様な存在が創造主としてこの宇宙に君臨しているかという事をお話ししましょう。

それは簡単な答えです。

創造主から宇宙の創造と運営をするために作られた存在だから創造主なのです。
創造主は肉体を持ちませんので、誰かの体から生まれて成長していくわけではありません。
上位の創造主から目的に応じて、自分の光を分けて作られます。
高次の光には意識や能力が伴いますので、光を分かち与えられて生まれた創造主は、生みだしてくれた創造主の能力と資質の一部を持つ事になります。
その資質と能力を使用して、上位の創造主の指示のもとに宇宙の創造や運営を行い、与えられた任務を果たします。

生みだされた創造主は、自分を生みだしてくれた創造主には絶対に逆らう事はできません。
逆らった場合には、自分の元となった創造主の光のもとに返される事となります。
私のPDFブックをお読みの方はお分かりかと思いますが、私は、問題がある創造主に対処する場合には、必ずその創造主を生みだした創造主か一つ上の創造主にあらかじめ相談して処理を行なう了承を取り付けます。
そして問題がある創造主を問い詰め、問題がある創造主が自分の罪を認めるか、その創造主を生みだした創造主が、更生の余地がないと認めた場合には、上位の創造主の判断によって、問題を起こした創造主を光に返す事ができるのです。

私は、多くの創造主が行ってきた事を調べる為に、地球の物理次元に生まれ、2013年から6年をかけて一つ一つ宇宙の次元を上がり、下の階級の創造主から宇宙を創造する役目を持つ創造主の位置にまでたどり着きました。
そして、1人1人の創造主の働きを見ながら問題がないかを調べてきたのです。
問題がある創造主は、私達の活動や地球のアセンションに対して大きな妨害を働いてきます。
すぐには分からなくても、一緒に行動しているうちに、私達を裏切るような行為をしたり、闇の創造主の命令をうけて私達を畏にかけようとしています。

何故地球人の私が、創造主の世界に入り、創造主の問題を明らかにして創造主を光に返す事ができるか不思議でしたが、地球のアセンションが進むにつれて、高次元の創造主が、多くの創造主の墮落にすでに気づいていたために、私を地球に降ろし、創造主が犯している罪を調べ上げる役目を私に与えたという事が分かってきました。

地球のアセンションは、地球に住む人々にとっては、自分達の意識を高め、スターピープルになるための第1歩ですが、高次元の創造主にとってみれば、墮落した創造主や闇に落ちた創造主を探し出し、彼等を光に返す事で、まともな創造主だけが残る宇宙を創るための壮大

な計画があったようです。

次に創造主のレベルについて大きくご紹介しますが、レベルに関しては、私が簡易的に区分けしたものです。

★物理世界を持つ宇宙

○第1レベル 天の川銀河の中の創造主

階層としては一番下の階層の創造主です。主に星々や星座の働きを保ち、星に存在する生命達を生みだします。

彼等は星座の創造主とも呼ばれています。

その上には、天の川銀河全体の管理と創造を行う創造主もいます。

○第2レベル 局部銀河の創造主

私達にとって観測可能な宇宙（ユニバース）の中でも、天の川銀河やアンドロメダ銀河を含む局部銀河が一つの宇宙の単位となっています。

この局部銀河を治める最高の創造主は、私達が「界王」呼んでいる創造主で彼のもとに多くの創造主が役割を分担して存在しています。

私は、局部銀河の運営にたずさわる創造主を「グレートゴッデス」と呼んでいます。

特にグレート・イエスやグレート・マリアは地球の事をとても大切にしてくれています。

○第3レベル 観測可能なユニバースを統治する創造主

物理的な世界を持つ宇宙（ユニバース）を直接統治する創造主達です。

主に第4レベルの創造主に対応する創造主達がいて、第4レベルの創造主の指示のもとに単一宇宙であるユニバースを運営しています。

○第4レベル 多次元宇宙を統治する創造主

観測可能な宇宙だけでなくパラレルワールドも含む多次元宇宙を統治する創造主達の世界で

す。

そのリーダーは、エンソフと呼ばれる創造主です。彼のもとに、星々を創造する創造主、人々の運命を司る創造主、宇宙の安定を保つ創造主、ドラゴンや精霊を生み育てる創造主、4大エレメントを駆使して宇宙を創造する源のエネルギーを作る創造主、叡智ある存在が適正に育っているか調べる創造主などが存在して、多次元宇宙の創造と運営を行っています。

★スピリチュアルな宇宙

○第5レベル 物理的な宇宙を創造し運営する創造主

このレベルの創造主からは、たくさんの階層と役目を持った創造主が存在します。

物理的な宇宙を創造し運営する役目を持ち、私達の物理世界にも関われる創造主達です。

第1評議会の中心的な創造主達になります。

リーダーは、「源の創造主」「光彩の創造主」で宇宙のスーパーコンピューターを管理する創造主なども含まれます。

○第6レベル 物理的な宇宙を管理しスピリチュアルな宇宙を創造する創造主

主に第2評議会、第3評議会の創造主達で、上位の評議会の創造主の指示のもとにスピリチュアルなレベルでも宇宙を創造していきます。

彼等は、上位の評議会の決定を自分達の評議会で議論し、どのような方法で宇宙の創造と運営を実行するか決めて行動します。

○第7レベル スピリチュアルな宇宙を創造する創造主

主に第4評議会の創造主で、物理的な宇宙の元となるスピリチュアルな宇宙を作ります。

この宇宙の原型を基に、第3評議会と第2評議会の創造主やスターピープル達がスピリチュアルな宇宙の細かい創造を行います。

彼等は、マルチな能力を持つ創造主で1人1人が独立して、自由に宇宙の創造を行う権利が与えられています。

○第8レベル 創造された宇宙の管理を行う創造主

第5評議会以上の創造主達は、宇宙の創造は行いませんが、彼等よりも下の評議会の創造主が作った宇宙が適切に運営されているかどうかの検査を行っています。

非常に高い能力を持っている事はもちろんですが、どの次元にも自由に入る事ができ、多くの宇宙を見守っている創造主です。

○第9レベル いくつもの宇宙を管理する創造主

第9評議会以上の創造主達は、私達の宇宙以外にもいくつもの宇宙に関わり創造や管理を行うようになります。

○宇宙連合の評議会について

宇宙連合は、私達の天の川銀河やアンドロメダ銀河だけでなく多くの星団や星雲が含まれる宇宙をいくつも束ねた大宇宙を見守るグループです。

私達は、宇宙の本当の姿を未だ知りませんが、私達にとって観測可能な宇宙をユニバースと呼ぶのなら、そのユニバースの中に存在している創造主やスターピープル達の連合と考えるのもよいと思います。

しかしこのユニバースの中にも計り知れない銀河が存在しているのも事実です。

また、私が語る話はスピリチュアル・レベルの話ですので、実際の天文学の話とはかなり異なるという事だけをご理解ください。

先ず宇宙連合は、宇宙を創造し運営する創造主達とその仕事をサポートするスターピープル達の集まりです。

創造主やスターピープルの能力や資質、そしてその働きによって異なる階層の評議会に別れて活動しています。

その階層のリーダー的な創造主達とスターピープル達によって評議会の会議が行われ、自分達の行動が決定されます。

第1評議会は、宇宙連合では一番下の評議会として、物理的な宇宙の運営に当たります。

第1評議会は、創造主もスターピープルも最も数が多く、その役目也多岐にわたります。この評議会に属するスターピープル達は、物理的もしくは半物理的な体を持つスターピープル達ですので、地球を始め物理的な世界を持つ他の星々にも関わる事ができます。そして、地球人も含めて、まだ十分に成長していない人々に対して、意識進化のための様々な取り組みを行います。

宇宙連合の第1評議会は、物理世界を持つ多くの銀河や星団に関わり、その銀河や星団、もしくは星々の平和を守るための活動を行います。

第1評議会の中には、アシュタール連合のように独自のグループを作って活動している者達もいますが、彼等も第1評議会の指示のもとに動いています。

また第1評議会は、スターピープルの説明のところでご紹介したように、未発達な星々の種族を成長させスターピープルへと導く仕事も行っています。

この宇宙の中で一つでも多くの種族が愛と叡智に目覚めて宇宙の平和のために貢献できるようにする事が第1評議会の目的でもあります。

第2評議会と第3評議会は、スピリチュアルな宇宙と物理的な宇宙の創造に当たります。

もちろん物理的な宇宙に関しては、第1評議会が中心となって創造活動を行うようですが、第1評議会を指導し、より良い宇宙を創る事が彼等の仕事でもあります。

しかしながら、これからのレポートでもご紹介するように、第4評議会に属する創造主が闇に落ちてしまった事で、第3評議会、第2評議会の創造主達も大きな闇に巻き込まれる事になりました。

その結果、第3評議会のほとんどのスターピープル達が闇の世界に閉じ込められ、第3評議会の仕事が順調におこなわれていないという事態に陥っていました。

第4評議会は、スピリチュアル・レベルの宇宙の創造を行い、物理的な宇宙のひな型を作り出していきます。

この第4評議会の創造主は、自分が創造する宇宙の全てを任されているので、自分の考えだ

けで独自の宇宙を作り出す事ができます。

第5評議会から上の評議会は、物理的な宇宙の創造には関わりませんが、創造主達を指導したり、下の階級の創造主が作り出した宇宙を検査する役目を持つ創造主達の世界です。

第5評議会の創造主達は、宇宙創造に必要なエネルギーを、第4評議会の創造主達に供給します。

第4評議会の創造主が闇に落ち地球の支配を計画している事が分かったと、他の評議会の創造主やスターピープル達では対応できないので、彼等が中心になって地球の物理世界を調べ、この創造主達を処理する役目を担ってくれました。

	スターピープルの特質
第5評議会以上	非常に能力が高いスターピープル達が他のスターピープル達を指導。
第4評議会	創造主達が宇宙を創造するために必要なエネルギーや技術を提供するための特別な能力を持つスターピープル達が存在している。 ネターシャ達の種族
第3評議会	第10アセンション以上のスターピープル達。 グルナレッドやミスト星人等。宇宙のエネルギーの適正化を行ったり、宇宙の健全な運営を担うための働きをする。 グルナレッド達の種族
第2評議会	第5アセンションから第10アセンションのスターピープル達。 ロッド星人やエリシタールなどが属し、第1評議会のスターピープルを助けて、叡智ある存在の成長を手伝う。
第1評議会	第1アセンションから第5アセンションまでのスターピープル達。アシュタール連合や様々な星のスターピープルによって構成され、宇宙の平和と成長を守り各星の人々の意識進化を手助けする。
物理的宇宙	スターピープルとダークピープルが存在。アセンション前の存在達は宇宙連合には入れない。

○光りの世界の区分

ここでは、まず光の地球といっても一つではなく、光に依拠していくつもの地球に分かれている事をお知らせしておきます。

そして、ここでは大まかに60%台、70%台と書いていますが、本当は、1%単位で世界が異なっていますが、大まかな区分のみで説明させていただきます。

地球の光と闇の割合は、およそ光40%、闇60%、現在はもう少し光の割合が多い世界のようなようです。

この割合の世界では、闇の力が強いので、戦争やテロ、殺人や虐待、人種差別などが起こりますが、光の割合が50%を超えると、戦争や殺人などもほとんど起こらなくなりますが、まだ学びが必要な人には、その学びにふさわしい事が起こります。

60%台になると、愛と調和に満ちた人々が増えてきますので、人間としての完成を目指すような学びが始まります。

しかしそれは争いなどの人を傷つける事ではなく、どれほど愛を注げるか、とかどれほど人のために尽くせるかなどといった、とてもポジティブな学びになります。

また人々も、言葉でなく意思疎通ができるようになりますので、嘘を言ったり心の中に隠し事ができなくなるような世界になるかもしれません。

そしてさらに大切な事は、スターピープル達に対する理解が求められるようになります。

更に光りの度合いが70%よりも強くなると、学びが少なくなり、愛と共に生きるようになりますので、争いや差別などもほとんど起こらずに調和に満ちた世界が繰り広げられます。

生きている人では70%台が最高クラスになるようです。

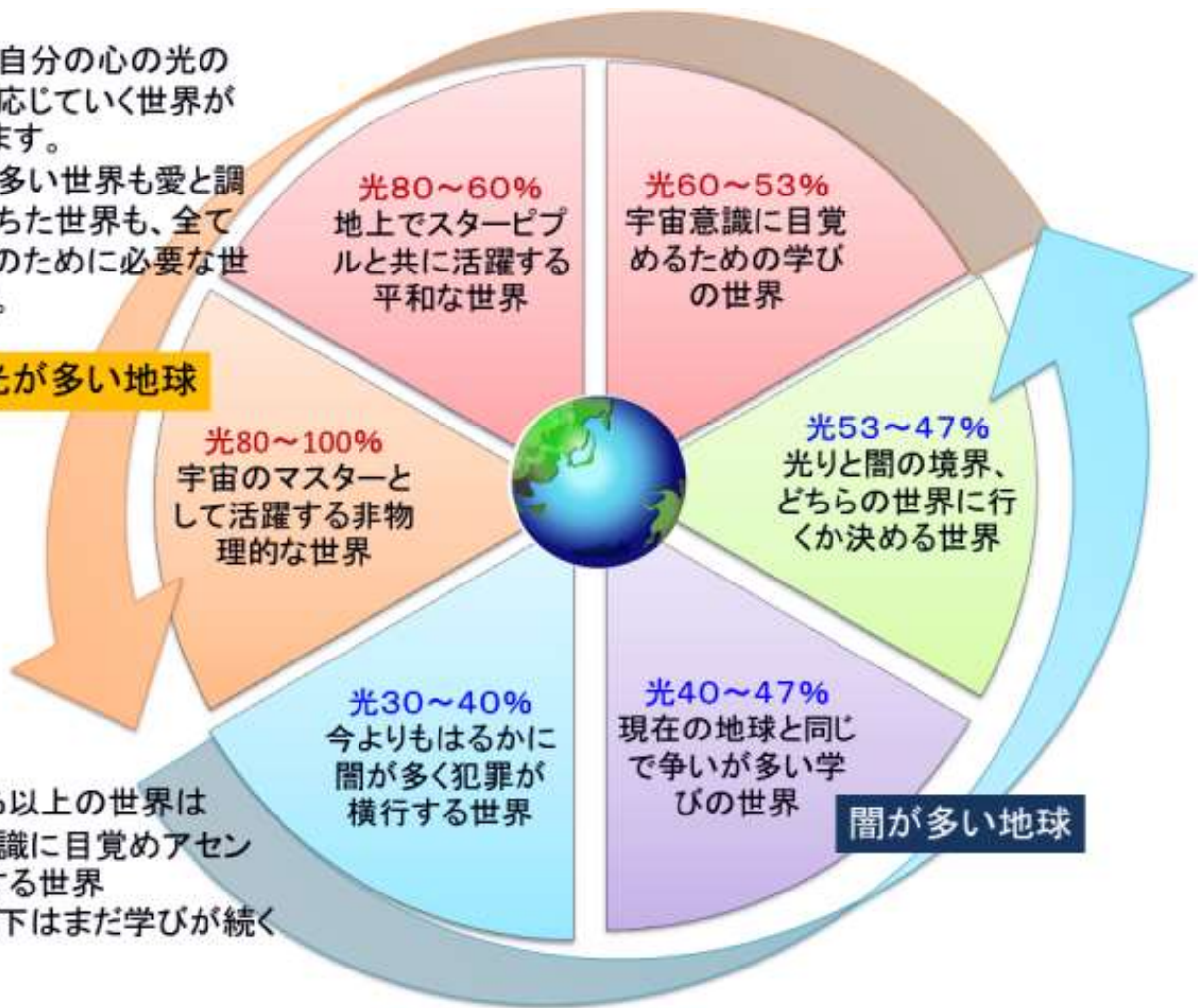
更に光りの割合が80%を超えると、もう物理世界に生きている人はほとんどいなくなり、宇宙の運営に関わる仕事を始める事でしょう。

それでは、どのような人がどのような世界に入れるか、創造主の極秘事項ですが、こっそりお教えしますので、少しでも上の世界に入れるよう努力してください。

またこの事は、私達の主観ですので、違ふと思う人は信じる必要はありません。

人間は自分の心の光の状態に応じていく世界が決まります。
 学びが多い世界も愛と調和に満ちた世界も、全てあなたのために必要な世界です。

光が多い地球



闇が多い地球

光50%以上の世界は宇宙意識に目覚めアセンションする世界
 50%以下はまだ学びが続く世界

<p>光90%台の世界 宇宙のマスターの世界</p>	<p>宇宙の管理者として働くスピリチュアルな存在達の世界。 憎しみや争いなどとは無縁で愛と調和のみが存在する世界。 また宇宙の管理者となるべく学びを行う世界。 自らが愛と光りになるために学びを行うスピリット達の世界。</p>
<p>光80%台の世界 宇宙と地球に生きるマスターの世界</p>	<p>宇宙のために働くスピリチュアルな領域に生きる人々。 自らもスターピープルとなり、宇宙の中にある様々な問題の解決のために働く事を喜びとしているスピリット達。 ここに入る人は、宇宙で起きている事を深く理解し、常に真実を求め努力してきた人。 地球においては、地球の中にある不正を知り、それを正すために戦い、</p>

	<p>地球と地球に生きる人々を自由で平和な者にするために常に努力してきた人々。</p> <p>この地球の闇を知らながらも、憎しみを捨て愛によって生きてきた人達。人間としてのエゴを捨て、自分の人生を他人のために奉仕してきた人達。</p>
<p>光70%台の世界</p> <p>物理的な光の地球での指導者の世界</p>	<p>光80%の人達と同じように、地球の闇と闘い続けてきた人達の中で、自分のエゴや欲望を捨て、愛の人として生きる実践を行う人々。</p> <p>またスターピープルの事を深く知り、彼らと共に働ける人。</p> <p>自分の感情に振り回されずに常にニュートラルな立場にあって真実を追い求める人</p> <p>地球と人の事を、愛をもって考え行動してきた人達が、肉体を失った後に行く世界。</p> <p>現実世界に生きる人も少数存在し、地球の人達が光りの世界に行くためのサポートをスピリチュアル・レベル、現実レベルで行う。</p> <p>60%台の世界の学びを終えてからこの世界に来る事が多いようです。</p>
<p>光60%台の世界</p> <p>地球では光の世界として新しく生まれた世界。</p> <p>宇宙意識に目覚めるための世界</p>	<p>60%台の後半の人は・・・</p> <p>常に正義と愛のために生きてきた人。</p> <p>欲望に振り回されず、欲望と感情を上手にコントロールできて、自分の中の光と闇を統合してきた人。</p> <p>スターピープルの事を理解し上手に付き合う事ができる人</p> <p>この世界は、さらに上の世界に行くための通過点として、肉体をもって学びを行う人達が入る世界。</p> <p>少数民族の人達の仲でも、一般社会を知らながらも、その社会に毒されず、常に祈りを行ってきたシャーマンや神官、少数民族の文化やしきたりを守ってきた人々。</p> <p>ここに属する人は、これからの「光の地球」をしっかりと守護し、人々を導いていく立場にある。</p> <p>60%前半の人は・・・</p> <p>光の世界にはいる為の教育が行われる世界。</p> <p>地球や宇宙の仕組みを学ぶために生きてきた人達で、さらにその学びを</p>

	<p>続ける人。</p> <p>しっかりと愛や調和を目指して生きてきたが、まだ十分に実現出来ておらず、自分の中の光と闇もしっかりと統合できていない人。</p> <p>周りの人に対して愛と奉仕の気持ちを持って生きてきたが、今まで宇宙や地球に対しての理解も十分でなくスターピープルの事もよく知らない人達が、学びを行うための場所。</p> <p>この世界では争いや戦争、差別や虐待もなくなり、地球人同士でも愛に基づいた関係がはじまり、安らぎと光りに満ちた世界が生まれてくる。</p>
<p>光 56% ~ 59%の世界 光が多い学びの世界</p>	<p>この世界からアセンションした世界としてスターピープル達により保護される世界になります。</p> <p>今の地球よりはさらに光がある世界で、戦争や争い、虐待、殺人などは減り、愛と調和に満ち、自然破壊などもなくなり環境問題も解決していく世界となるでしょう。</p> <p>この世界に行く人は、今の世界でも良心を持って生きてきた人で、人の役に立ちたいと考えてきた人達です。</p> <p>そして、地球人としての進化を望む人がこの世界に入り、光の世界へ入るための学びを行います。</p> <p>この世界の学びは「愛の実践」です。</p> <p>宇宙の愛を身につけ、人のために奉仕する事がこの世界の学びとなります。</p> <p>この世界で学びを終わった人は、本格的なアセンションの世界である光60%以上の世界に生まれ変わります。</p> <p>強い欲望や支配欲を持った人や人と争う事が好きな人は入れません。 人をだました人、人に不正を働く人、自己中心的な人は入れません。</p>
<p>光 47% ~ 55%の世界 光と闇の境界の世界</p>	<p>ここは光りの世界と闇の世界の境界線にあたる世界で、中間の世界とも呼ばれています。</p> <p>現在の地球よりは、光が強くなりますので、戦争や虐待などはすこしずつ減ります。</p> <p>時間がたつにつれ、現在よりはまともな政治家や経済人が現れ、社会の変革も進むでしょう。</p>

	<p>この世界にはいる人は、戦争や支配、抑圧のある世界を嫌っている人で、もっと愛に満ちた世界、調和のある世界に入りたいと考えている人達です。</p> <p>また他人のために役に達たいと思い行動している人や他人に親切にする事が好きな人達がこの世界に入ってきます。</p> <p>ただしこの世界には、狡猾な地球外存在達もすでに入り込んでいるので社会の混乱や自然災害も起こりますので、その様な事を乗り越えていく事が、この世界の人々の学びとなります。</p> <p>ヒーリングやスピリチュアルな仕事をしている人でも、人々の幸福のために働いている人は、この世界に入りますが、物欲や支配欲、名誉欲のためにしている人は、ここからさらに下の世界に行く事になります。</p>
<p>光40%～47%の世界 現在の地球と同じ学びの世界</p>	<p>ここからが、アセンションとは反対にディセンションした世界となります。</p> <p>光40%台の世界は、今までとほとんど変わらない世界で、戦争や争い、テロ、詐欺、レイプ、傷害などが日常的に起こっている世界です。</p> <p>経済的な侵略によって、世界の人々は貧富の差が激しくなり差別を受けます。</p> <p>宗教、技術、論理もすべてが争いのために利用されます。</p> <p>この世界に行く人は、自然災害や戦争、原発の事故なども含め、現在の地球が体験する未来をともに体験する事になります。</p> <p>現状の世界を好みお金儲けやぜいたくな生活をしたい人達、人や自分や他人にたいして不誠実な生き方をしてきた人達は、この世界にそのまま残るようです。</p> <p>他人を支配をしようと思う人、他人に依存したり、他人支配される事を好む人もこの世界にとどまります。</p> <p>この世界は多くの地球外生命体達も存在しますので、彼等の支配を受けず自立していく事が、この世界の学びとなるでしょう。</p>
<p>光30%台の世界 闇が多い学びの世界</p>	<p>今の地球よりもさらに闇が多くなりますので、現在よりも状況がはるかに悪くなります。</p> <p>戦争やテロが多発し、多くの人が争いや原発事故、自然災害に巻き込まれ苦難の多い人生を送る事になるでしょう。</p>

	<p>そして人々はその中で多くの事を学び目覚めていくための機会を待つ事になると思います。</p> <p>この世界には、多くの欲望に取り付かれ、他人を支配したり傷つける事を好んで行ってきた人達がいる世界になると思います。</p>
--	---